

# 琵琶湖博物館業績目録

15 号

2010 年度



LAKE BIWA MUSEUM  
琵琶湖博物館



琵琶湖博物館業績目録

第 15 号

2010 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2011 年 8 月

*Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 15*

*From April 2010 to March 2011*

*Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: SATOGUCHI, Yasufumi)*

*Published by the Lake Biwa Museum*

*Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan*

*© Lake Biwa Museum, August 2011*

*All rights reserved*

## 目 次

収録内容 .....	3
<b>館長</b>	
篠原 徹 SHINOHARA, Toru .....	5
<b>上席総括学芸員</b>	
前畑 政善 MAEHATA, Masayoshi .....	10
用田 政晴 YODA, Masaharu .....	15
高橋 啓一 TAKAHASHI, Keiichi .....	18
グライガー, マーク J. GRYGIER, Mark Joseph .....	22
<b>環境史研究担当</b>	
山川千代美 YAMAKAWA, Chiyomi .....	27
里口 保文 SATOGUCHI, Yasufumi .....	30
奥村 浩匡 OKUMURA, Hirotada .....	34
橋本 道範 HASHIMOTO, Michinori .....	36
宮本 真二 MIYAMOTO, Shinji .....	39
楊 平 YANG, Ping .....	43
老 文子 OI, Fumiko .....	47
<b>生態系研究担当</b>	
寺尾 尚純 TERAU, Naozumi .....	50
松田 征也 MATSUDA, Masanari .....	53
桑原 雅之 KUWAHARA, Masayuki .....	57
八尋 克郎 YAHIRO, Katsuro .....	60
亀田佳代子 KAMEDA, Kayoko .....	64
牧野 厚史 MAKINO, Atsushi .....	69
芳賀 裕樹 HAGA, Hiroki .....	71
大塚 泰介 OHTSUKA, Taisuke .....	74
碓 登志之 HAZAMA, Toshiyuki .....	79
草加 伸吾 KUSAKA, Shingo .....	82
中井 克樹 NAKAI, Katsuki .....	85
榊永 一宏 MASUNAGA, Kazuhiro .....	97
スミス, ロビン J. SMITH, Robin James .....	100
磯田 能年 ISODA, Takane .....	102
<b>博物館学研究担当</b>	
秋山 廣光 AKIYAMA, Hiromitsu .....	104
戸田 孝 TODA, Takashi .....	107
楠岡 泰 KUSUOKA, Yasushi .....	110

芦谷美奈子	ASHIYA, Minako	114
中藤 容子	NAKATO, Yoko	115
大依 久人	OHYORI, Hisato	119
飯住 達也	IIZUMI, Tatsuya	122
<b>嘱託員</b>		
齊藤 慶一	SAITO, Keiichi	126
藤岡 千裕	FUJIOKA, Chihiro	128
山田 陽子	YAMADA, Yoko	130
<b>名誉学芸員</b>		
川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	132
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	135
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	140
<b>特別研究員</b>		
天野 一葉	AMANO, Hitoha	141
植田 文雄	UEDA, Fumio	142
柏尾 珠紀	KASHIWAO, Tamaki	143
北村 美香	KITAMURA, Mika	145
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	147
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito	149
中井 大介	NAKAI, Daisuke	150
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	152
水野 敏明	MIZUNO, Toshiaki	153
閻 美芳	YAN, Meifang	155
朱 偉	ZHU, Wei	156
<b>総合研究・共同研究による印刷物</b>		
		158
<b>2010 年度の研究活動をふりかえって</b>		
		160

## 収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2010年4月から2011年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

## 一年間の研究

### 印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

### 研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

### 博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
  - 琵琶湖博物館の主催行事
  - 他の博物館・機関等主催行事
  - 視察対応
  - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
  - 琵琶湖博物館の活動
  - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】
  - 琵琶湖博物館の活動
  - 他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

## 館長

## 印刷物

## 【一般向けの著作】

- 篠原 徹 (2010) 湖岸より 53 蕪村の食い意地背景に. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年4月10日.
- 篠原 徹 (2010) シートンと日本の霊長類学. *グラフィケーション*, 168, 富士ゼロックス株式会社, 東京: 14-16.
- 篠原 徹 (2010) 暮らしと自然とのかかわり合い. *フィールドレポーター掲載板*, 59, 琵琶湖博物館: 1.
- 篠原 徹 (2010) 自然を詠む一俳諧・俳句と民俗自然誌. *BIOSTORY*, 13, 株式会社誠文堂新光社, 東京: 64-66.
- 篠原 徹 (2010) 湖岸より 62 芭蕉が詠んだ湖の風景. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年6月12日.
- 篠原 徹 (2010) 私が思う滋賀の魅力 近江×私が考える鄙美の引力 鄙美. *鄙美*, 1, たねやグループ, 近江八幡: 18.
- 篠原 徹 (2010) ごあいさつ. 桑原雅之 編, 第18回企画展示展示解説書「湖底探検〜びわ湖の底はどんな世界?〜」, 琵琶湖博物館, 草津: 1.
- 篠原 徹 (2010) 草原の思考. 中国環境問題研究拠点 編, *天地人*, 10, 総合地球環境学研究所, 京都: 12-13.
- 篠原 徹 (2010) 琵琶湖の生き物、そして文化の多様性を考えるきっかけに. 第5回よし笛定期演奏会後期プログラム, 琵琶湖博物館日本よし笛協会.
- 篠原 徹 (2010) 民俗の技術と在来農業の関係. *農業*, 1536, 社団法人大日本農会, 東京: 28-41.
- 篠原 徹 (2010) 湖岸より 71 鉄道沿線の景観も変化. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年8月14日.
- 篠原 徹 (2010) 民俗の技術と在来農業の関係ー第3回「今後の農業技術開発・普及機能のあり方に関する研究会」(第2部)ー. *農業*, 1537, 社団法人大日本農会, 東京: 23-36.
- 篠原 徹 (2010) ごあいさつ. *琵琶湖博物館年報*, 14, 琵琶湖博物館: 1.
- 篠原 徹 (2010) 湖岸より 80 湖全体が地域博物館. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年10月16日.
- 篠原 徹 (2010) 読書のすすめ2010. *全科協ニュース*, 40 (6), 全国科学博物館協議会, 東京: 2-3.
- 篠原 徹 (2010) 京都創才凛談自然を創る文化を創る. *京都新聞*, 京都新聞COM: 2010年12月10日.
- 篠原 徹 (2010) 湖岸より 89 歴史的に奥深い奥琵琶湖. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年12月18日.
- 篠原 徹 (2010) *自然を詠む*. 飯塚書店, 東京: 182p.
- 篠原 徹 (2010) 中国に里山はあるか?ー環境資源と生活世界ー. 第54回プリマーテス研究会記録, 財団法人日本モンキーセンター, 愛知: 10-12.
- 篠原 徹 (2011) 湖岸より 98 文化の伝播者近江商人. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年2月26日.
- 篠原 徹 (2011) 思想の道具化と道具の思想化. *月刊みんぱく*, 402, 人間文化研究機構国立民族学博物館, 大阪: 5.
- 篠原 徹 (2011) ここだけの湖の話〜琵琶湖博物館の研究室から〜10 自然と人間の関係探る. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年3月3日.
- 篠原 徹 (2011) 生物多様性インタビュー9. *生物多様性インタビュー*, 環境省中部地方環境事務所, 名古屋: 60-71.

## 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 篠原 徹 (1990) *自然と民俗心意のなかの動植物*. 日本エディタースクール出版部, 東京: 256p.
- 篠原 徹 (1995) *海と山の民俗自然誌*. 吉川弘文館, 東京: 304p.
- 篠原 徹 (1998) *アフリカでケチを考えた*. 筑摩書房, 東京: 208p.
- 篠原 徹 編 (1998) *民俗の技術. 現代民俗学の視点*, 1, 朝倉書店, 東京: 272p.
- 篠原 徹 編 (2001) *近代日本の他者像と自画像*. 柏書房, 東京: 344p.

- 篠原 徹 (2002) *自然とつきあう*. 小峰書店, 東京: 119p.
- 寺島秀明・篠原 徹 編 (2002) *エスノ・サイエンス*, *講座生態人類学*, 7, 京都大学学術出版会, 京都: 290p.
- 篠原 徹 編 (2003) *越境. 現代民俗誌の地平*, 1, 朝倉書店, 東京: 245p.
- 篠原 徹 編 (2004) *中国・海南島焼畑農耕の終焉. 島の生活世界と開発*, 2, 東京大学出版会, 東京: 208p.
- 大塚柳太郎・篠原 徹・松井 健 編 (2004) *生活世界からみる新たな人間-環境系. 島の生活世界と開発*, 4, 東京大学出版会, 東京: 207p.
- 佐藤 誠・篠原 徹・山崎光博ほか 編 (2005) *グリーンライフ*. 農山漁村文化協会, 東京: 216p.
- 篠原 徹 (2005) *自然を生きる技術-暮らしの民俗自然誌-*. 吉川弘文館, 東京: 203p.
- 篠原 徹 (2010) *環境民俗学からみた人びとの暮らし*. 池谷和信 編, *日本列島の野生生物と人*, 世界思想社, 京都: 67-81.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 篠原 徹 (2010年4月26日) *民俗の技術と在来農業の関係*. 社団法人大日本農会, 第3回今後の農業技術開発・普及のあり方に関する研究会, 社団法人大日本農会 (東京), [口頭発表].
- 篠原 徹 (2010年10月30日) *黒島民族誌-島譜のなかの神々*. 国立歴史民俗博物館, 第76回歴博フォーラム声・音・身体文化をめぐる地域性と国際性, 早稲田大学小野記念講堂 (東京), [上映映像解説].
- 篠原 徹 (2010年10月30日) *動植物をめぐる俗信とことわざ*. 第22回ことわざフォーラム・ことわざ学会第4回大会, ことわざ学会, 名古屋大学文系総合館カンファレンスホール (名古屋), [口頭発表].
- 篠原 徹 (2010年11月13日) *民俗の技術と在来農業の関係*. 京都大学文学部考古学研究室, 平成22年度考古学談話会大会, 京都大学文学部 (京都), [口頭発表].
- 篠原 徹 (2011年1月27日) *動植物をめぐる俗信とことわざと俳諧*. 京都民俗学会, 月例談話会, ウィングス京都 (京都), [口頭発表].
- 篠原 徹 (2010年3月7日) *文化多様性と生物多様性からみた生活環境-幻想としての里山と生活-*. 富山大学東アジア「共生」学創成の学際的融合研究プロジェクト環境チーム, 里山と SATOYAMA-里山の多様性と可能性の再考第1回里山ワークショップ, 富山大学人文学部 (富山), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金 (基盤 A) 「アフリカ在来知の生成とそのポジティブな実践に関する地域研究」 (研究代表者: 重田眞義), 研究分担者 (2007~2010年度).
- 科学研究費補助金 (基盤 B) 「亜熱帯地域における多民族の生業経済と定期市-海南島と雲南省を事例として-」 (研究代表者: 西谷 大), 研究分担者 (2008~2010年度).
- 大学共同利用法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究「自然と技の生活誌」 (研究代表者: 安室 知), 研究組織員 (2008~2010年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本民俗学会, 会長, 2007~2010年.
- 国立歴史民俗博物館, 国立歴史民俗博物館研究報告, 査読, 1件.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2010年9月6日~10日, 東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻 (博士前期課程), 「日本民俗持論」.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，1件。

琵琶湖博物館特別講演会，講師紹介，琵琶湖博物館9件，草津アマカホール1件。

2010年5月22日，国際生物多様性の日記念シンポジウム「いのちにぎわうびわ湖&淀川～生物多様性とは!?その大切さを考えよう～」，琵琶湖博物館，挨拶。

2010年7月17日，琵琶湖博物館第18回企画展示「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界?～」，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2010年8月1日，博物館実習，挨拶。

2010年8月1日，第5回よし笛定期演奏会後期 生きものにぎわいをよし笛で（日本よし笛協会），琵琶湖博物館，挨拶。

2010年8月25日，企画展関連シンポジウム「湖底遺跡の探検～湖に沈んだ村を科学する～」，琵琶湖博物館，挨拶。

2010年11月27日，公開シンポジウム「世界の古代湖琵琶湖を未来につなぐー魚・漁業・食文化ー」（科学研究費補助金・研究成果公開促進費，コンビナー前畑政善・藤岡康弘），琵琶湖博物館，パネルディスカッション進行。

2010年12月5日，淡海こどもエコクラブ活動交流会・表彰式，しが衣食住博・びわこ大縁日，琵琶湖博物館，オブザーバー・選考委員。

2011年1月22日，俳諧・俳句にあらわれた琵琶湖，新琵琶湖学創造セミナー「湖と人間Ⅲ」，琵琶湖博物館，講演。

2011年3月6日，これからの滋賀の味・夢をかたる，滋賀の食事文化研究会20周年記念食事（くいじ）博記念シンポジウム，琵琶湖博物館，開会挨拶。

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年7月9日，人間文化研究の現代的意義，人間文化研究機構，第12回公開講演会・シンポジウム知の役割知のおもしろさー人間文化研究のめざす道を考える，有楽町朝日ホール（東京），パネルディスカッション。

2010年7月10日，昔話・伝説と民俗，國學院大學，オープンカレッジ特別講座語りの文化講座ー昔話・伝説に見える日本文化をとらえるー，國學院大學渋谷キャンパス（東京），講演。

2010年7月26日，民俗、博物館、そしてフィールドワーク，滋賀県立大学人間文化学部，人間文化セミナー，滋賀県立大学交流センターホール（彦根），講演。

2010年7月29日，博物館について，環境・総合事務所長連絡会議，琵琶湖博物館（草津），講演。

2010年9月23日，芭蕉の詠んだ自然，第19回十六夜月見酒ほろよいシンポジウム，湖族の郷資料館，十六夜公園（大津），講演。

2010年10月6日，琵琶湖から見る京都と滋賀，平成22年度新採職員フォローコース（滋賀県・京都府合同新規採用職員研修），滋賀県政策研修センター，県民交流センター（大津），講演。

2010年10月9日，中国少数民族地帯における生業多様性と生物多様性，財団法人ハートランド推進財団，近江八幡西の湖シンポジウム，近江八幡市総合福祉センターひまわり館（近江八幡），講演。

2010年11月6日，アジアの自然を活用する伝統生活，瀬戸内自然エネルギー研究会，自然エネルギーと燃料電池・リチウム電池伝統生活から学ぶ自然エネルギー活用の技術アイデア！，岡山理科大学（岡山），講演。

2010年11月28日，近江は俳諧・俳句の原郷であるー琵琶湖の文化的価値ー，対話でつなごう滋賀の会，第5回対話塾かだマニフェスト2010『もったいないプラス+』実現のために，コミュニティセンターやす（野洲），講演。

2011年1月11日，俳諧・俳句の原郷としての近江，滋賀県友弘済会，第94回教養懇話会及び新年祝賀会の集い，琵琶湖ホテル（大津），講演。

2011年3月5日，手作りフナズシ品評会。あめのうお倶楽部，源八（彦根），講評。

2011年3月19日，大木の民俗，縄文巨木プロジェクト，北白川・縄文巨木シンポジウムー巨木からつむぐ京都の

学術ネットワークー，京都大学総合博物館理学部セミナーハウス（京都），講演。

### **視察対応**

2010年5月22日，中国江蘇省無錫市・水質改善事業会社，挨拶。

2010年7月20日，びわこビジターズビューロー台湾観光協会大阪事務所・台北駐大阪経済文化弁事処長・台湾貿易センター大阪事務所長，挨拶。

2010年8月5日，日中次世代幹部交流訪日団環境・省エネ視察団，挨拶。

2010年8月6日，国際メタセコイアシンポジウム，挨拶。

2010年10月23日，COP10 滋賀県エクスカーション，挨拶。

2010年11月18日，ASLO（先端陸水海洋学会），挨拶。

2010年11月20日，熊本市教育委員会，挨拶。

2010年11月23日，千葉県立中央博物館，挨拶。

2010年12月18日，中国環境観光キーパーソン，挨拶。

### **メディアへの協力**

2010年4月2日，京都新聞，就任記者会見，（2010年4月1日取材）。

2010年4月2日，中日新聞，就任記者会見，（2010年4月1日取材）。

2010年4月2日，産経新聞，就任記者会見，（2010年4月1日取材）。

2010年4月2日，朝日新聞，就任記者会見，（2010年4月1日取材）。

2010年4月11日，滋賀民報，就任記者会見，（2010年4月1日取材）。

2010年4月14日，読売新聞，就任記者会見，（2010年4月1日取材）。

2010年4月22日，中日新聞，この人，インタビュー，（2010年4月9日取材）。

2010年4月24日，毎日新聞，湖国の人たち，インタビュー，（2010年4月20日取材）。

2010年8月8日，京都新聞，夏休みミュージアムへ行こう3，インタビュー，（2010年7月22日取材）。

2010年10月10日，株式会社プラネットジアース，大人組 Kansai10月号 vol. 66，インタビュー，（2010年7月30日取材）。

2011年1月2日，滋賀民報，新春インタビュー，インタビュー，（2010年11月19日取材）。

### **【情報整備活動】**

#### **他博物館・機関の活動**

環境省中部地方環境事務所中部生物多様性主流化チーム，生物多様性インタビュー，インタビュー。

### **【資料整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

2010年12月19日，上野歴史民俗資料館特別企画展 恐竜と伊賀の化石2010！ 奥山茂美化石コレクション琵琶湖博物館寄贈記念展示，上野歴史民俗資料館（伊賀），感謝状贈呈。

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー，講義，1回。

### **【企画調整活動】**

JICA 博物館学集中コース，開講式・カントリーレポート、挨拶，2010年4月15日，琵琶湖博物館。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【海外渡航】

2010年5月30日～6月2日、中華人民共和国北京市中央民族大学、科学研究費補助金「亜熱帯地域における生業経済と市—海南島と雲南省を事例として」に関わる研究成果報告・討論及び今後の方針についての協議。

### 【館外の活動】

国立歴史民俗博物館、名誉教授。

三重県職員（学芸員・学芸技師）採用選考員。

公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金運営委員会、委員。

びわ湖クルーズ・ソーラーボート大会、顧問。

滋賀県博物館協議会、会長。

滋賀県立大学教員候補者（内部昇任）選考審査会、委員。

環境省環境研究総合推進費第5研究分科会〈持続可能な社会・政策研究〉、委員。

滋賀県基本構想審議会、委員。

尾瀬賞保護財団運営委員会、委員。

日本民俗学会、会員。

総合研究大学院大学、名誉教授。

滋賀県文化振興事業団、個人会員。

川那部浩哉さんの受賞（章）をお祝いする会、発起人。

総合研究大学院大学 ISAD（ドメスティケーション・モデルの構築—博物学の視点から）研究会、メンバー。

兵庫県立歴史博物館運営懇話会、委員。

生態人類学会、会員。

研究関連のうち論文関係では、これまでに自分自身および共同研究者等が琵琶湖の湖岸、内湖、および水田地帯で魚類調査してきた内容について論文化すべく共同研究者とともに執筆活動を進めてきた。その結果、2010年度には論文4編が公表された。また、2009年7月に琵琶湖博物館ホールにおいて開催したシンポジウムのまとめとして東海大学出版会から単行本「絶体絶命の淡水魚 イタセンパラ」（共同責任編集）を出版した。さらには、文部科学省科学研究費補助金をえて公開シンポジウム「世界の古代湖 琵琶湖を未来につなぐー魚・漁業・食文化ー」を主催した。

事業関連では、大学、企業、その他さまざまな団体への講演会等を通じて、水辺環境の現在の由々しき実態と外来種（魚類）の生態系へ及ぼす影響、今後のヒトと自然の望ましいあり方について解説してきた。また、琵琶湖流域における「湖と人間」の関係、足跡を世界に紹介する英語単行本の発刊に向け、日本全国の湖に関わる研究者約50名から原稿をいただき、出版者であるSpringer Academic（オランダ）へ送付した。

## 印刷物

### 【学術論文】

- 前畑政善・大塚泰介・水野敏明・金尾滋史（2010）水田で育ったニゴロブナ幼魚の水田内残存と脱出場所の選択性。農業農村工学会論文集，267，農業農村工学会：43-48。
- 水野敏明・大塚泰介・小川雅広・舟尾俊範・金尾滋史・前畑政善（2010）琵琶湖の水位変動とニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の水田地帯への産卵遡上行動の誘発要因。保全生態学研究，15，日本生態学会：211-217。
- 水野敏明・大塚泰介・金尾滋史・小川雅広・舟尾俊範・前畑政善（2010）水田地帯に遡上するニゴロブナの水路選択に関わる環境要因。魚類学雑誌，57(2)，日本魚類学会：135-142。
- Nishimura, Y., Ohtsuka, T., Yoshiyama, K., Nakai, D., Shibahara, F. and Maehata, M. (2011) Cascading effects of larval Crucian carp introduction on phytoplankton and microbial communities in a paddy field : top-down and bottom-up controls. *Ecological Research*, 26 : 615-626.
- 渡辺勝敏・前畑政善（2010）淡水魚の保全と導入。日本魚類学会 編（渡辺勝敏・前畑政善責任編集），絶体絶命の淡水魚イタセンパラー希少種と川の再生に向けて，東海大学出版会：133-137。

### 【専門分野の著作】

- Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2.* Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.

### 【一般向けの著述】

- 前畑政善（2010）アブラヒガイ、ホンモロコ、イサザ、ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ワタカ、ハス、デメモロコ、カワヒガイ、スゴモロコ、サクラマス、サツキマス、ナガブナ、ビワヨシノボリ等14種・亜種の解説。改訂

レッドリスト付属説明資料「気水・淡水魚類」、環境省自然環境局野生生物課：80p.

前畑政善・碓 登志之・前田雅子（2010）第23回水族企画展示解説書「魚はなぜ水田にやってくるのか」. 琵琶湖博物館 編：8p.

前畑政善（2010）魚のゆりかご水田. *LOUPE*, NPO 法人 シニア自然大学広報誌, 87：1.

前畑政善（2010）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～3 捕食者から卵守る知恵イワトコナマズの繁殖戦略. *毎日新聞*, 毎日新聞社：2010年11月18日.

前畑政善（2010）ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～11 琵琶湖の主 ビワコオオナマズの敵. *毎日新聞*, 毎日新聞社：2011年3月24日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

前畑政善（2010年11月27日）魚を田んぼに呼び戻す取り組みー水田での調査からわかったことー. 公開シンポジウム「世界の古代湖 琵琶湖を未来につなぐー魚・漁業・食文化ー」, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

前畑政善（2010年12月19日）水田で育ったニゴロブナ幼魚の水田内残存と脱出場所の選択性. 琵琶湖地域水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

前畑政善（2011年3月17日）琵琶湖の環境と魚. 滋賀県水産試験場勉強会, 滋賀県水産試験場, [口頭発表].

前畑政善（2011年3月27日）琵琶湖の環境と魚、そして人. 魚類自然史研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田地帯 内湖の魚類の生態」, (2007～2011年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者:前畑政善), 総括、魚類調査 (2007～2011年度).

農林水産省 平成21年度 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稻栽培技術の開発」研究 (研究代表者:藤岡康弘), 水田及び周辺水域の生態系保全のための魚類増殖技術の開発研究担当者 (2009～2011年度).

科学研究費補助金 (基盤 B) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と調査手法の確立」 (研究代表者:川那部浩哉), 「生きものの分布・生態」調査グループ 研究分担者 (2010～2012年度).

科学研究費補助金 (研究成果公開発表) 「世界の古代湖 琵琶湖を未来につなぐー魚・漁業・食文化ー」, コンビナー (2010年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会, 日本魚類学会自然保護委員会, 委員, 2001年6月～.

淡水魚保全研究会, 常任理事, 2004年10月～.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年4月1日～2011年3月31日, 金尾滋史 (滋賀県立大学大学院博士過程), 学位論文指導.

2010年4月1日～2011年3月31日, 鈴木規慈 (三重大学大学院博士過程), 論文等指導.

2010年7月12日, 吉岡憲成 (京都大学農学研究科環境デザイン学専攻), 研究指導.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

フィールドレポーター制度，副担当。

はしかけ制度，副担当。

2011年3月12日，琵琶湖の淡水魚類の未来を考える，新琵琶湖学創造セミナー，琵琶湖博物館（草津市），講演。

### 他の博物館・機関等の行事

2010年5月8日，博物館の概要説明ほか，たまき会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年5月18日，博物館の概要説明，M32同窓会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年6月17日，博物館の概要説明，北日本新聞社，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年6月18日，博物館の概要説明，西宮市名塩婦人会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年7月3日，琵琶湖の外来魚，淡海生涯カレッジ，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年7月3日，博物館概要、収蔵庫見学案内、琵琶湖の外来魚，桃山学院大学，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年7月15日，博物館概要説明，JR西日本ジパングクラブ，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年7月15日，琵琶湖の環境保全について，国際青年育成交流事業，滋賀県健康福祉部子ども青少年局，琵琶湖博物館ホール（草津市），講師。

2010年7月19・20・22日，淡水魚入門講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，シニア自然大学，NPO法人シニア自然大学，大阪NPOプラザ（大阪市），講師。

2010年7月26・29日・8月3日，淡水魚入門講座 野外実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，シニア自然大学，NPO法人シニア自然大学，大戸川（大津市），講師。

2010年7月28日，博物館概要説明，JR西日本ジパングクラブ，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年8月1日，琵琶湖博物館の概要説明と館内バックヤード案内，朽木生き物触れ合いの里，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年8月2日，博物館設立の経緯、概要、特徴，関西大学，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年8月4日，魚類の進化、琵琶湖の魚と環境，環境アドバイザー研修会，水土里ネット滋賀（東近江市），講師。

2010年8月8日，琵琶湖の魚と環境，滋賀短期大学，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年9月14日，琵琶湖博物館の運営と現状、課題について，南山大学博物館学コース学生，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年10月17日，地曳網で捕れた魚類について，びわ湖エコアイデア倶楽部，北小松地先湖岸（大津市），講師。

2010年10月22日，琵琶湖博物館の概要説明，ITCびわ湖クラブ，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年10月28日，琵琶湖の魚と環境，滋賀県立比叡山高校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年10月31日，琵琶湖博物館の概要説明，京都府獣医師会山城支部，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年11月26日，琵琶湖博物館の概要説明，名古屋市地域福祉交流会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年11月26日，琵琶湖の魚と環境，ASC20期生，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2010年12月10日，琵琶湖の魚と環境，イラク環境視察団，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2011年1月26日，琵琶湖の環境，吹田市シニア自然大学，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2011年2月4日，学芸員の仕事，聖徳学院大学，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2011年3月21日，琵琶湖の自然と魚，矢田中町内会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2011年3月30日，琵琶湖の環境と魚，つどいの広場，琵琶湖博物館（草津市），講師。

### 視察対応

2010年4月13日，琵琶湖博物館の概要説明，韓国生態復元事業団，琵琶湖博物館。

2010年5月23日，琵琶湖博物館の概要説明，熊本県企画振興部文化企画課，琵琶湖博物館。

2010年7月3日，ビワコオオナマズについて，ラムサールセンター，琵琶湖博物館。

2010年7月3日，博物館の展示について，台湾の高校教諭団体，琵琶湖博物館。

2010年10月26日，博物館の理念、概要等について，伊予市教育長ほか，琵琶湖博物館。

2010年12月2日，ネコギギの飼育、繁殖について，国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所・（財）ダム水

源地環境整備センター，琵琶湖博物館。

#### メディアへの協力

(独) 科学技術振興機構/ (株) ティーエーシー (ネット配信テレビニュース「サイエンスニュース」)，「琵琶湖の魚と生態系の変化について」について，(2010年10月3日取材対応)。

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

水族飼育委託業務の管理。

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

企画展示「湖底探検」，「ピワコオオナマズ」展示解説協力。

第23回 水族企画展示「魚はなぜ水田にやってくるのか」企画・展示，およびリーフレット作成。

ギャラリー展示 滋賀の食事文化研究会20周年記念「食事(くいじ)博—未来につなごう近江の食とくらし—」  
主担当。

モーニングレクチャー，講義，4回。

#### 【企画調整活動】

新任職員等研修，水族展示の紹介，講師，2010年4月14日，琵琶湖博物館。

#### 【研究部関連事業】

公開シンポジウム「世界の古代湖：琵琶湖を未来につなぐ—魚・漁業・食文化」企画実施世話人，2010年4月～2010年11月。

英語本「Lake Biwa」編集委員会，主担当，2009年4月～2011年3月。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2009年4月1日～2011年3月31日，琵琶湖博物館交流サービス事業「新たな交流のあり方検討委員会」，主担当。

#### 【館外の活動】

2003年11月～，大津市立逢坂小学校，逢坂小学校エコスクール委員会，委員。

2002年9月～，滋賀県農政水産部農村振興課，みずすまし専門部会(生態系保全専門部会)，部会員。

2000年5～，滋賀県琵琶湖環境部，自然環境保全課滋賀県生きもの総合調査委員会，委員(魚貝類部会長)。

2003年5月～，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，移入種問題検討委員会，委員(水生生態系部会部会長)。

2008年6月～2010年6月，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，指定希少野生動物種および指定外来種に関する選定専門委員。

2007年6月～，滋賀県農政水産部農村振興課，農村まるごと保全推進委員会，委員。

2008年2月～，ゆりかご水田ネットワーク委員。

2007年7月～，農村整備センター，水口頭首工(野洲川)改良工事にともなう稀少種・ハリヨの保全に関するアドバイザー。

2003年8月～，国土交通省近畿地方整備局・大戸川ダム工事事務所，環境アドバイザー。

2004年4月～，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，丹生ダム環境保全対策懇談会，委員。

2010年3月～，近畿地方ダムフォローアップ委員会，委員。

2008年5月～2012年3月，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，琵琶湖および周辺河川環境に関する

る専門家グループ制度，委員。

2009年7月1日～2012年6月30日，環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進員。

2007年6月～，環境省自然環境局，絶滅のおそれのある動植物種の生息域外保全計画動物分科会，検討員。

2004年8月～，環境省自然環境局，絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会，検討員（淡水魚類作業部会）。

琵琶湖博物館においては、ここ数年の間、近江の前方後円墳を中心とする古墳時代首長墓と中世山岳寺院の研究、湖上交通史の考古学的研究や琵琶湖の民具資料を扱った考古民俗学的方法論の開発研究を中心的な研究テーマにしている。2010年度は、特に古墳時代首長墓の実態を旧郡ごとに把握する中で、琵琶湖をめぐる支配や領域をさぐる研究の成果として、長浜市若宮山古墳を主な素材にした前期小型前方後円墳の史的位置に関する論文をとりまとめ投稿し、前方後円墳の出現に関わる前方後方形墳丘墓の調査も国立歴史民俗博物館などと共に実施したところである。

また、館内共同研究者と共に行っている水環境施設に関わる民俗・社会学的調査研究成果の一環として、名水百選をめぐる諸課題を歴史的に評価する原著論文を『生活文化史』に投稿し、掲載された。その他、中日新聞の連載コラム『湖岸より』、毎日新聞連載コラム『ここだけの湖の話』のとりまとめや執筆も担当した。

さらに、10数年間にわたって整理調査作業を行った琵琶湖博物館民具資料を用いた科学研究費補助金事業による方法論開発研究も、3年目の調査研究が継続中であり、新たに琵琶湖と中国太湖の水環境施設の比較民俗調査研究および住民参加による生物総合調査法の開発研究も科研費に採択され、それぞれ共同研究者として調査研究に着手した。そうした成果の一つ、太湖における家船を琵琶湖との比較の中で評価する論文は、とりまとめてすでに『淡海文化財論叢』に投稿したところである。

その他、3回にわたる中国・江蘇省の新石器時代遺跡群・太湖周辺の調査、沖縄県石垣島における民俗調査、さらには沼津市・川崎市などにおける民具調査も実施したし、企画展示関連行事の公開シンポジウム『湖底遺跡探検』を中心になって企画・開催して、そのパネルディスカッションにも加わった。

研究部長としては、事業調整会議資料の作成と参加、研究部代表者会議・学会会議・研究報告会・研究審査会の運営、また科学研究費補助金事業の学芸員全員申請に取り組み、全申請書類に目を通して修正事項を指摘するなどしながら採択率の向上にも努め、一方で、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、滋賀県立大学との機能統合、あるいは統合的研究の推進協議を重ねてきた。

なお、昨年度に刊行した著書『湖と山をめぐる考古学』の書評が、日本の考古学界を代表する機関誌『日本考古学』に掲載・紹介された。これで、これまでに刊行した著書3冊すべての書評が、『民具研究』『考古学研究』『日本考古学』にそれぞれ載ったことになり、研究者としての誇りとなった。

## 印刷物

### 【学術論文】

楊 平・用田政晴（2010）名水百選認定と農村水環境の歴史的保全. *生活文化史*, 58 : 3-12.

用田政晴（2010）第34回京都大会公開シンポジウム「民具の保存」. *民具研究*, 142, 日本民具学会 : 1-22.

### 【専門分野の著作】

楊 平・用田政晴（2010）水環境の歴史的保全を社会学から考える一泉神社湧水一. *佐加太*, 32 : 2-3.

### 【一般向けの著作】

用田政晴（2010）近江ことばいまむかし調査結果報告巻頭. *フィールドレポーターだより*, 34 : 1.

用田政晴（2010）琵琶湖水中雑談湖底を歩く. *おりづる*, 76 : 16.

用田政晴（2010）湖岸より 54 近江ことばいまむかし. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年4月17日.

用田政晴（2010）湖岸より 63 「堺川」の歴史をたどる. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年6月19日.

用田政晴（2010）湖岸より 72 28日に「湖底遺跡シンポ」. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年8月21日.

- 用田政晴 (2010) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～1 縄文人の食生活発掘. *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2010年10月14日.
- 用田政晴 (2010) 湖岸より 81 近江に共通する「墳丘併葬」. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年10月23日.
- 用田政晴 (2010) 湖岸より 90 電子辞書に考古学の古典. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年12月25日.
- 用田政晴 (2011) 湖岸より 99 人を和ませる近江ことば. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年3月5日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 用田政晴 (2010年6月26日) 琵琶湖をめぐる古墳時代首長墓の動向と畿内中枢. 2010年度琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 用田政晴 (2010年8月28日) 湖底遺跡探検シンポジウム. 琵琶湖博物館, [パネルディスカッション司会進行].
- 用田政晴 (2010年9月17日) 前期小形前方後円墳の史的位置. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 用田政晴 (2010年12月11日) 第59回琵琶湖博物館特別研究セミナー. 琵琶湖博物館, [企画・進行].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖水系における古墳時代首長の領域と地域性」, (2010年度).
- 科学研究費補助金(基盤C)「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」(研究代表者:用田政晴), 研究代表者(2010年度).
- 科学研究費補助金(基盤C)「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」(研究代表者:楊平), 共同研究者(2010年度).
- 科学研究費補助金(基盤B)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者:川那部浩哉), 共同研究者(2010年度).
- アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」(研究代表者:用田政晴), 研究代表者(2010年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 代表.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年5月9・31日・6月27日, 京都造形芸術大学, 「博物館学」.

### 【受賞など】

博物館永年勤続賞(日本博物館協会), 2010年11月24日, 長年、博物館に勤務したことで受賞した.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.  
2010年8月1日, 研究とは, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

#### 他博物館・機関等の行事

2010年6月3日, 琵琶湖博物館の概要、歴史, 日吉台老人会, 琵琶湖博物館, 案内.  
2010年7月21日, 博物館のつくられ方, 石部高校総合学習, 琵琶湖博物館, 講師.

### **視察対応**

2010年5月22日，博物館案内，中国・河海大学，琵琶湖博物館。  
2010年7月3日，博物館案内，韓国・忠清南道政府，琵琶湖博物館。  
2010年10月13日，展示案内，島津テクノロジー，琵琶湖博物館。  
2010年11月20日，博物館案内，熊本市教育委員会，琵琶湖博物館。  
2010年12月18日，博物館案内，中国・政府関係者，琵琶湖博物館。  
2011年1月12日，資料調査案内，兵庫県立考古博物館，琵琶湖博物館。

### **【情報整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

琵琶湖博物館学芸員個人ページ（用田政晴），管理・運営，更新多数。

### **【資料整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

民具資料整備、写真撮影・編集。

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

琵琶湖博物館常設展示（B展示室）維持管理，担当。  
2010年11月15日，展示交流員研修「オランダ堰堤・狛坂磨崖仏」，大津市。  
モーニングレクチャー，講義，4回。

### **【企画調整活動】**

新任職員等研修，博物館の概要・研究活動について，B展示室紹介、展示解説，講師，2010年4月13・14日，琵琶湖博物館，2件。  
JICA博物館学集中コース，博物館案内・研究部の概要説明，講師，2010年6月11日，琵琶湖博物館。

### **【研究部関連事業】**

事業調整会議研究部代表、研究報告会、研究審査会、研究部代表者会議、学芸会議，企画・運営。  
研究計画の策定と調整・研究予算の編成と執行管理，2010年度。

## **館内の人事・館外活動等に関すること**

### **【海外渡航】**

2010年6月12日～17日，中国 江蘇省無錫市，蘇州市博物館・遺跡・民俗調査。  
2010年8月5日～9日，中国，上海市博物館調査。  
2010年12月4日～9日，中国 江蘇省・南京市・無錫市・蘇州市，上海市博物館・遺跡・民俗調査。

本年度は、博物館で10年間発行できずにいた琵琶湖関連の本の編集を9月以降に担当し、年度末までに発行にこぎつけることができた。また、昨年に引き続き特別講演会の担当を行ったが、今年度は主担当からはずれたことで、その時間を他に回すことができた。地学資料として、8,000点以上の古琵琶湖層の化石を受入れできた。これらは、地域の方々の協力によって琵琶湖博物館に寄贈されたものであり、地学関係の学芸員によるこれまでの活動の蓄積であるといえる。

研究面では、前年度より科学研究費補助金（基盤 C）「日本列島におけるヒト出現期の人間—環境系復元」が採択され研究を行っている。これに加え、琵琶湖博物館の共同研究1件と専門研究を行った。分担研究を行っている総合地球環境学研究所プロジェクト研究「日本列島における人間—自然相互関係の歴史的・文化的検討」は、まとめの年にあたり、それに関連して出版される本に分担者として執筆した。また、フランスで開催された国際マンモス学会では、科学委員として参加し、共同で2件発表も行った。この会議では、各国の研究者と研究を通じた交流を行うことができ、今後の琵琶湖博物館の活動にも有益であった。併せて年末にも中国北京市にある中国科学院動物研究所および古脊椎動物・古人類研究所にて科研費研究に関連する調査を行ったが、ここでも新たな研究ネットワークを気付くことができた。

## 印刷物

### 【学術論文】

北川博道・高橋啓一（2010）ナウマンゾウの第2，第3大臼歯の形態的特徴とそれに基づく臼歯標本の再検討の例。化石研究会会誌，43，化石研究会：30-39.

### 【専門分野の著作】

高橋啓一（2010）「長鼻類」「アカシフゾウ」「シカマシフゾウ」「シフゾウ」「ナウマンゾウ」「パレオロクソドン」「マンモスゾウ」「明石動物群」「葛生動物群」. 古生物学事典（第2版），朝倉書店，東京。  
高橋啓一（2010）最終氷期の環日本海地域における大型哺乳動物相の変遷。湯本貴和 編，シリーズ日本列島の三万五千年—人と自然の環境史『野と原の環境史』，文一総合出版，東京：41-50.

### 【一般向けの著作】

高橋啓一（2010）大昔、琵琶湖にもいたワニ「琵琶湖水中雑談」. おりづる，75：8。  
高橋啓一（2010）滋賀県立琵琶湖博物館第17回企画展示「骨の記憶—あなたにきざまれた五億年の時」. 展示学，48：116。  
高橋啓一（2010）湖岸より 55 記憶用紙の役目も持つ琵琶湖. 中日新聞，中日新聞社：2010年4月24日。  
高橋啓一（2010）湖岸より 64 「雨に想う」気にはなる!?. 中日新聞，中日新聞社：2010年6月26日。  
高橋啓一（2010）湖岸より 73 琵琶湖の湖底“探険”を. 中日新聞，中日新聞社：2010年8月28日。  
高橋啓一（2010）ここだけの琵琶湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～2 化石が語る環境変化. 毎日新聞，毎日新聞社：2010年10月28日。  
高橋啓一（2010）湖岸より 82 ネットワークをつくる国際会議. 中日新聞，中日新聞社：2010年10月30日。  
高橋啓一（2011）湖岸より 91 街道は野外博物館だ。中日新聞，中日新聞社：2011年1月8日。  
高橋啓一（2011）湖岸より 100 琵琶湖の価値 再発見を. 中日新聞，中日新聞社：2011年3月12日。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 高橋啓一・出穂雅実・佐藤宏之・地球研列島プロジェクト「サハリン・沿海州班」（2010年5月30日）北海道忠類ナウマンゾウ産出地点の再調査報告. 化石研究会第28回総会・学術大会, 日本歯科大学新潟生命歯学部（新潟県）, [口頭発表].
- 高橋啓一（2010年6月5日）『日本列島における大型哺乳動物の絶滅年代』へのコメント. 国際第四紀連合小委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」関連シンポジウム, 浅間縄文ミュージアム（群馬県）, [口頭発表].
- 高橋啓一・北川博道（2010年6月12日）ミヤコノロジカはノロ属なのか. 日本古生物学会第159回例会, 筑波大学（茨城県）, [口頭発表].
- 北川博道・高橋啓一（2010年6月12日）ナウマンゾウの第2, 第3大臼歯の形態的特徴とそれに基づく臼歯標本の再検討の例. 日本古生物学会第159回例会, 筑波大学（茨城県）, [口頭発表].
- 黒滝啓介・北川博道・高橋啓一・松岡廣繁（2010年6月12日）東京都渋谷区神宮前上部更新統より産出したナウマンゾウ化石（原宿標本）. 日本古生物学会第159回例会, 筑波大学（茨城県）, [口頭発表].
- Iwase, A., Hashizume, J., Izuhō, M., Takahashi, K., and Sato, H. (2010年8月30日) AMS 14C chronologies of terrestrial mammalian megafauna in the late Late Pleistocene on the Japanese archipelago. The Vth International Conference on Mammoths and their Relatives, Le Puy-En-Velay (France), [口頭発表].
- Takahashi, K. (2010年8月31日) Session 2. Vth International Conference on Mammoths and their Relatives, Le Puy-En-Velay (France), [座長].
- Kitagawa, H., Takahashi, K., Chang, C. H., and Tanaka, S. (2010年9月2日) An island mammoth from Taiwan. The Vth International Conference on mammoths and their relatives, Le Puy-En-Velay (France), [ポスター発表].
- 高橋啓一（2010年11月19日）日本列島におけるヒト出現期の人間-環境系復元. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館（草津市）, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「奥山コレクションの整理と古生物学的意義付け」, (2010年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖周辺のボーリングコアから見た琵琶湖の成立」(研究代表者: 井内美郎), 共同研究者 (2008~2010年度).
- 科学研究費補助金(基盤C)「日本列島におけるヒト出現期の人間-環境系復元」(研究代表者: 高橋啓一), 研究代表者 (2009~2011年度).
- 科学研究費補助金(基盤B)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者: 川那部浩哉), 研究分担者 (2010~2012年度).
- 総合地球環境学研究所プロジェクト「日本列島における人間-自然相互関係の歴史的・文化的検討」(研究代表者: 湯本貴和), プロジェクトメンバー (2006~2010年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本第四紀学会, 評議員, 2007年8月~2011年7月.
- 日本第四紀学会, 論文賞・奨励賞受賞者候補者選考委員, 2010年2月1日~2010年7月31日.
- 化石研究会, 事務局長, 2003年6月~.
- Quaternary International, 査読, 1件.
- 国際第四紀学連合 INQUA 小委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」(代表: 小野 昭), (2007年度~).

### 【受賞など】

博物館永年勤続賞(日本博物館協会), 2010年11月24日, 長年にわたり博物館に勤務したことで受賞した.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

はしかけ運営, ほねほねくらぶ, 担当.

2009年7月25日, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, 運営.

2010年8月1日, 琵琶湖博物館の概要について, 講義, 博物館実習, 琵琶湖博物館.

2009年10月3日, 観察会, 化石の観察会, 滋賀県多賀町, 案内.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年7月11日, 忠類ナウマンゾウ発掘40周年記念集会, 幕別町教育委員会, 講師.

2010年9月19日, 特別企画展示特別講演, (財)伊賀市文化都市協会, 上野歴史民俗資料館, 講師.

2010年9月22日, 博物館の概要説明, 聖泉大学, 琵琶湖の環境学習, 講師.

2010年11月20日・12月18日, 班での調べ学習への助言, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 講師.

2010年12月10日, 体験学習, 八日市高校, 講師.

#### 視察対応

2010年7月19日, 琵琶湖博物館の展示説明, 台北駐大阪経済文化弁事所.

2010年8月5日, 琵琶湖博物館の展示説明, 日中次世代幹部交流訪日団.

2010年10月12日, 琵琶湖博物館の展示説明, ブリヂストン役員.

2010年10月28日, 琵琶湖博物館の展示説明, 熊本県議会環境対策特別委員会.

2010年11月23日, 琵琶湖博物館の運営状況・展示説明, 千葉中央博物館.

2011年1月27日, 琵琶湖博物館の展示説明, 文部科学省生涯学習政策局.

2011年2月1日, 琵琶湖博物館の展示説明, 香川県観音寺市議会.

2011年2月17日, 琵琶湖博物館の展示説明, 和歌山県田辺市議会.

#### メディアへの協力

2010年5月26日, 中日新聞, 多賀町で発見されたワニ化石について, (2010年5月25日取材).

2010年5月27日, 十勝毎日, 忠類の発掘40周年記念記事, インタビュー, (2010年4月27日取材).

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

化石標本データベース公開, 担当.

哺乳類標本データベース公開, 担当.

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

化石資料, 受入・貸出.

脊椎動物資料, 受入・貸出.

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

2010年11月～1月，常設展示新着資料の紹介展示。

#### 【企画調整活動】

新任職員等研修，博物館について・A展示室紹介，講師，2009年4月13・14日，琵琶湖博物館，2件。

2010年度，琵琶湖博物館特別講演会，運営，琵琶湖博物館，12件。

#### 【研究部関連事業】

研究調査報告書26号編集。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2004年～，図書選定委員。

#### 【海外渡航】

2010年8月29日～9月8日，フランス・ルピュイ アン ヴィレ，第5回国際マンモス会議発表及び運営。

2010年12月20日～12月25日，中国・北京市，科研費研究に関連しての中国科学院動物研究所および古脊椎動物  
古人類研究所での調査。

#### 【館外の活動】

2007年～2010年，The Vth International Conference on Mammoths, Scientific Committee.

2010年度，三重県立博物館，御幣川ミエゾウ足跡化石調査委員。

2009年7月28日～2012年3月31日，滋賀県立大学環境人材育成プログラム開発・実証委員会委員。

2010年6月～2011年3月31日，滋賀大学環境学習支援士養成プログラム企画運営委員会委員。

2010年2月14日～，NPO法人西日本自然史博物館ネットワーク理事。

2010年10月6日～2015年10月5日，高島市指定管理候補者選定委員。

In 2010 I was leader and chief administrator of a Comprehensive Research Project at the Lake Biwa Museum during its fifth and last year. The aim of the project was to explore the biodiversity and systematics of the biota of Lake Biwa and its surrounding watershed together with many taxonomic specialists from Japan and overseas. I personally hosted cooperative researchers from Japan and Korea and assisted their field- and collection-based surveys of isopods, groundwater copepods, pseudoscorpions, gastrotrichs, leeches, and earthworms, and also became co-author of one manuscript about earthworms. I sent material of nematomorphs, terrestrial isopods, groundwater amphipods, and bathynellaceans (some collected by me) to other members of this project in Germany, Japan, and Korea. I also again hosted a graduate student from Osaka University who is studying gastrotrichs within this project. In another large project funded by the Environment Ministry, I was nominal co-leader of research on the biodiversity of small organisms in rice fields. In particular, I hosted an Australian researcher to identify rice-field copepods and a Japanese graduate student to produce an inventory of rice-field leeches in Shiga Prefecture. My most significant publications during the fiscal year were several sections of a comprehensive, but now somewhat outdated inventory of Lake Biwa's biotic diversity, published in Russia, and, as co-author, a monograph on the fish digeneans of the Lake Biwa basin. I presented or was co-presenter of two talks on rice-field invertebrates (on copepods and earthworms, and on clam shrimp, respectively) and a poster on a coral-parasitic ascothoracidan crustacean from off Chiba Prefecture. Finally, as a member of the International Commission on Zoological Nomenclature, I voted and commented on many nomenclatural cases that were brought before the Commission.

琵琶湖博物館総合研究「分類学」は平成18年度に始まり、計画通り5年間後である平成22年度末に終了した。その目的は滋賀県の水域環境の中で、未知の水生生息域の生物群に関する分類学と、形態と分子による系統学的研究を進展させることであった。私は研究代表者として、22年度にこの研究全体の総括を行なった。その一環として日本と韓国の大学や研究所に勤めている共同研究者・研究協力者を分野によって色々なフィールド調査、あるいは収蔵庫内の標本に基づいた調査への参加を要請した。その研究者らにより行なわれた等脚類、地下水産カイアシ類、カニムシ、イタチムシ、ヒル、ミミズなどの分類学的研究に参加した。ミミズ類について、特にイタチムシの研究支援のため、大阪大学大学院生である共同研究者を特別研究員として平成22年度に私が2回目の受け入れを行なった。同研究は別に、日本、韓国、ドイツに勤めている共同研究者にハリガネムシ、ダンゴムシ、地下水性ヨコエビ、ムカシエビの標本を分類学的研究のために送った。また、委託研究「水田地帯」の一環として、水田のカイアシ類、ヒル類の液浸標本の同定や種の一覧リストの作成のため、オーストラリアの専門家と日本の大学院生に同定を依頼し、博物館に招待した。本年度の最も重要な研究成果は、特に甲殻類、寄生虫に関するもので、ロシアで編集・出版され、琵琶湖の生物相について最近の発見をまとめ、各科の種数を数えあげ、多数の専門家の具体的な総説論文であった。出版に時間がかかったため、基づいたデータが約9年前のもので古いものとなった。また、共著者として、琵琶湖およびその集水域における魚類に成虫の段階で寄生する二生吸虫相の分類学的なモノグラフを出版し、ミミズ類に関する論文を印刷中。田んぼにおける無脊椎動物（カイアシ類、ミミズ類、カイエビ）について研究会で2回発表し、千葉県沖で発見され深海サンゴに寄生する囊胸下綱甲殻類の一種について学会大会でポスター発表した。動物命名法国際審議会の委員として、審議会の細則の改正に関係し、審議会の前にもたらされる多くの命名法に関する案件について投票した。

## 印刷物

### 【学術論文】

Shimazu, T., Urabe, M. and Grygier, M. J. (2011) Digeneans (Trematoda) parasitic in freshwater fishes (Osteichthyes) of the Lake Biwa basin in Shiga Prefecture, central Honshu, Japan. *National Museum of Nature and Science Monographs*, 43, National Museum of Nature and Science : 1-105.

### 【専門分野の著作】

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2*. Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.

松政正俊・倉田健悟・和田 哲・マーク J. グライガー (2010) 汽水域の生態プロセスを解く (1). *日本ベントス学会誌*, 65, 日本ベントス学会 : 27.

International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2248 (Case 3470). *Halectinosoma* Vervoort, 1962 (Crustacea, Copepoda, Harpacticoida): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (2), 動物命名法国際審議会 : 185-187 [特にグライガー委員の意見、p. 186].

International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2249 (Case 3471). *Heterolaophonte* Lang, 1948 (Crustacea, Copepoda, Harpacticoida): name conserved by precedence over *Mesolaophonte* Nicholls, 1941 and *Monolaophonte* Nicholls, 1941. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (2), 動物命名法国際審議会 : 188-189 [特にグライガー委員の意見、p. 189].

International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2251 (Case 3442). *Columba norfolciensis* Latham, 1801 (Aves, COLUMBIDAE): name suppressed. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (2), 動物命名法国際審議会 : 192-193 [特にグライガー委員の意見、p. 193].

International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2253 (Case 3428). *Palaemon rosenbergii* De Man, 1879 (currently *Macrobrachium rosenbergii*; Crustacea, Decapoda): usage conserved by designation of a neotype. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (3), 動物命名法国際審議会 : 258-260 [特にグライガー委員の意見、p. 259].

International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2255 (Case 3420). *Buettneria* Case, 1922 (Amphibia): generic name not conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (3), 動物命名法国際審議会 : 263-265 [特にグライガー委員の意見、pp. 263-264].

International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2256 (Case 3446). *Anolis chrysolepis* Duméril & Bibron, 1837 (Reptilia, Squamata) : precedence given over *Draconura nitens* Wagler, 1830. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (3), 動物命名法国際審議会 : 266-268 [特にグライガー委員の意見、p. 267].

International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2262 (Case 3468). *Clusiodes* Coquillett, 1904 (Insecta Diptera, CLUSIIDAE): usage conserved by designation of *Heteroneura albimana* Meigen, 1830 as the type species. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (4), 動物命名法国際審議会 : 344-345 [特にグライガー委員の意見、p. 345].

International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2267 (Case 3492) *Heliconius tristero* Brower, 1996 and *Heliconius melpomene mocoa* Brower, 1996 (Lepidoptera: NYMPHALIDAE): suppression of *Heliconius melpomene bellula* Brown, 1979 not approved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (1), 動物命名法国際審議会: 84-85 [特にグライガー委員の意見、pp. 84-85].

International Commission on Zoological Nomenclature (2011) OPINION 2268 (Case 3473) *Conops testaceus* Linnaeus, 1767 (currently *Myopas testacea*; Insecta, Diptera): specific name conserved by designation of a neotype. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68 (1), 動物命名法国際審議会: 86-88 [特にグライガー委員の意見、p. 87].

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- マーク ジョセフ グライガー (2010年6月18日) 琵琶湖およびその集水域の外来寄生虫について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- マーク ジョセフ グライガー (2010年6月26日) 申請専門研究「甲殻類のミジンコ亜綱およびアゴアシ亜綱の分類、個体発生、分布に関する研究」. 2010年度琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- Wall, A. A. J., Kusuoka, Y., Gilbert, D., Grygier, M. J. and Nakano, S. (2010年11月27日) Les communautés d'amibes à thèque benthiques du Lac Biwa (Shiga, Japon). JFR '10 Journée Francophone de la Recherche: フランス語による科学シンポジウム, 日仏会館 (東京), [ポスター発表].
- 立川浩之・Mark J. Grygier (2010年12月2日) 千葉県勝浦市沖で採集されたビワガライシ *Madrepora oculata* に寄生する囊胸下綱甲殻類 *Petrarca madroporae*. 日本サンゴ礁学会第13回大会, つくばカピオ (茨城県つくば市), [ポスター発表].
- Grygier, M. J., Karanovic, T. and Blakemore, R. J. (2010年12月19日) 滋賀県の水田のミミズ類とカイアシ類. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- マーク J. グライガー (2011年2月4日) 東北の水田のカイエビ類. 東北田んぼの生きもの研究会, 寺子屋ホール (宮城県大崎市), [口頭発表].

### 【インターネットページでの公表】

- Fujikura, K., Lindsay, D., Kitazato, H., Nishida, S. and Shirayama, Y. (Grygier, M. J. を含むデータの提供者数十人) (2010) Marine biodiversity in Japanese waters. *PLoS ONE*, 5 (8), Public Library of Science: e11836, <doi: 10.1371/journal.pone.0011836>, 13 pp., Tables S1-S6, alternative language articles S1-2.

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「鰓脚類および顎脚類 (甲殻類) の分類学、形態学に関する研究」, (2005年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的多様性の探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」 (研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 研究代表者、寄生虫班・自由生活の甲殻類班・微小動物班・動物命名班の事務担当者 (2006-2010年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」 (研究代表者: 前畑政善), 研究協力者 (2007-2010年度).
- 環境省委託研究「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案2. 小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」 (研究代表者: 夏原由博), 研究参加者 (2009-2011年度).
- 科学研究費補助金 (基盤 B) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」 (研究代表者: 川那部浩哉), 分担者 (2010-2012年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, Journal of Crustacean Biology, Associate Editor, 査読, 4件.  
The Crustacean Society Excellence in Research Award Committee, 2010年6月25日 修了.  
Systematic Parasitology, Associate Editor.  
日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.  
日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor).  
日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (English editor).  
Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, International Advisory Board.  
国立科学博物館, Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), 編集委員.  
動物命名法国際審議会, Bulletin of Zoological Nomenclature, 査読, 5件.  
Zootaxa, 査読, 1件.  
Arthropod Structure & Development, 査読, 1件.

### 【受賞など】

カイアシ類: *Morariopsis grygieri* Karanovic and Abe [*Species Diversity*, 15 (3-4) : 185-208], 新種の記載で  
献名される.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス活動】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.  
はしかけ運営, 田んぼの生き物調査グループ, 副担当.  
2010年5月15日, 魚の寄生虫を調べよう!, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.  
2010年8月3日, 各資料の実習(甲殻類資料), 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

#### 視察対応

2010年4月22日, Korea Rural Community & Corporation.  
2010年6月23日, ミシガン州立大学連合日本センター.  
2010年11月17日, JICA 蚕業廃水処理技術コース.

#### メディアへの協力

2010年10月28日, 京都新聞, 「河内の風穴」に新種微少甲殻類, (2010年10月26日取材).

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

標本受入, 無脊椎動物(昆虫、貝類を除く) 25件、そのうち環形動物 2405点、カイアシ類 62点、カニムシ類 37点、線虫とハリガネムシ類 29点、コケムシ類 7点、その他の無脊椎動物 15点、カイアシ類(1新種)とコケムシ類(2新種)のタイプ標本も含む。  
専門家による収蔵された液浸標本の同定確認, ヒル類 828匹、カニムシ類 39点、等脚目のミズムシ類の数百点(全て)、水田におけるカイアシ類 54点。  
仮データ入力・ラベル付け, 125点、そのうち甲殻類 30点、クマムシ 11点、線虫・ハリガネムシ 32点、吸虫・条虫・鉤頭虫 28点、環形動物 17点、コケムシ 7点。  
研究依頼, 国立科学博物館, ミミズ類 2点。  
研究依頼, 韓国国立生物資源研究所, ムカシエビ類 2点。  
研究依頼, 北九州市立自然史・歴史博物館, 等脚類 5点。  
研究依頼, ドイツハンブルク大学動物学博物館, ハリガネムシ類 8点。

研究依頼期間延伸，2件.

**【展示活動】**

**琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー，講義，4回.

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」，パネル更新，1件.

2010年5月23日～6月20日，ギャラリー展示「神秘の鍾乳洞 河内の風穴 写真展」，協力.

**【企画調整活動】**

新任職員等研修，C展示室 生き物コレクション（寄生虫），講師，2010年4月21日，琵琶湖博物館.

**【研究部関連事業】**

琵琶湖博物館特別研究員（鈴木隆仁），受け入れ担当.

## 館内人事、館外活動等に関すること

**【館内の人事】**

2010年度，事業部資料活用総括.

**【館外の活動】**

（米国）ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部（無脊椎動物学研究科），協力研究員.

（米国）スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員.

動物命名法国際審議会，委員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的にしている。今年度は、共同研究「琵琶湖北西地域安曇川河床の化石林の古植生復元とその年代」（代表者）と、専門研究「鮮新—更新世境界付近の湿地林におけるメタセコイアとスイショウの関係」を軸に、野外調査と化石同定、データ解析から論文作成等の研究活動を行った。

専門研究の成果は、2010年8月3日～8日に日本（大阪）で開催された第3回国際メタセコイアシンポジウムで一部発表した。開催中6～8日にはメタセコイアの化石産地の巡検が実施され、琵琶湖博物館にて展示室の見学と実習室で化石観察を行った。その後、滋賀県湖南市吉永地先の野洲川河原で古琵琶湖層群の化石林を観察した。これらの巡検先Stop1および2は、これまでの共同研究、専門研究の調査地や対象化石であり、「琵琶湖とその歴史」、「古琵琶湖層群産の植物化石群」、「前期更新世のメタセコイアとスイショウが優占する愛知川化石林」、「後期鮮新世末の野洲川河床の吉永化石林」として説明を行った。なお、英文校閲でDr. R. J. Smith さんにご協力いただいた。

## 印刷物

### 【学術論文】

南澤 修・松本みどり・山川千代美・布谷知夫・寺田和雄(2010) 鮮新統古琵琶湖層群上野層および伊賀層の材化石群集. *化石研究会会誌*, 43 (1) : 40-52.

### 【専門分野の著作】

Yamakawa, C. and Momohara, A. (2010) 1. Lake Biwa and its History; 2. The fossil Flora of the Kobiwako Group; 3. Early Pleistocene Echigawa Fossil forest dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus*; 4. Latest Pliocene Fossil forest in Yoshinaga, Konan. *A Guidebook to the Field Excursion Neogene Fossil Sites and Chamaecyparis Forest in Central Japan - The 3<sup>rd</sup> International Metasequoia Symposium*, Osaka Museum of Natural History : 7-22.

### 【一般向けの著作】

山川千代美 (2010) 湖岸より 60 積極的な広報が必要. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年5月29日.  
 山川千代美 (2010) 湖岸より 69 メタセコイア・シンボにわくわく. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年7月31日.  
 山川千代美 (2010) 湖岸より 77 化石からみた実りの秋. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年9月25日.  
 山川千代美 (2010) 湖岸より 87 「湖と人間」未来を模索. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年12月4日.  
 山川千代美 (2011) 湖岸より 96 寒さ忘れ化石掘りに没頭. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年2月12日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

Yamakawa, C., Momohara, A., Matsumoto, M. and Nunotani, T. (2010年8月3日～8日) Temporal and spatial distribution of the fossil forests dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the lower Pleistocene Kobiwako Group, Japan. 2010 3<sup>rd</sup> International *Metasequoia* Symposium, Osaka Museum of Natural History, Japan, The organizing committee of the 3th International *Metasequoia* Symposium,

[口頭発表].

山川千代美 (2010年10月15日) 琵琶湖北西地域安曇川河床の化石林の古植生復元. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館(草津市), [口頭発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「鮮新-更新世境界付近の湿地林におけるメタセコイアとスイショウの関係」, (2010年度).  
琵琶湖博物館共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究」(研究代表者:高橋啓一), 共同研究者 (2007~2010年度).  
琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖北西地域安曇川河床の化石林の古植生復元とその年代」(研究代表者:山川千代美), 研究代表者 (2010年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本第四紀学会, 第四紀研究, 論文の査読, 1件.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

千葉大学理学研究科・地球生命圏科学専攻・地球科学コース 修士課程 (1名), 「化石ヒシ属果実の堆積学的研究」協力・指導.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.  
2010年8月3日, 琵琶湖博物館の資料保存, 博物館実習, 講師.  
2010年10月3日, 化石観察会, 観察会, 多賀町権現谷, 担当.

##### 他の博物館・機関等主催行事

2010年7月10日, 琵琶湖の生い立ちとその調査法, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.  
2010年10月16日, 能動的学習意欲を持つ理数学生の発掘と育成プログラム, 信州大学, 琵琶湖博物館, 講師.  
2010年11月29日, 歴史を語る街路樹-生きた化石・メタセコイア-, メタセコイア保存記念講演, マキノ町果樹生産組合, マキノピックランド, 講演.  
2010年12月18日, 班ごとの調べ学習への助言, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.

##### 視察対応

2010年8月24日, 館内案内・概要説明, 近畿日本ツーリスト教育旅行担当社員研修.

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

寄贈資料の受入, 5件 (森下正明氏図書資料1,771冊・富田敏克氏図書資料472冊雑誌41タイトル・奥山茂美氏化石標本8,480点・谷口徹氏化石標本3点・メコン川流域漁具資料13点).  
感謝状贈与, 1件 (奥山化石コレクション).

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう, 内容指導.

**【研究部関連事業】**

2010年10月2日・2011年2月13日，地学研究発表会，研究交流，滋賀大学サテライト，担当.  
2010年12月～2011年3月，新琵琶湖学創造セミナー，研究発信，琵琶湖博物館，担当.

**館内の人事・館外活動等に関すること**

**【館外の活動】**

2010年4月～2011年3月，大津市科学館運営協議会委員.

日本における鮮新-更新世の堆積層を対象に、挟在する火山灰から広域層序と過去の爆発的火山噴火活動について、堆積物から過去の堆積環境変化についてを研究対象としている。とくに最近では、琵琶湖の環境変動史についての検討をすすめている。

今年度は、去年度に湖沼堆積物を対象とした古環境変動を明らかにする研究をテーマとする日本第四紀学会シンポジウム特集号が学会誌として出版された。この特集号の編纂は共同研究「琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析」(研究代表者:井内美郎)の成果の一つでもあり、また、里口が執筆した論文と共同研究者が執筆した論文は、共同研究「琵琶湖周辺のボーリングコアから見た琵琶湖の成立」(研究代表者:里口保文)の成果である。また、去年度末頃に第四紀の国際的に正式な定義が行われ、この普及や今後の研究に対する指針をまとめるために、日本第四紀学会ではこれに関するシンポジウムと学会誌の特集号が編纂され、この特集号の一編を執筆した。

今年度は新たな研究プロジェクトに関わった。一つは科学研究費補助金基盤研究(C)「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」(研究代表者:里口保文)が追加採択をうけ、年度途中(12月より)からはじめた。もう一つは、国際協力で行われている深海底掘削計画IODP「Expedition 333 NanTroSEIZE Stage 2 Input Coring 2 & Heat Flow」(研究代表者:Toshiya Kanamatsu & Pierre Henry)へ堆積学者として約1ヶ月間乗船した。この研究は乗船後に、掘削されたボーリングコア資料をつかった火山灰の研究を行っている。

展示事業では、昨年度末から今年度初頭までおこなったギャラリー展示「鉱物化石展2010 ぼくらは大地に夢を掘る」を湖国もぐらの会の方々と共同で開催した。また、常設展示A展示室にておこなっている地域の人々による展示コーナーでは、湖国もぐらの会の方が展示を行うための協力をおこない、2011年1月から噴火活動を開始した霧島火山群の新燃岳から噴出した火山灰展示を期間限定の展示として行った。

その他、地域の方々と実施する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸職員と行ったほか、個人管理インターネットページで、博物館事業や、研究についての情報発信を行った。

## 印刷物

### 【学術論文】

里口保文(2010) 鮮新-更新世境界付近の広域テフラとテフラ層序の分解能. *第四紀研究*, 49: 315-322.

里口保文・竹村恵二・公文富士夫・井内美郎・高原 光(2010) 特集号「古環境変動の解明へ貢献する湖沼堆積物の役割」の趣旨. *第四紀研究*, 49: 83-84.

里口保文(2010) 琵琶湖堆積物の長時間スケール層序と構造運動の復元. *第四紀研究*, 49: 85-99.

Masuda, F., Saito, Y. and Satoguchi, Y. (2010) Depositional environments and a paleogeographic position for the Pleistocene basal part of the Karasuma Deep Drilling Core from Lake Biwa, central Japan. *Quaternary Research (Daiyonki-Kenkyu)*, 49: 121-131.

### 【一般向けの著作】

里口保文(2011) ここだけの湖の話〜琵琶湖博物館の研究室から〜7 人間は生活用品に利用 火山灰400万年前から降り続く, *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2011年1月20日.

里口保文(2011) 第一章 能登川の土地の成り立ち. 東近江市史能登川の歴史編集委員会 編, *東近江市史 能登川の歴史*, 第一巻 原始・古代編, 東近江市: 5-29.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 里口保文（2010年8月20日）琵琶湖の拡大期付近における烏丸コアのテフラ対比再検討．日本第四紀学会2010年大会，日本第四紀学会，東京学芸大学（東京都小金井市），[ポスター発表]．
- 里口保文・飯村 強（2010年8月22日）地域の人々が展示をする一湖国もぐらの会と琵琶湖博物館の例へ．日本第四紀学会2010年大会，日本第四紀学会，東京学芸大学（東京都小金井市），[ポスター発表]．
- 里口保文・服部 昇・石田志朗・平尾藤雄・三矢信昭・佐藤ふみ（2010年9月19日）テフラ対比からみた古琵琶湖層群高島層の年代．日本地質学会第117年学術大会，日本地質学会，富山大学（富山県富山市），[口頭発表]．
- 中条武司・中口 譲・益田晴恵・里口保文・淀川水系調査グループ「プロジェクトY」水質班・琵琶湖博物館「水はしかけ」（2010年9月19日）市民・博物館・大学の連携による淀川水系の水質環境調査．日本地質学会第117年学術大会，日本地質学会，富山大学（富山県富山市），[口頭発表]．
- 里口保文（2011年1月15日）Tephrostratigraphy of the Kazusa Group, International Symposium on Type Section for Lower-Middle Pleistocene Boundary. アジア太平洋第四紀層序委員会・古関東深海盆ジオパーク認証推進協議会，サンプラザ市原（千葉県市原市），[口頭発表]．

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群上部と東海層群上部の層序対比」，（2010年度）
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖周辺のボーリングコアから見た琵琶湖の成立」（研究代表者：里口保文），研究代表者（2008年度～2010年度）．
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析」（研究代表者：井内美郎），共同研究者（2008年度～2010年度）．
- 科学研究費補助金（基盤 C）「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」（研究代表者：里口保文），研究代表者（2010年度～2012年度）．
- IODP「Expedition 333 NanTroSEIZE Stage 2 Input Coring 2 & Heat Flow」（研究代表者：Toshiya Kanamatsu & Pierre Henry），乗船研究者（2010～2011年）．

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 東海大学社会教育センター，東海大学博物館研究報告，査読，1件．
- 日本地質学会，生涯教育委員会委員，2010年度．
- 日本地質学会近畿支部，幹事，2009年～．
- 日本地質学会，友の会ワーキンググループ，2010年．
- 日本第四紀学会，評議員，2009年9月～．
- 日本第四紀学会，テフラ・火山研究委員会委員，2010年度．
- 日本第四紀学会，第四紀研究編集委員，2007年9月～2011年8月．
- 日本第四紀学会，第四紀研究，査読，2件．
- 日本堆積学会，事務局員（HP担当），2008年1月～2010年12月．

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件．
- 2010年度，水はしかけ，担当．

- 2010年4月11日、鉱物のカラフルレプリカつくっちゃおー、ギャラリー展示関連イベント、琵琶湖博物館、担当。  
(湖国もぐらの会、びわたん共同開催)。
- 2010年7月25日、夏休み自由研究講座(地学コース)、博物館講座、琵琶湖博物館、進行調整(湖国もぐらの会と共同)。
- 2010年10月3日、化石観察会、観察会、多賀町、実施補助、(多賀町立博物館共催)。
- 2010年11月11日、指導者のための博物館利用講座、第2回大地の成り立ちと変化、博物館講座、琵琶湖博物館、講師。
- 2011年2月12日・26日、水晶のレプリカをつくろう、琵琶湖博物館わくわく探検隊、琵琶湖博物館、解説、各日2回、(びわたん担当者・びわたん主導)。
- 2011年3月12日・26日、くるくるキラキラ☆偏光スコープ、琵琶湖博物館わくわく探検隊、琵琶湖博物館、解説、各日1回、(びわたん担当者・びわたん)。

#### **他の博物館・機関等主催行事**

- 2010年4月17日、琵琶湖の成り立ちについて、立命館守山高校、レイクアカデミー(土曜講座)、琵琶湖博物館、講師。
- 2010年7月21日、琵琶湖の生い立ち、石山高校、夏季集中講義「琵琶湖探求」、琵琶湖博物館、講師。
- 2010年9月4日、琵琶湖の成り立ちについて、立命館守山高校、レイクアカデミー(土曜講座)、琵琶湖博物館、講師。
- 2010年10月13日、琵琶湖の環境と琵琶湖博物館の見所、新潟県立直江津高校、博物館見学、琵琶湖博物館、講師。
- 2010年11月20日、琵琶湖学習、立命館守山中学校、琵琶湖学習、琵琶湖博物館、学習対応。
- 2010年11月20日、足下のなりたちと琵琶湖の生い立ち、聖泉大学、学びのフリーマーケット、聖泉大学(彦根市)、講師。

#### **視察対応**

- 2010年6月20日、益富地学会館博物館見学、益富地学会館会員、琵琶湖博物館。

#### **メディアへの協力**

- 2010年4月22日、NHK 天津放送局、おうみ発610「週間ガッコウ通信」、展示参加の学校が受けた取材対応、(2010年4月13日)。
- 2010年5月11日、読売新聞しが県民情報、親子で水晶の形を再現、取材対応、(2010年4月11日取材)。
- 2010年3月15日、読売新聞、A展示室トピック展示「新燃岳の火山噴出物」、取材対応、(2011年3月1日取材)。
- 京都新聞、A展示室トピック展示「新燃岳の火山噴出物」、取材対応、(2011年3月1日取材)。

#### **【情報整備活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

琵琶湖博物館個人管理ページ(里口)、管理・運営、更新多数。

##### **他博物館・機関の活動**

海洋研究開発機構、IODP 第333次研究航海レポート、研究航海紹介原稿執筆、全7回。  
([http://www.jamstec.go.jp/chikyuu/nantroseize2010/j/report\\_333.html](http://www.jamstec.go.jp/chikyuu/nantroseize2010/j/report_333.html))。

#### **【資料整備活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

寄贈火山灰標本の整理、整理・登録準備、約100件。  
古琵琶湖層群の火山灰、整理・登録、10件。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2010年3月20日～5月9日、ギャラリー展示「鉱物化石展 2010 ぼくらは大地に夢を掘る」、企画・調整・運営主担当（湖国もぐらの会と共催）。

2010年6月8日、A展示室コレクションギャラリー「地域の人々による展示コーナー」の展示替え、展示内容調整等（湖国もぐらの会・福井龍幸氏と共同）。

2011年2月19日～3月31日、A展示室コレクションギャラリー内トピック展示「新燃岳の噴火による火山噴出物」、企画・展示、（小泉 誠氏と共同）。

モーニングレクチャー，講義，3回。

### 【企画調整活動】

業績目録編集，編集担当，2010年度。

研究部連絡調整，連絡調整担当，2010年度。

新任職員等研修，A展示室紹介、展示解説，2010年4月20日，琵琶湖博物館。

### 【研究部関連事業】

研究発信業務，総括，2010年度。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2010年度，情報誌編集委員。

河川行政の課題の1つである河川の維持管理に伴って発生した伐採竹の処分コスト削減や資源としての循環利用の可能性について検討を進めた。

竹の利活用については様々な分野で研究開発が進められているが、コストや需要の面から決め手に欠ける状況である。その中で、有効な手法の1つとして期待されているのが、畜産での敷料利用である。現在、家畜の敷料としてオガクズが使用されているが、製材所の減少や住宅の建築に影響を受けるなど、その入手については不安定な状況にある。また、竹パウダーの品質についてもオガクズと遜色のないデータが得られており、これらのことから、オガクズに代えてある程度の需要が見込めると考えられる。

今年度も畜産農家に了解を得て、敷料として使用してもらい課題抽出を行った。昨年の竹パウダー作製において課題となった、畜舎内でパウダー作製を行った際に発生する騒音が原因の家畜へのストレスについては河川敷で作製を行うこととした。作製方法については、伐採後すぐにパウダー化を行い敷料置き場で切り返して発酵（乾燥）させることとしていたが、非常に手間と時間がかかることや、切り返しがうまくいかないと水分がうまく抜けないためにカビが発生するなどデリケートな面もあることから、伐採後に竹を現地で乾燥させてからパウダー化することとした。

結果は、概ね良好で継続して使ってみたいと畜産農家からも声をいただいた。乾燥後に破碎を行ったことにより割れた竹チップが混入するため、飼育への影響が心配されたが、いつもと変わることなく使用することができ、作製方法の変更については問題ないと考えられた。

今後の課題としては、農家によって使用している敷料（オガクズの粒径）が異なるため、どの程度の粒度が最も広く受け入れられるのかを調査する必要がある。また、今後の需要に対応するためには、大量に作製できる機械への変更や保管場所の確保が求められる。

今回は実験ということで、河川法や廃掃法などの法令についての考慮はしなかったが、河川の維持管理に伴って発生したものを処分する場合は一般廃棄物となり、許可された業者でしか運搬できず、現場から持ち出すことすら安易にできないなどの問題がある。しかし、河川から産出した有価物として有償売却となれば、廃棄物でなくなるため法的な整理が可能ではないかと考えている。

竹パウダーを使用していく中で、畜産農家よりいつもより臭いが少ないかも知れないとの話があった。畜産農家の悩みの一つには、近隣への臭いの対応がある。また、竹には抗菌効果があるとして、食物や飲料の容器として用いられ、その皮はおにぎりを包むなどの利用がされてきた。オガクズには特定の細菌が発生することが知られており、竹パウダーが敷料の細菌数を減らし、臭いも抑えることができれば、オガクズの代用品としてではなく有用な敷料としての付加価値に期待している。そうなれば、前述の課題解決の1つになるのではないかと考えている。

放置された竹林も、近年ボランティアによる伐採が各所で行われ始めている。竹パウダー作製にかかるコスト構造としては機械経費と人件費であるので、機械的なコストだけでなく、これらの状況をうまく取り込んだコスト削減についても検討し、伐採竹の資源としての循環利用について考えていくこととしたい。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

奥村浩匡（2010年7月15日）逆台形擁壁工法（バランス工法擁壁）の紹介。平成22年度近畿地方整備局研究発表会，近畿地方整備局，近畿地方整備局（大阪府大阪市），[口頭発表]。

奥村浩匡（2011年3月18日）河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの検討について。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの検討」，(2010年度).

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年11月20日，班での調べ学習への助言，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，学習助言.

#### 視察対応

2010年6月22日，河川の管理と水質について，中水珠江規画観察設計有限会社.

2011年1月22日，琵琶湖淀川水系について，JICA研修員.

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

常設展示維持管理，主担当.

常設展示維持管理委託，主担当.

屋外展示維持管理委託，主担当.

回転実験室修繕業務を実施.

降雨装置（C展示室）修繕を実施.

琵琶湖の水位の変化（B展示室）更新.

モーニングレクチャー，講義，4回.

展示交流員と話そう，内容指導.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2010年度，滋賀県土木交通部河港課河川環境担当，主査を兼務.

今年度は、中世琵琶湖のフナ属をめぐる消費と漁撈の実態解明に勢力を傾注した。

まず、科学研究費補助金基盤研究 (C) 「日本中世における内水面の環境史的研究」(研究代表者：橋本道範) および琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における内水面の環境史的研究—その環境と生業—」(研究代表者：橋本道範) については、論考「日本中世における魚介類消費と漁撈—琵琶湖のフナ属を素材として—」の素稿を完成させた。これは、昨年度取りまとめた『琵琶湖博物館研究調査報告書 25 号 日本中世魚介類消費の研究—一五世紀山科家の日記から—』の成果を踏まえたもので、フナ属が首都京都においてどのように消費されていたのかを明らかにした上で、そうした都市消費の動向が琵琶湖漁撈とどうかかわっていたのかについて検討を加えたものである。

また、中世琵琶湖における都市消費と漁撈との関係および禁漁(殺生禁断)について概論した「Medieval social relationships and Lake Biwa fisheries」が印刷中である。

なお、事業に関わるが、齊藤慶一氏企画・運営によるトピック展示「堅田の郷土 居初家の歴史」について副担当として補助を行った。

すでに終了した科学研究費補助金基盤研究 (B) 「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」(研究代表者：水野章二) に関して、『賀茂御祖皇太神宮諸国神戸記』のうち、中世前期の堅田漁撈についての基礎史料を翻刻して紹介した小論「中世前期の堅田漁撈—『賀茂御祖皇太神宮諸国神戸記』所収堅田関係史料の紹介—」が印刷中である。この史料は、これまで利用されてはいたものの本格的に紹介されていなかったもので、中世前期の堅田の貢納、漁撈保障、漁法、漁業権について分析することが可能となる重要史料である。

総合地球環境学研究所の研究プロジェクト 4-4 「東アジア内海の新石器化と現代化—景観の形成史—」(研究代表者：内山純蔵) に関して、琵琶湖における「寺辺」の殺生禁断について概説した「The Ban on Killing in the Vicinities of Lake Biwa's temples in Medieval」(中世琵琶湖の寺辺殺生禁断) を投稿した。

すでに終了した総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用」に関して、小論「資料情報のネットワーク化」が印刷中である。これは、博物館資料の情報ネットワークの構築のためには、博物館資料の利用者として「地域の人たち」と「悪意の利用者」の両極を措定する必要があることを述べたものである。

以前に専門研究として取り組んだ中世裁許状研究に関して、拙論を含む大山喬平編『中世裁許状の研究』(塙書房、2008年) に対して、いくつかの書評が寄せられている。そのうち、新田一郎氏による批判(『日本史研究』569) について検討を行った。これについては成稿できていない。

科学研究費補助金基盤研究 (C) 「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」(研究代表者：里口保文) に関して、琵琶湖洪水年表の作成に向けて作業を行っている。

その他事業関係の業務については下記に概要を示す。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

橋本道範 (2010) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～5 中世でも「子持ち」が人気. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2010年12月23日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

橋本道範 (2010年5月30日) 日本中世の裁判をめぐるいくつかの論点—新田一郎氏の書評から—. 裁許状研究会,

京大会館（京都府京都市），[口頭発表]。

橋本道範（2010年7月22日）日本中世における魚介類消費と漁撈秩序－琵琶湖のフナ属を素材として－。熊本大学大学院教育学研究科社会科合同ゼミ，熊本大学大学院教育学研究科（熊本県熊本市），[口頭発表]。

橋本道範（2010年9月21日）日本中世における魚介類消費と漁撈－琵琶湖のフナ属を素材として－。岡山中世史研究会第44回例会，就実大学・就実短期大学図書館（岡山県岡山市），[口頭発表]。

橋本道範（2010年12月17日）日本中世における魚介類消費と漁撈－琵琶湖のフナ属を素材として－。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。

橋本道範（2010年12月19日）日本中世における魚介類消費と漁撈－琵琶湖のフナ属を素材として－。共同ワークショップ「東アジアの『水環境』をめぐる社会・経済・文化の歴史的諸相」，滋賀県立琵琶湖博物館・科学研究費補助金（基盤B）「朝鮮半島の『水環境』をめぐる社会・経済・文化の歴史的諸相－漢江を中心として」共催，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]。

### 【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤C）「日本中世における内水面の環境史的研究」（研究代表者：橋本道範），研究代表者（2007年度～2010年度）。

科学研究費補助金（基盤C）「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」（研究代表者：里口保文），研究分担者（2010年度～2012年度）。

総合地球環境学研究所4-4プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」（研究代表者：内山純蔵），メンバー（2005年度～2011年度）。

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，3件。

2010年8月3日，博物館資料と整理について－歴史資料の収集・整理・保管と活用を中心に－，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

#### メディアへの協力

2011年2月15日，NHK，おうみ発610 びわ湖クローズアップ，出演，（2011年2月14日収録）。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

特別観覧，対応，1件。

定期収蔵庫清掃（特別収蔵庫・一時保管庫），実施，12回。

大掃除（B展示室），実施，1回。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2010年5月11日～6月13日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第15回，補助。

2010年6月15日～7月11日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第16回，補助。

2010年7月13日～8月8日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第17回古文書にみる琵琶湖の船，補助。

2010年8月10日～9月12日，収蔵資料展示「企画展示関連企画湖底の魚と魚とり」第18回，補助。

2010年9月14日～10月17日，収蔵資料展示「企画展示関連企画湖底の魚と魚とり」第19回，補助。

2010年10月19日～11月21日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第20回堅田の風景，補助。

2010年11月23日～12月23日，トピック展示「堅田の郷土 居初家の歴史」第1期堅田浦の由緒と居初家，補助。

2011年1月3日～2月6日、お正月トピック展示「ウサギ」展歴史資料の部、補助.

2011年1月3日～2月6日、トピック展示「堅田の郷土 居初家の歴史」第2期堅田の船道郷土、補助.

2011年2月8日～3月13日、トピック展示「堅田の郷土 居初家の歴史」第3期居初家と堅田藩、補助.

2011年3月15日～4月17日、収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第21回、補助.

B展示室陳列替え、実施、10件.

モーニングレクチャー、講義、4回.

花粉化石群集の組成変化、堆積物の各種分析、または遺跡を対象とした環境考古学的手法をもちいて過去数十万年から現在にかけての自然環境の変遷と人間活動との関係性を検討している。近年は近江はもとより、アジア各国を対象に、フィールド科学の立場から「人為的環境の成立過程」の復原を行っている。

本年度は、自己が研究代表をつとめる科研費や、外部競争的獲得資金をもとにして、現地調査や、国際学会での研究成果の公表を行った。また、学術論文としての公表を順次行っており、査読中も含めて、数本は近日中に公表される予定である。

これらの海外調査は、異分野との共同研究であり、自己の専門性を意識しつつ、フィールドの一次データを重視した「地に足のついた地域研究」を継続して実施する予定である。また、学会役員や、大学での非常勤講師なども継続して実施した。また、今年度から新規に東京外国語大学の共同研究員として、異分野の領域の研究者らと、共同研究を開始し、次期プロジェクトや方法論について、検討を始めた。

これらの研究は環境史研究領域を対象とするものであるが、環境考古学さらには環境史といった研究領域群は、既存学問分野においては境界領域に位置している。したがって、自然科学的方法論を手段としつつも、人文・社会科学の諸分野などとの異分野との共同研究から、「人と自然との関係性の歴史的検討」という主題に関して、世界各地の地域研究を通じて模索してゆきたいと考えている。

## 印刷物

### 【学術論文】

- 上中央子・大庭重信・宮本真二 (2010) 大阪市永原遺跡の畠状遺構における花粉・種実分析に基づく耕地利用評価。  
*第四紀研究*, 49 : 191-200.
- 宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・セリム ムハマッド (2010) ベンガル・デルタの微地形発達と土地開発史の対応関係の解明, *地学雑誌*, 119 (5) : 852-859.
- Miyamoto, S. (2010) Buried Humic Soil Layers and Land Development in Central and Eastern Himalayas. Bhagabati, A. K. ed., *Agricultural Ecosystem and Sustainable Development in Brahmaputra Basin, Assam, India, Short Papers and Abstracts*, Gauhati, Assam, India : 56-61.

### 【専門分野の著作】

- 宮本真二 (2010) ヒマラヤ地域における民族移動と土地開発過程 総合地球環境学研究所・地球研プロジェクト D-03. 奥宮清人 編著, *人の生老病死と高所環境—『高地文明』における医学生理・生態・文化適応—2007年～2009年度本研究中間報告書*, 総合地球環境学研究所, 京都 : 64-72.
- Miyamoto, S., Ando, K. and Abani Kumar BHAGABATI (2010) Agricultural Land Formation Process and Deforestation in the Himalayas. *Proceedings of 14th International Conference of Historical Geographers*, Kyoto : 213.
- 宮本真二 (2010) 人文地理学会歴史地理研究部会 112 回要旨 (記録). *人文地理*, 62 (1) : 94-96.
- 藤岡悠一郎・宮本真二 (2010) ナミビア. 環境総合年表編集委員会 編, *環境総合年表—日本と世界—*, すいれん社 : 500-501.
- Miyamoto, S., Ando, K. and Abani Kumar BHAGABATI (2010) Agricultural Land Formation Process and Deforestation in the Himalayas. Kinda et al., eds. *Proceedings of the International Conference of Historical Geographers*, Kyoto 2009, Kyoto University Press : 213.
- 宮本真二 (2011) ヒマラヤの埋没腐植土層にみる土地開発史. 奥宮清人 編, *生老病死のエコロジー—チベット・ヒ*

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・アバニィ クマール バガバティ・ムハマッド セリム (2010年4月16日) ブラマプトラ川流域の高所と低所における土地開発過程，琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館(草津市)，[口頭発表].
- 宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・アバニィ クマール バガバティ・ムハマッド セリム (2010年5月15日) ベンガル・デルタ中央部の地形環境変遷と土地開発. 歴史地理学会大会，高崎経済大学(高崎市)，[口頭発表].
- 宮本真二 (2010年10月24日) 間接的な方法からみた土地開発史—アジア・モンスーン地域における民族移動と土地開発—. 東京外国語大学2010年度第2回研究会「社会開発分野におけるフィールドワークの技術的融合を目指して」，東京外国語大学(府中市)，[口頭発表].
- Miyamoto, S., Ando, K. and Abani Kumar BHAGABATI (2010年11月21日) Buried Humic Soil Layers and Agricultural Land Formation Process in the Himalayas. 23rd Annual Conference of the Indian Institute of Geomorphologists, Gauhati University (Assam, India), [口頭発表].
- 宮本真二 (2010年12月4日) グレート・ヒマラヤのなかでのブータンとアルナーチャルの位置づけ. 地球研・高所プロジェクト 第4回全体会議，総合地球環境学研究所(京都市)，[口頭発表].
- Miyamoto, S. (2010年12月13日) Buried Humic Soil Layers and Land Development in Central and Eastern Himalayas. International Workshop of Contemporary Changes in Environment and Development, Bangladesh Agricultural University (Mymensingh, Bangladesh), [口頭発表].
- Miyamoto, S., Ando, K., Nityananda Deka, Abani Kumar BHAGABATI and Tomo Riba (2011年2月10日) Historical Land Development in Central and Eastern Himalayas. Grassroot Level International Workshop in Dirang “Health and Development among Highlanders in Arunachal Pradesh, India”, February 9-10, 2011, National Research Center on Yak (Dirang, Arunachal Pradesh, India), [口頭発表].
- 宮本真二・安藤和雄・Nityananda Deka・Abani Kumar Bhagabati・Tomo Riba (2011年2月20日) グレート・ヒマラヤのなかでの「ブータン—アッサム・ヒマラヤ」の位置. 京都大学生存研研究所・第6回南アジアの自然環境と人間活動に関する研究集会インド亜大陸北東部、アッサム、メガラヤ、バングラデシュの自然災害と人間活動，京都大学防災研究所(宇治市)，[口頭発表].
- 宮本真二 (2011年2月28日) 地理「屋」は、フィールドで何をみているか?. 東京外国語大学2010年度第4回研究会「社会開発分野におけるフィールドワークの技術的融合を目指して」，東京外国語大学(府中市)，[口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「土地開発史の検討」，(2010年度).
- 科学研究費補助金(基盤 A)「ベンガル湾縁辺における自然災害との共生を目指した在地ネットワーク型国際共同研究」(研究代表者：安藤和補)，連携研究者(2009～2012年度).
- 総合地球環境学研究所プロジェクト研究「人間の生老病死と高所環境—「高地文明」における医学生理・生態・文化適応—」(研究代表者：奥宮清人)，プロジェクトメンバー(2006～2011年度).
- 総合地球環境学研究所プロジェクト研究「東アジア内海の新石器と現代化：景観形成史」(研究代表者：内山純蔵)，プロジェクトメンバー(2006～2011年度).
- 科学研究費補助金(若手 B)「アジア・モンスーン地域における民族移動に伴う「土地開発史」の再検討」(研究代表者：宮本真二)，研究代表者(2009～2012年度).
- 科学研究費補助金(若手 B)「埋蔵文化財情報を利用した高精度の地形発達史研究」(研究代表者：小野映介)，研究協力者(2009～2011年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境史研究会，企画・運営，2003年ー。

人文地理学会，地理学文献目録編集員・雑誌担当委員，2006年7月ー2010年10月。

人文地理学会，歴史地理研究部会世話人，2007年11月ー2010年10月。

人文地理学会，編集員会，2008年11月ー2010年10月。

立命館地理学会，編集員会，2010年11月ー。

人文地理学会，人文地理，査読，4件。

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年1月5・6・7日，滋賀県立大学集中講義，「自然地理学」。

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

##### 視察対応

2010年10月8日，琵琶湖博物館の概要説明，インド・ラジブガンジー大学関係者，琵琶湖博物館。

2010年12月3日，琵琶湖博物館の概要説明，フィリピン大学関係者，琵琶湖博物館。

2011年2月25日，琵琶湖博物館の概要説明，バングラデシュ NGO 関係者，琵琶湖博物館。

#### 【資料事業】

##### 琵琶湖博物館の活動

資料収集に関すること，主任。

収蔵庫設備，工事，業者清掃の連絡調整に関すること，主担当。

収蔵庫施設等の防虫防かび管理（清掃を含む）に関すること，主担当。

くん蒸に関すること，主担当。

海外での資料の活用に関すること，副担当。

#### 【情報整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人管理ページ（宮本），更新。

宮本真二（2010・11年随時）研究成果の紹介等，<http://miyamoto-s.net/>。

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

#### 【企画調整活動】

新任職員等研修，博物館の資料保存と IPM，講師，2010年4月13日，琵琶湖博物館。

#### 【研究部関連事業】

電子顕微鏡の維持管理，主担当。

研究セミナーに関すること，主担当。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【海外渡航】

2010年7月18日～8月14日，ラオス共和国・ミャンマー連邦・バングラデシュ人民共和国，現地調査・資料収集.

2010年8月28日～9月23日，インド共和国，現地調査・資料収集.

2010年11月2日～11月23日，インド共和国，現地調査・資料収集.

2010年12月10日～12月23日，バングラデシュ人民共和国，現地調査・資料収集.

2011年2月4日～2月18日，バングラデシュ人民共和国，現地調査・資料収集.

琵琶湖博物館において、2010年度は、主に専門研究と総合研究（地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」、総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」）及び「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」を中心とした共同研究を進めてきた。これらの共同研究では、琵琶湖と中国・太湖における水や水田環境をめぐる利用の歴史の変遷に関するデータの収集・調査・研究に努めた。その成果の一部は、村落社会学会国際会議や琵琶湖博物館・科学研究費補助金基盤研究共催ワークショップでの発表及び学術論文としての出版を行ってきた。総合研究においては、「Analysis of the Social Conditions Amenable for Sustainable Organic Rice Farming around Lake Biwa in Japan」、「水辺利用と景観保全」を題とした研究成果を発表した。また、調査研究成果の一環として、『21世紀東アジア社会学』や『生活文化史』に原著論文として掲載された。その他、中日新聞の連載コラム「湖岸より」に執筆もした。さらに、総合・専門研究プロジェクトによる調査研究が継続中であり、湖沼環境における水田・水資源保全と家船研究に関する研究成果は、とりまとめて「International Symposium on Water Resource and Environmental Protection」(ISWREP)及び「国際淡水湖沼」に投稿したところである。

琵琶湖博物館交流事業については、フィールドレポーター業務を担当し、定例会、調査報告、掲示板発行、交流会の運営などのほか、博物館案内・展示説明、研究交流などを通じて、交流事業の推進に努めた。また、2010年度にはアンケート型調査の実施及びフィールドレポーターに関連する積極的広報により、その活動は、拡大・進展しつつある。さらに、フィールドレポーター事業において、はじめての試みとして、2010年に生物多様性国際会議（COP10）に関連するシンポジウムに参加し、フィールドレポーター調査成果発表等及び地域間の交流を行ったとともに、琵琶湖博物館の交流推進・交流拡大を試みた。

## 印刷物

### 【学術論文】

- 楊 平 (2010) Regional maintenance infrastructure of "waterside" -Preservation of living environment by boat dwellers and farmers of Jiang Nan riverside district in China-. *East Asian Sociology of the 21<sup>st</sup> Century*, Japan-China Sociological Society, 3 : 194-202.
- 楊 平・用田政晴 (2010) 名水百選認定と農村水環境の歴史的保全. *生活文化史*, 58 : 3-12.
- Makino, A. and Yang Ping (2010) Analysis of the Social Conditions Conducive to Sustainable Organic Rice Farming Aroud Lake Biwa in Japan. *4th Asian Rural Sociology Association (ARSA) International Conference* : 284-296.

### 【専門分野の著作】

- 楊 平・ZHU WEI (2010) The Environment Change and Landscape in Tai Lake, China. *Studies of Landscape History on East Asian Inlands Seas* : 33-40.
- 楊 平・用田政晴 (2010) 水環境の歴史的保全を社会学から考える－泉神社湧水－. *佐加太*, 32 : 2-3.

### 【一般向けの著作】

- 楊 平 (2010) 湖岸より 61 水辺の景色と暮らし. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年6月5日.
- 楊 平 (2010) 湖岸より 70 湧水保存へ住民尽力. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年8月7日.
- 楊 平 (2010) 湖岸より 79 重要なフィールドレポーター. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年10月9日.
- 楊 平 (2010) 湖岸より 88 水辺の生活の知恵「カワヤ」. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年12月11日.

- 楊 平 (2010) 暮らしと自然とのかかわり合い. フィールドレポーター掲載, 1 (59) : 1.
- 楊 平 (2011) 湖岸より 97 中国・太湖と琵琶湖の「家船」. 中日新聞, 中日新聞社: 2011年2月19日.
- 楊 平 (2011) 琵琶湖の自然とフィールドレポーター調査. フィールドレポーター掲載, 4 (62) : 1.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 楊 平 (2010年5月21日) The transformation of the waterside scene -Around the Tai Lake catchment area-. 総合地球環境学研究所共同研究会, 大谷会館 (京都市), [口頭発表].
- 楊 平 (2010年6月27日) 地域コミュニティにおける水辺利用と管理に関する環境社会学的研究. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 楊 平 (2010年8月27日) 水辺景観の維持条件—中国・太湖の事例を中心として—. 琵琶湖博物館環境史領域研究会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 牧野厚史・楊 平 (2010年9月8日) Analysis of the Social Conditions Amenable for Sustainable Organic Rice Farming around Lake Biwa in Japan. 日本村落社会学会国際シンポジウム, フィリピン, [口頭発表].
- 楊 平 (2010年11月26日) 水環境をめぐる保全の仕組み. 琵琶湖博物館環境史領域研究会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- 楊 平 (2010年12月14日) 中国農業の変革における新たな問題と課題. 琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [企画・運営・司会].
- 楊 平 (2010年12月19日) 水辺利用と景観保全. 共同ワークショップ「東アジアの「水環境」をめぐる社会・経済・文化の歴史的諸相」, 滋賀県立琵琶湖博物館・科学研究費補助金 (基盤 B) 「朝鮮半島の「水環境」をめぐる社会・経済・文化の歴史的諸相—漢江を中心として」共催, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「農村地域における水と生業に関する環境社会学的研究」, (2010年度).
- 環境省環境研究総合推進費研究題目「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者: 夏原由博), 共同研究者 (2009年度~2011年度).
- 総合地球環境学研究所 4-4 プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」(研究代表者: 内山純蔵), メンバー (2009年度~2011年度).
- 科学研究費補助金 (基盤 C) 「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」(研究代表者: 楊平), 研究代表者 (2010年度~2014年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者: 前畑政善), 共同研究者 (2008年度~2010年度).

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2010年11月15日, 立命館大学 (琵琶湖草津キャンパス), 「琵琶湖の水環境保全の課題」.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

フィールドレポーター運営, 夏休み学習, 質問コーナー運営, 担当.

はしかけ運営, 副担当.

2010年6月15日, 水の環境学習, サテライト博物館「総合的な学習」, 高島市立青柳小学校 (滋賀県高島市), 講

師.

2010年10月23日, COP10 関連シンポジウム「いきものみつけ」にて, フィールドレポーター事業関連, 推進.

### **他の博物館・機関等主催行事**

2010年4月24日, 湖と人々との関わりについて, 立命館守山高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.

2010年7月21日, 生活と水のかかわり, 滋賀県立石部高等学校, 夏季集中講義「琵琶湖探究」, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.

2010年8月5日・2010年12月22日, 琵琶湖の環境教育施設及び環境教育, 北九州国際技術協力協会, 昆明市水環境改善研修事業, 琵琶湖博物館(草津市), 講師, 2件.

2010年10月16日, 水利用と生活との関わりについて, 立命館守山高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.

2010年11月11日, 滋賀県草津市養護学校, 琵琶湖博物館(草津市), 展示解説及び取材対応.

2010年12月16日, 環境教育と博物館について, 環境教育施設運営及び人材育成, JICA 国際協力機構, 琵琶湖博物館(草津市), 説明.

2010年12月18日, かばたの水利用, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館(草津市), 学習指導及び展示解説.

2011年2月20日, 琵琶湖博物館と水環境の研究, 甲南大学文学部, 琵琶湖博物館(草津市), 講義及び案内・展示解説.

2011年3月13日, 台湾国立雲林科技大学創意デザイン研究科, 琵琶湖博物館(草津市), 概要説明・展示解説.

### **視察対応**

2010年5月22日, 博物館の概要説明および案内, 無錫市視察団, 琵琶湖博物館.

2010年8月5日, 通訳及び展示説明, 日中次世代幹部交流訪問団, 琵琶湖博物館.

2010年10月22日, 概要説明及び展示解説, 中国・湖南省視察団, 琵琶湖博物館.

2010年12月18日, 展示解説, 中国環境観光キーパーソンファムツアー「環境観光」, 琵琶湖博物館.

2011年3月15日, 概要説明・展示解説, 中国旅行エージェント, 琵琶湖博物館.

### **メディアへの協力**

2010年5月16日, 毎日新聞・読売新聞, フィールドレポーター関連の活動について, (2010年5月16日取材対応).

中国中央電視台(CCTV), 走遍五洲(アジア探訪), 琵琶湖博物館の説明・撮影協力・インタビュー, (2010年5月23日取材対応).

2010年6月28日, 京都新聞, 探していますイチョウウキゴケ調査について, (2010年6月25日取材対応).

台湾及び香港メディアの取材対応, 琵琶湖博物館の概要説明・展示解説, (2011年2月18日取材対応).

### **【情報整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

クエリーの質問対応, 水利用に関する質問への回答, 2件.

### **【資料整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

資料の受け入れ・整理, 1件.

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

2010年度, 琵琶湖博物館常設展示(C展示室)維持管理, 担当.

2010年度, C展示室フィールドレポーター調査コーナー, 展示更新.

2010年度，C展示室富江家，下水道展示コーナー，更新.

2010年度，湖底の村，展示パネル作成.

モーニングレクチャー，講義，4回.

#### 【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示室くらしのなかの水をしらべる・蛇口のあるくらし・せっけん運動から学ぶこと・クリーク地帯の魚とり（水とくらし），展示説明，2010年4月21日，琵琶湖博物館.

2010年度，琵琶湖博物館特別講演会，ホール・会場係，3件.

#### 【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究セミナー，副担当，2010年度.

琵琶湖博物館創造セミナー，副担当，2010年度.

「世界の古代湖－琵琶湖を未来につなぐ－魚、漁業、食文化－」科研費関連公開シンポジウム，会場係，2010年11月27日，琵琶湖博物館.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【海外渡航】

2010年7月22日～7月31日，中国・江蘇省周辺，民具収集・博物館・現地調査.

2010年9月6日～9月11日，フィリピン，村落社会学会国際大会研究成果発表.

2010年9月25日～10月8日，中国・江蘇省周辺，情報収集・現地調査.

2011年1月29日～2月5日，中国・太湖周辺，民具収集・博物館・現地調査.

大学院時代から継続して行ってきた、滋賀県内の集落や民家の調査・研究についてとりまとめ作業を行った。2011年3月17日には、「間取り図および間取り図簿を用いた集落の復原的研究—滋賀県湖東の集落と民家を事例として—」という論題で滋賀県立大学に博士論文として提出を行った。その他、「彦根市史 景観編」に、博士論文でも取り上げた彦根市肥田町の伝統的集落景観について、執筆を行った。

2010年度の研究報告会では、「間取り図を用いた集落の復原的研究」と題して口頭発表を行った。研究報告会では、滋賀県湖東で使われた土座床のある民家の間取りについて、複数の絵図の情報を総合的に分析し、滋賀県湖東の土座と湖北の民家の土座との比較を行いながら、滋賀県の土座の特徴について考察し、発表した。

2010年度琵琶湖博物館専門研究では、昨年度に引き続き桶風呂の製作工程の記録および元桶屋である有馬殿為次氏に、桶職の道具や平釜についての聞き取り調査を行った。

博物館の事業では、交流グループにおいて、はしかけ制度の運営・管理を主に担当した。今年度は、はしかけ制度成立10周年にあたり、年間を通じて、はしかけグループ担当者および会員へのアンケート、はしかけグループの活動状況の見学、グループ担当者との意見交換を積極的に行い、はしかけ制度の現状と改善点についての情報収集をおこなった。その成果を踏まえ、今年度末には、更新手続きの制度改善策を実施し、前年度3月末までの更新率が約6割5分であったところを、8割にまで改善することができた。来年度も、制度改善の取り組みを継続して実施していきたい。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

老 文子(2011) 肥田の集落. 新修 彦根市史 大10巻 景観編, 彦根市史編集委員会, 滋賀県彦根市: 188-193.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

老 文子(2010年6月26日) 間取り図を用いた集落の復原的研究. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

老 文子(2010年11月26日) 景観をテーマとした総合研究について. 琵琶湖博物館研究部領域会議, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「民俗技術の保存・継承のための基礎的研究—桶風呂の製作技術の分析—」, (2010年度).

科学研究費補助金(若手B)「複数絵図情報の統合による集落の環境民俗建築学的研究」(研究代表者: 老 文子), 研究代表者(2010~2013年度).

科学研究費補助金(基盤C)「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」(研究代表者: 用田政晴), 研究分担者(2008~2011年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

第63回 日本民俗学会年会, 実行委員.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2010年8月4・11日，民具調査の方法について，博物館実習，琵琶湖博物館，実習指導，2件。

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年7月10日，人と水との暮らしとその調査方法，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師。

2010年8月10日，昔のくらしから学ぶ，平成22年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講義。

2010年9月19日，琵琶湖博物館の説明，イナズマロックフェス2010 びわ湖まるごと体感ツアー，琵琶湖博物館。

2010年11月20日・12月18日，班での調べ学習への助言，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，学習補助，2件。

2011年2月12日，調査成果発表，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，コメンテーター。

2011年3月19日，博物館ガイダンス，滋賀県レクリエーション協会，琵琶湖博物館，講義。

#### 視察対応

2010年5月2日，民俗資料の閲覧，滋賀県立大学人間文化学研究科，琵琶湖博物館。

2010年5月29日，民俗資料の整理・保管方法の紹介，滋賀県立大学人間文化学部，琵琶湖博物館。

2010年8月25日，はしかけ制度についての説明と意見交換，岐阜県立森林文化アカデミー，琵琶湖博物館。

2010年11月28日，水族バックヤード見学，くつきふれあいセンター，琵琶湖博物館。

2010年12月14日，琵琶湖博物館における資料保管状況の説明，滋賀県平和祈念館(仮称)開設準備室，琵琶湖博物館。

#### メディアへの協力

2010年10月17日，京都新聞，昭和前半に桶風呂で使用 わら製のふた発見，インタビュー，(2010年10月7日取材，2010年10月8日・13日電話取材)。

2010年10月22日，山梨日日新聞，検証県立博物館5年「山梨の自然と人を研究・展示」外部との連携もとめる声，電話取材，(2010年10月20日取材)。

2011年1月10日，京都新聞，正月遊び、何をした？，インタビュー，(2010年10月4日取材)。

2011年2月28日，京都新聞，琵琶湖の歩み 紙芝居で紹介，インタビュー，(2011年2月27日取材・電話取材)。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

民俗資料整理，管理運営，資料の受け入れ 3件，閲覧対応 1件。

環境資料整理，収蔵庫管理。

考古収蔵庫管理。

#### 他博物館・機関の活動

2011年1月14日，映像資料(民具写真)提供，『いきもの歳時記(仮題)』(全4巻) 春の巻「来る鳥、帰る鳥(雁)」の項への掲載。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

B展示室，展示管理。

富江家展示管理, 展示修理・交換.

**【企画調整活動】**

新任職員等研修, 資料保存について・B展示室紹介・C展示室紹介, 2010年4月20日・21日, 琵琶湖博物館.  
2010年度, 琵琶湖博物館特別講演会, 受付等, 2件.

**【研究部関連事業】**

研究部紹介, 主担当, 2010年度.  
研究報告会・研究審査会, 副担当, 2010年度.  
研究調査報告書, 主担当, 2010年度.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

**【館内の人事】**

2008年度～2010年度, 滋賀県博物館協議会, 広報委員.  
2010年度, フィールドレポーター「お正月遊び」調査, 担当.

**【館外の活動】**

2009年度～2010年度, 彦根市史編纂委員会, 委員.

研究のテーマは、「森とひとのくらしのかかわり」のありようを、森林の持続的で賢明な使い方を考えることから探ろうとしている。それには多くの要素が含まれているが、主に、①薪やペレットなどの木質バイオマスの有効利用、②里山から生み出される多くの恩恵の利用の仕方、③森林環境教育の推進、④森林の更新を阻害する病虫獣害などを対象として研究調査を進めている。

①については、今年度は、地球環境研および滋賀大経済学部の研究者とともに、湖東・湖北地域の薪事情について現状を調査するために、生産者、活動NPO団体、行政機関、製材所などに聞き取り調査を行った。また、薪ユーザーの意向を調べるために、彦根市・愛知郡・犬上郡の区域内のほぼ1/10にあたる30箇所の大字(地域)全域で薪燃料を利用している住居のアンケート調査を行った。薪利用の調査は、途中段階であり次年度以降も地域を拡大して実施する予定である。

また、NPO活動として、木質バイオマスの利用普及のために県内の多くの地域で開催されてセミナーや体験展示会など参加した。

②については、はしかけ里山の会の活動を支援助言する形で、里山の資源利用の仕方を継承している。活動としては、紙漉、味噌造り、原木キノコ栽培、草木染めなどの手業的な作業を行った。

③については、兼務している森林センターの業務である「やまのこ」事業の専任指導員の研修会や小学校担当教員への研修会での講師や指導助言などを行うとともに、地域の中学校や子育て支援センターなどで、森林環境教育の現場指導や講師として出前講座を開催した。

④については、多賀町・東近江市(永源寺町)・長浜市(浅井町、西浅井町)・高島市(新旭)などの森林のシカ被害の現況を調査するとともに、「ニホンジカによる森林植生の変化について」として10月にびわ湖環境ビジネスメッセで開催された滋賀県試験研究機関研究発表会においてポスター発表を行った。

また、滋賀の森林で生じている大きな問題である「ナラ類の集団枯損」について情勢を整理中であり、次年度において枯損現況や植生推移状況などを調査することにしている。

交流事業としては、野洲市大篠原の里山周辺で体験教室を四季を通じて4回企画運営した。また、高島市朽木や高島市マキノにおいて田んぼやいきものなどを対象とした観察会の運営にも関わった。

担当している、はしかけ里山の会では、里山体験教室の開催しない月に独自活動を実施しており、この活動に支援をしてきた。

また、博物館からの紙媒体の情報提供として本年度より「琵琶博だより」を発行することになり、創刊号から第4号まで編集作業に関わった。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

寺尾尚純 (2010) 「森と木の“こと”使い」1 音のワークショップ. グリーン・パワー, 377, (財) 森林文化協会 : 10.

寺尾尚純 (2010) 「森と木の“こと”使い」2 薪をエネルギーに. グリーン・パワー, 378, (財) 森林文化協会 : 10.

寺尾尚純 (2010) 「森と木の“こと”使い」3 木質ペレットの活用. グリーン・パワー, 379, (財) 森林文化協会 : 10.

寺尾尚純 (2010) 「森と木の“こと”使い」4 大径材の木炭利用. グリーン・パワー, 380, (財) 森林文化協会 : 10.

寺尾尚純 (2010) 「森と木の“こと”使い」5 森林発電の実証テスト. グリーン・パワー, 381, (財) 森林文化協

会：10.

寺尾尚純（2010）琵琶博だより．創刊号～4号，編集，琵琶湖博物館：2p.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

寺尾尚純（2010年10月20日）ニホンジカによる森林植生の変化について．滋賀県試験研究機関研究発表会，びわ湖環境ビジネスメッセ，[ポスター発表]．

寺尾尚純（2011年2月18日）滋賀県における薪生産・流通について．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表]．

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「里山林の保全と利用」，（2010年度）．

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件．

2010年4月～2011年1月，里山の四季を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営，4回，（はしかけ里山の会共同）．

2010年6月19日，自然豊かな田んぼで生き物観察，観察会，高島市朽木，運営，（朽木いきものの里共同）．

2010年11月13日，秋の里山を歩こう，観察会，高島市マキノ，運営，（カワセミ自然の会、はしかけ里山の会共同）．

はしかけ「里山の会」，運営協力，6回．

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年10月28日，南比良の里山体験，大津市立志賀中学校，環境学習，大津市南比良，講師．

2010年11月4・5日，親子自然活動，体験講座，大津市皇子ヶ丘公園，講師，2回．

2010年11月5日，自然探索・自然あそび体験学習，大津市中エリア子育てネットワーク研修会，大津市皇子ヶ丘公園，講師．

2010年11月16日，グリーン購入セミナー，研修会，琵琶湖博物館，運営，（滋賀県グリーン購入ネットワーク共同）．

2010年11月26日，環境学習～エネルギー～，守山市立守山中学校，総合的な学習，守山中学校，講師．

2011年3月5日，緑の分権改革推進フォーラム，フォーラム，彦根市文化プラザ，コーディネーター．

#### 視察対応

2010年12月12日，三重県庁化学・環境職員，琵琶湖博物館．

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回．

展示交流員と話そう，内容指導，4件．

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2010 年度，滋賀県森林センターを兼務.

2010 年度，琵琶博だより，編集委員.

### 【館外の活動】

2010 年 8 月～2011 年 3 月，彦根市緑の分権改革推進委員会，委員.

2010 年 4 月～2011 年 3 月，特定非営利活動法人おうみ木質バイオマス利用研究会，理事・事務局.

2010年度は、国際生物多様性年であることから、生物多様性について考えるためのギャラリー展示（水族）「守ろう！琵琶湖・淀川水系の魚たち！」を開催した。この展示では琵琶湖淀川流域に位置する、芥川緑地資料館（あくびあ芥川）、大阪府環境農林水産総合研究所 水生生物センター、亀岡市文化資料館、滋賀県醒井養鱒場、水道記念館が連携して、地域の魚たちと各施設が実施している水生生物の保全活動について紹介することを目的とした。

また5月22日には、生物多様性について考えていただく機会として、国際生物多様性の日記念シンポジウム「いのちにぎわう琵琶湖&淀川 ～生物多様性とは!? その大切さを考えよう～」を上記連携機関のほか、滋賀県自然環境保全課との共催で開催した。この他展示関係では、Audio-Visual Team VINZ(ヴィンツ)と協働で、ギャラリー展示「神秘の鍾乳洞 河内の風穴」を開催した。このギャラリー展示は、河内の風穴の神秘に満ちた美しい映像と、そこに生きる生きものたちについて、写真と動画で紹介するもので、6月20日にはホールにおいて映像作品を上映した。

研究では、兵庫県たつの市の民家で採集されたミズツボ科の貝類について、石田末基氏との共著で、日本貝類学会機関誌に報告することができた。このミズツボ科の貝は、殻高が2mmにも満たない小さな貝で、地下水に生息することから確認されることが少なく、兵庫県下ではこれが最初の確認例となった。研究会での報告では、2011年2月に開催された日本動物園水族館協会・第55回水族館飼育技術者研究会では、近畿大学の小林准教授と実施してきたハリヨの遺伝子解析の結果について報告を行った。また今年も、昨年度守山市内の水路に侵入し、分布拡大が心配されていたスクミリンゴガイについて、継続的に調査した。昨年度はその動態を観察しながら卵塊を駆除していたこともあってか、その水路および、下流の河川周辺でも卵塊を確認することができなかった。しかし、当館の中井克樹博士とともに琵琶湖岸（大津市および守山市湖岸）に広く、地域によっては多数が分布していることを確認した。今後、さらに分布を拡大する可能性もあることから、注視していきたいと考えている。

今年度ははじめたこととしては、環境省の野生復帰モデル事業に参画し、イチモンジタナゴとハリヨの野生復帰について、専門家や市民グループ、地域や企業、行政機関等と協力してその実現を目指した取り組みを進めている。

## 印刷物

### 【専門分野の著述】

- Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2.* Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.
- 松田征也・石田末基 (2010) 福井県若狭町の水月湖と菅湖で確認されたカワグチツボ. *ちりぼたん*, 40 (3-4), 日本貝類学会 : 132-133.
- 松田征也・石田末基 (2010) 福井県若狭町の菅湖で確認されたミズゴマツボ. *ちりぼたん*, 40 (3-4), 日本貝類学会 : 134-137.

### 【一般向けの著作】

- 松田征也 (2010) 湖岸より 59 よみがえれ! ぼてじゃこ. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年5月22日.  
松田征也 (2010) 湖岸より 68 外来のシジミが定着. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年7月24日.  
松田征也 (2010) 湖岸より 78 秋に産卵する魚「カネヒラ」. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年10月3日.  
松田征也 (2010) 湖岸より 86 遺伝的系統重視し保護増殖. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年11月27日.  
松田征也 (2011) 湖岸より 95 屋外展示で楽しい世界を. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年2月5日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 松田征也 (2010年12月17日) 希少淡水魚の野生復帰について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館(草津市), [口頭発表].  
松田征也・小林 徹 (2011年2月3日) ハリヨにおける遺伝的多様性の把握とその回復にむけた検討. 第55回水族館技術者研究会, 岐阜県世界淡水魚園水族館(岐阜県), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「博物館収蔵水族資料の遺伝的多様性保持に関する研究」, (2010年度).  
環境省「ハリヨ野生復帰モデル事業」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2010~2012年度).  
環境省「イチモンジタナゴ野生復帰モデル事業」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2010~2012年度).  
「超音波テレメトリー法をもちいたフナ類の繁殖期における行動生態に関する研究」(研究代表者: 山根 猛), 共同研究者.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.  
2010年6月20日, ギャラリー展関連「河内の風穴写真展」上映会, 琵琶湖博物館ホール, (VINZ共催).

#### 他の博物館・機関等主催行事

- 2010年6月11日, 投網体験, 石山中学, 烏丸半島港.  
2010年7月31日, 滋賀県の魚と貝の話, 竜法師農地・水・環境を守る会, 竜法師公民館.  
2010年7月31日, 大堰川のアユモドキについて, 亀岡市文化資料館, 琵琶湖博物館.  
2010年8月4日, 琵琶湖の貝を調べてみよう, 第34回自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館.  
2010年8月10日, 琵琶湖の概要と水族展示室の解説①・②, 平成22年環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館, 2件.  
2010年8月28日, 大津っ子・びわ湖体験!!, (社)大津青年会議所, びわ湖大津館(大津市柳が崎).  
2010年9月4日, 自然に学び、自然を楽しむ「びわ湖漁の日」, 大津環境活動実行委員会(北小松水泳場).  
2010年11月6日, 水族バックヤード見学, 三重生物教育会, 琵琶湖博物館.  
2010年11月20日・12月18日, 淡水の貝, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 2件.  
2010年11月23日, 琵琶湖の水生生物について・水族展示案内, 京都市市立中高理科学研究会, 琵琶湖博物館.  
2011年1月30日, 水鳥観察と環境学習会, 瀬田川リバプレ隊, 水環境科学館.  
2011年2月28日, 保護増殖センターの紹介, ISAD研究会, 琵琶湖博物館.

#### メディアへの協力

- 2010年4月25日, 京都新聞, 流域連携企画「琵琶湖や淀川の魚を守ろう」, 取材協力, (2010年4月24日取材).

2010年4月27日, 共同通信, 逆巻きのキセルガイ発見、京都、突然変異, 取材協力, (2010年4月27日取材).  
2010年4月28日, 読売新聞、中日新聞、毎日新聞、京都新聞, 逆巻きのキセルガイ京都で発見, 取材協力, (2010年4月27日取材).  
2010年4月29日, 朝日新聞, どうして私、右巻きなの・・・, 取材協力, (2010年4月28日取材).  
2010年4月30日, NHK, おうみ発610, 右巻きのナミコギセルガイについて, (2010年4月30日取材).  
2010年5月02日, 産経新聞, あれっ逆!! 右巻き貝, 取材協力, (2010年4月27日取材).  
2010年5月21日, 中日新聞, 希少な淡水魚16種展示.  
2010年5月19日, 読売新聞, 琵琶湖固有種守ろう.  
2010年5月23日, 中日新聞、毎日新聞, 生物多様性大切さ知って, 取材協力, (2010年5月22日取材).  
2010年5月25日, 朝日新聞, 生物多様性保護調査団体が訴え, 取材協力, (2010年5月22日取材).  
2010年6月2日, 産経新聞, 神秘の鍾乳洞を紹介.  
2010年6月16日, 京都新聞, 河内の風穴神秘とらえる.  
2011年2月28日, NHK, おうみ発610, ISAD研究会について, (2011年2月28日取材).  
2011年3月1日, 京都新聞・中日新聞・毎日新聞・読売新聞, ISAD研究会について, 取材協力, (2011年2月28日取材).

#### 【情報整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ・博物館ニュース, 写真提供, 39件.

#### 【資料整備活動】

##### 他博物館・機関の活動

島根県立宍道湖自然館, ゼニタナゴ20尾・ハス2尾, 貸出.  
岐阜経済大学, ハリヨ20尾, 分譲.  
近畿大学, ホンモロコ10尾・タモロコ10尾, 分譲.  
近畿大学, モツゴ5尾・ゼゼラ1尾・シナイモツゴ2尾・スジシマドジョウ大型種20尾, 貸出.  
国立環境研究所, ナマズ組織片3・フナ2・ビワコオオナマズ2・イワトコナマズ2, 分譲.  
名古屋市東山動物園, ニッポンバラタナゴ20尾・ハリヨ10尾, 分譲.  
姫路市立水族館, ミジンツボの一種1個体, 貸出.  
姫路市立水族館, ロングノーズガー1尾, 分譲.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

2010年4月28日～5月9日, ディスカバリールーム 逆巻きの貝「右巻きのナミコギセルガイ」, 展示・企画.  
水族企画展示室 国際生物多様性年 流域連携企画 「守ろう! 琵琶湖・淀川水系の魚たち」, 企画・運営.  
ギャラリー展示「神秘の鍾乳洞 河内の風穴」, 企画・調整.  
C展示室 生きものコレクション「烏丸半島の蝶」, 写真パネルの更新.  
C展示室 里の生きもの「カブトムシ、クワガタ」, レプリカの設置・企画.  
水族トピック展示「オヤニラミの幼魚」, 企画.  
水族トピック展示「イチモンジタナゴの稚魚」, 企画.  
水族トピック展示「タモロコの稚魚」, 企画.  
水族トピック展示「天然記念物アユモドキの幼魚」, 企画.  
水族トピック展示「ムサシトミヨの稚魚」, 企画.  
水族トピック展示「天然記念物ミヤコタナゴの幼魚」, 企画.

#### 【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理, 副担当.

研究用アルコール管理, 主担当.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

1999年～, 守山湖岸再生部会, 委員.

2000年～, 木浜内湖再生部会, 委員.

2005年～, 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, 検討委員.

2010年度, 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, ニッポンバラタナゴ種別調整者.

2010年度, 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, アユモドキ種別調整者.

2010年度, 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, ホトケドジョウ種別調整者.

2004年～, 淀川水系アユモドキ連絡協議会(環境省), 委員.

2005年～, 瀬田川及び天ヶ瀬ダム再開発ワーキンググループ(国土交通省), 委員.

2009年～, さいかち浜湖岸保全対策地域協議会(長浜土木事務所), 委員.

事業部では2010年度交流担当グループリーダーを務め、観察会や講座等の企画運営を行うとともに、これに関連して「琵琶湖博物館のもよおしもの」チラシを前期と後期に分けて作成した。これは、前年度予算削減のあおりを受けて、それまで作成していた「うみんど」や「たいけん・はっけん」が作成できなくなったことから、博物館の発信力が弱くなり、観察会や講座への参加者が減少したことから作成することにしたものである。また、展示活動として第18回企画展示「湖底探検」の副担当を行うとともに、水族トピック展示や旬の魚たちなどの展示を行った。

研究活動については、2009年度に引き続き近畿大学の山根教授のチームと共同でテレメトリーを使った琵琶湖内におけるビワマスの行動追跡調査を行ったのと、東京大学大気海洋研究所の大竹教授らとともに共同研究として耳石の微量元素を用いたビワマスの個体群構造の解明に関する調査を行った。前者については、データロガーを用いた行動解析により、日周的な行動の変化、つまり夜間は水深15-20m付近を泳いでいるが、日中は表層近くから水深60m以深までの間を頻繁に上下移動していることがわかってきた。また、後者については、河川ごとの厳密な母川回帰は無いものの、湖西、湖北、湖東と言った大まかな地域的な遡上集団の存在が示唆された。これらの研究内容は、水産学会春季大会で発表する予定であったが、震災により本大会が中止となったことから、実際の発表はできなかったものの、講演要旨集は発行され、学会としては発表扱いとされた。これらとは別に、富士フィルムグリーンファンドに「琵琶湖固有亜種とされるビワマスにおける遺伝的多様性の変化」という研究テーマで応募したところ採択された。これは、当館に保管されているBST当時に採集されたビワマスの鱗を用いて、現生のビワマスと遺伝的多様性がどのように変化しているのかを明らかにしようとするものである。これは、2010年度の専門研究としても実施している。

## 印刷物

### 【専門分野の著述】

桑原雅之 (2010) 水槽設備 照明. 新 飼育ハンドブック水族館編, 5, 社団法人日本動物園水族館協会, 東京:19-23.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

桑原雅之 (2010年9月17日) 湖内にすむビワマスはなぜアマゴと交雑を起こしていないのか?. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

桑原雅之・井口恵一朗・高橋 洋・亀甲武志・来見誠二 (2010年9月25日) 湖内にすむビワマスはなぜアマゴから遺伝子浸透を受けていないのか?. 2010年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 三重県文化会館 (三重県津市), [口頭発表].

天野洋典・桑原雅之・高橋俊郎・白井厚太郎・天川裕史・大竹二雄 (2010年9月25日) ビワマスの母川指標としての耳石 Sr 安定同位体比の有効性. 平成22年度日本水産学会秋季大会, 社団法人日本水産学会, 京都大学 (京都府京都市), [口頭発表].

天野洋典・桑原雅之・高橋俊郎・白井厚太郎・天川裕史・大竹二雄 (2011年3月28日) 耳石の Sr 安定同位体比によるビワマスの母川回帰性の検討. 平成23年度日本水産学会春季大会, 社団法人日本水産学会, 東京海洋大学 (神奈川県藤沢市).

神村裕之・光永 靖・山根 猛・桑原雅之 (2011年3月29日) 琵琶湖におけるビワマスの移動特性 1 超音波テレメトリーによる長期追跡. 平成23年度日本水産学会春季大会, 社団法人日本水産学会, 東京海洋大学 (神奈

川県藤沢市).

神村裕之・光永 靖・山根 猛・桑原雅之 (2011年3月29日) 琵琶湖におけるビワマスの移動特性2 データロガーによる詳細な鉛直移動. 平成23年度日本水産学会春季大会, 社団法人日本水産学会, 東京海洋大学 (神奈川県藤沢市).

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究」, (2010年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 研究協力者 (2010年度).

富士フィルムグリーンフアンド「琵琶湖固有亜種とされるビワマスにおける遺伝的多様性の変化」(研究代表者: 桑原雅之), 研究代表者 (2010~2011年度).

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2010年7月17日, 漁船に乗ってビワマス漁を見てみよう, 見学会, 湖北町尾上, 副担当, (協力: 朝日漁協、磯田能年共同).

2010年9月18日, アユの産卵用人工河川を見てみませんか, 見学会, 高島市安曇川町北船木, 副担当, (協力: 滋賀県水産振興協会、磯田能年共同).

2010年10月24日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 見学会, マキノ町知内, 主担当, (協力: 百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場、磯田能年共同).

##### 他の博物館・機関等主催行事

2010年8月10日, 魚からみた琵琶湖の水環境 (理科、環境学習), 県環境教育協議会, 県環境教育協議会, 琵琶湖博物館 (草津市), 講師.

2010年9月14日, 琵琶湖の魚と漁業, 大津ロータリークラブ, ロータリークラブ例会, 琵琶湖ホテル (大津市), 講師.

2010年11月20日・12月18日, 琵琶湖の固有種, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館 (草津市), 講師, 2件.

2011年1月27日, 琵琶湖にすむサケの仲間たち, (財) 箕面市文化振興事業団, 箕面シニア塾, 琵琶湖博物館 (草津市), 講師.

2011年2月12日, 審査会, 立命館守山中学, ミュージアムスクール審査会, 立命館守山中学校 (守山市), 審査員.

##### メディアへの協力

2010年4月27日, 毎日放送, よろこ部, 出演, (2010年4月10日取材).

2010年7月6日・13日, 毎日放送, よろこ部, 出演, (2010年6月5日取材).

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理，担当.

2010年7月17日～11月23日，第18回企画展示 湖底探検～びわ湖の底はどんな世界？～，副担当.

旬の魚たち，主担当.

水族トピック展示，担当.

**【企画調整活動】**

新任職員等研修，交流について，2010年4月13日，講師，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース，交流について，講師，2010年6月10日，琵琶湖博物館.

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。今年度も引き続き企画調整課長であったことから、企画調整課内事務の総括を中心に博物館活動を行った。企画調整課では、中長期基本計画の第三段階の計画の策定、広報・経営戦略会議の運営などを担当した。琵琶湖博物館の中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」は今年度が第二段階の最後の年であり、来年度から第三段階が始まる。中長期基本計画第三段階の活動計画、2010年度行動計画の実績・評価、2011年度行動計画のとりまとめを行った。

研究事業については、滋賀県レッドデータブック 2010年度版（昆虫類・クモ類）の編集と執筆が中心となった1年であった。昆虫類・クモ類の部会長がやむをえない理由で全体の編集作業を行えなくなったため、部会長代理として昆虫類・クモ類全体の原稿の編集作業を行った。また、昆虫・クモ類の概要のほか、オオヒョウタンゴムシなど19種のレッドデータリスト種を執筆した。

平成22年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費；データベース）「日本産環境指標ゴムシ類データベース」が採択され、代表者としてデータベースの作成を進めた。このデータベースは、日本産の里山のゴムシ類約300種を対象に、画像情報、分類情報、生態情報を網羅したものであり、大学の研究者や環境影響評価を行っている現場の調査者から要望が高く、利用価値の高いものとなる。

2003年度～2005年度まで実施した共同研究「滋賀県のチョウ類の分布」の成果を琵琶湖博物館研究調査報告書として出版するための編集作業を行った。今年度中に編集作業が完了し、来年度初めには出版できる見込みである。さらに、琵琶湖博物館総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」の研究成果を「(仮)博物館でまなぶー利用と保存の資料論ー」というタイトルで東海大学出版会から出版予定であり、原稿の執筆と編集作業を行った。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2.* Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.

八尋克郎 (2010) 地域の人たちと生き物の多様性を調べるナミテントウの斑紋変異. *琵琶通信*, 2 : 1.

八尋克郎 (2010) 森正人氏によって採集された滋賀県産ゴムシ類. *Came 虫*, 158 : 6-9.

八尋克郎 (2010) 滋賀県新記録のハラグロオオテントウ. *Came 虫*, 158 : 10.

### 【一般向けの著作】

八尋克郎 (2010) 湖岸より 56 春の使者モンシロチョウ. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年5月1日.

八尋克郎 (2010) 湖岸より 65 生物多様性身近な昆虫から. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年7月3日.

- 八尋克郎 (2010) 湖岸より 74 トンボが飛ぶ水田 日本の原風景. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年9月4日.
- 八尋克郎 (2010) 湖岸より 83 湖底にすむ絶滅危惧の不思議な虫. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年11月6日.
- 八尋克郎 (2010) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～4 "オナラ虫" と三井寺の奇縁. *毎日新聞*, 毎日新聞社: 2010年12月6日.
- 八尋克郎 (2011) 湖岸より 92 干支にちなんだ「ウサギ」展. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年1月15日.
- 八尋克郎 (2011) 湖岸より 101 少年が県内初の発見. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年3月19日.
- 八尋克郎 (2011) 琵琶湖水中雑談 湖底に棲む不思議な昆虫. *おりづる*, 77: 8.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 八尋克郎 (2010年9月18・19・20日) イチゴを加害するゴミムシ類の生態的知見. 日本昆虫学会第70回大会, 山形大学 (山形県鶴岡市), [口頭発表].
- 八尋克郎 (2010年11月23日) 琵琶湖を取り巻く人の暮らしと生物多様性. 第22回日本環境動物昆虫学会年次大会市民公開セミナー, 滋賀県立大学 (滋賀県彦根市), [総合討論パネリスト].
- 八尋克郎 (2011年1月21日) 九州における甲虫化石研究の進展. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖とその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究」, (2010年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」 (研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 研究協力者 (2006～2010年度).
- 科学研究費補助金 (研究成果公開促進費データベース) 「日本産環境指標ゴミムシ類データベース」 (代表: 八尋克郎), 研究代表者 (2010年度).
- 科学研究費補助金 (基盤 B) 「地域住民による琵琶湖沿岸域の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」 (研究代表者: 川那部浩哉), 研究分担者 (2010～2013年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本昆虫学会, 近畿支部自然保護委員, 2003年度～.
- 滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度～.
- 地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度～.
- 日本環境動物昆虫学会第22回年次大会実行委員会, 委員, 2010年度.
- 日本応用動物昆虫学会, 査読, 1件.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.
- 2010年6月26日, 烏丸半島でトンボを観察 (昆虫), 観察会, 琵琶湖博物館・草津市, (澤田弘行氏と共同).
- 2010年7月4日, 希望が丘自然観察会 (昆虫), 観察会, 希望が丘文化公園・竜王町, (澤田弘行氏と共同).
- 2010年7月25日, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館・草津市, (南 尊演氏、武田 滋氏、高橋和征・榎永一宏と共同).
- 2010年8月5日, 企画調整課の概要, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

### **他の博物館・機関等主催行事**

- 2010年6月5日, ホタルの観察会, 真野北公民館, ホタルの学校, 大津市融神社, 講師.
- 2010年8月4日, 博物館周辺で昆虫採集をしよう, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年8月10日, 昆虫から見る琵琶湖, 環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年11月20日・12月18日, 班での調べ学習への助言, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 指導, 2件.
- 2010年12月7日, 博物館概要, 愛知学院大学, 博物館実習, 講師.
- 2011年2月2日, 昆虫の話し, 大津市青陵高校, 環境学習講座, 講師.

### **視察対応**

- 2010年11月26日, 政策課題研究実地調査, 自治大学.

### **メディアへの協力**

- 2010年5月11日, 毎日新聞, テントウムシ初の全県調査, (2010年4月30日取材対応).
- 2010年5月14日, 京都新聞, テントウムシ調査, (2010年4月28日取材対応).
- 2010年5月21日, 朝日新聞, テントウムシ調査, (2010年4月28日取材対応).
- 2010年10月28日, 朝日新聞, ピンク色のキリギリス, (2010年10月27日取材対応).
- 2010年12月10日, 読売新聞・毎日新聞・産経新聞・中日新聞・共同通信, 県内で初めて発見されたテントウムシ, (2010年12月9日取材対応).
- 2010年12月14日, 京都新聞, 県内で初めて発見されたテントウムシ, (2010年12月10日取材対応).
- 2010年12月16日, 朝日新聞, 県内で初めて発見されたテントウムシ, (2010年12月10日取材対応).

### **【情報整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

- クエリーの質問対応, 昆虫に関する質問への回答, 5件.

### **【資料整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

- 資料の寄贈受け入れ, 1件.
- 資料の貸出し, 1件.
- 資料の特別観覧, 1件.

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

- お正月トピック展示「ウサギ」展, 全体調整担当.
- モーニングレクチャー, 講義, 4回.

### **【企画調整活動】**

- 新任職員等研修, 琵琶湖博物館の中長期基本計画, 講師, 2010年4月13日, 琵琶湖博物館.
- 新任職員等研修, C展示室生き物コレクション, 講師, 2010年4月21日, 琵琶湖博物館.
- 国際生物多様性の日記念シンポジウム「いのちにぎわう琵琶湖&淀川 ～生物多様性とは!?その大切さを考えよう」, 運営, 2010年5月22日, 琵琶湖博物館.
- 企画展示「湖底探検」オープニングセレモニー, 司会進行, 2010年7月17日, 琵琶湖博物館.
- 生きものにぎわいをよし笛で, 運営, 2010年8月1日, 琵琶湖博物館.
- 琵琶湖博物館特別講演会, 運営, 2010年4月～2011年3月.
- 滋賀県博物館協議会理事会, 運営, 2010年6月8日.
- 滋賀県博物館協議会総会, 運営, 2010年6月29日.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

滋賀県博物館協議会，企画委員.

### 【館外の活動】

2003年7月1日～，滋賀生きもの総合調査委員会昆虫類部会，専門委員.

2010年2月～2012年10月31日，日本環境動物昆虫学会第12期環境アセスメント動物調査手法研究部会，運営委員.

2010年度は、国際学会での研究成果発表と、2011年度に担当する企画展示の準備が大きな課題であった。2011年度は、2010年度までの研究成果をさらに発展させた研究を行うとともに、これまでの成果を学術論文として発表していくことを目指したい。さらに、企画展示という形でこれまでの研究成果を広く発信していくことに力を注ぎたいと考えている。

国際学会については、国内で開催された会合を含め、2010年度は3つの異なる学会で発表を行った。2010年10月に愛知県で行われた生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)とも関連する国際会議、URBIO2010(都市における生物多様性とデザイン「都市の生物多様性と生態系ネットワーク」)では、愛知県美浜町の鶺鴒の山カワウコロニーについて、長期的な森林植生の変遷を空中写真判読によって明らかにし、あわせて地元住民による肥料としてのカワウの糞採取とそれに伴う森林管理について明らかにした結果を発表した。この結果についてはさらに分析を進め、9月にカナダで行われた第1回世界海鳥学会で発表を行った。また、琵琶湖のカワウコロニー(竹生島と伊崎半島)と愛知県のカワウコロニー(鶺鴒の山)の土壌の養分動態を比較した研究成果について、8月にブラジルで行われた第25回国際鳥学会で発表を行った。後者二つの学会では、海外の研究者とも議論をすることができ、今後の研究の参考になるとともに、企画展示に必要な資料と情報の収集に大いに役に立った。

研究成果としてもう一つ特筆すべきことは、2009年度に助成を受けた河川整備基金助成事業の研究が優秀成果として表彰状を受けたことである。それを受けて、東京と大阪で行われた研究報告会で報告を行い、河川に関心を持つ様々な分野の研究者や一般の方々に研究発信を行うことができた。

館内の研究活動では、6月に行われた琵琶湖博物館研究報告会で以前の共同研究の成果を発表したほか、研究セミナーでは2009年度まで3年間関わってきた国際研究ネットワークの成果(専門書の一章となる総説論文)に関する発表を行った。また、生態系研究領域会議では、今後の研究の方向性について発表を行った。これらの機会を活用することで、これまで行ってきた研究の整理と今後の方向性を明確にすることができた。また、新琵琶湖学創造セミナーでは、最新の研究成果を一般向けに紹介した。

専門分野のシンクタンク的な活動についても、2010年度は多くの貢献を行った。引き続き、滋賀県のカワウ対策やレッドデータブックの改訂、大津市の環境審議会に協力を行ったが、例年の会議の他に、カワウ対策では学習会でのカワウの講義、レッドデータブック改訂ではレッドリストの見直しとレッドデータブック原稿の作成、大津市環境審議会では大津市環境基本計画および大津市地球環境保全地域行動計画の改訂作業にたずさわった。学会活動にもこれまで以上に貢献し、引き続き日本鳥学会の会計幹事をつとめたほか、日本生態学会の生態学教育専門委員会や大会企画委員会発表編成部会の委員として、学会運営に貢献した。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia.*

Book 2. Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.

亀田佳代子・岩田靖宏・大友芳成 (2010) カワウの餌魚種選好性—胃内容物と魚類相の比較—. *日本水産学会誌*, 76 (4) : 710.

日野輝明・石田 朗・亀田佳代子・栗田 悟 (2010) カワウ被害軽減のための効果的なコロニーおよびねぐら管理手法の開発. *日本水産学会誌*, 76 (4) : 719.

鈴木まほろ・亀田佳代子・佐久間大輔・真鍋 徹 (2010) 博物館と生態学 (14) 地域の博物館が担う自然史研究の意義. *日本生態学会誌*, 60 (3) : 399-403.

亀田佳代子 (2010) カワウによる流域森林の衰退に対する保全管理方策の検討. *河川整備基金助成事業報告書*, 河川環境管理財団, 東京 : 21.

#### 【一般向けの著作】

亀田佳代子 (2010) 湖岸より 52 環境に良いこと悪いこと. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年4月3日.

亀田佳代子 (2010) 湖岸より 57 生物と食べ物の関係. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年5月8日.

亀田佳代子 (2010) 湖岸より 67 五感に訴える表現力. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年7月17日.

亀田佳代子 (2010) 湖岸より 75 ヨシ原はツバメのねぐら. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年9月11日.

亀田佳代子 (2010) 湖岸より 84 鳥の性質生かし保全、対策を. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年11月13日.

亀田佳代子 (2011) ここだけの湖の話—琵琶湖博物館の研究室から— 6 モノを運ぶ鳥の働き 環境に良しあし. *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2011年1月6日.

亀田佳代子 (2011) 湖岸より 93 “ウサギに似た” ミミズク. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年1月22日.

亀田佳代子 (2011) 湖岸より 102 人のつながり、温かさ実感. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2011年3月26日.

## 研究活動に関する業績

#### 【学会・研究会での発表】

Kameda, K., Maesako, Y., Makino, A., Fujii, H. and Ishida, A. (2010年5月19日) Landscape analysis of suburban forest succession in the disturbance of the great cormorant. 国際会議 URIBO 2010 (都市における生物多様性とデザイン「都市の生物多様性と生態系ネットワーク」), 愛知県産業労働センター WINC あいち (愛知県名古屋), [口頭発表].

亀田佳代子 (2010年6月26日) カワウ営巣林における森林衰退—回復過程の解明—異地性流入モデル構築のための調査方法の検討—. 2010年度琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

Kameda, K., Hobara, S. and Ishida, A. (2010年8月26~28日) Long-term effects of the nutrient supply of the great cormorant (*Phalacrocorax carbo*) on nutrient dynamics in a forest soil. 25th International Ornithological Congress (第25回国際鳥学会), Convention Center (Campos do Jordão, Brazil), [ポスター発表].

Kameda, K., Maesako, Y., Ishida, A., Makino, A. and Fujii, H. (2010年9月8~9日) The plant succession of the Great Cormorants' colony and forest restoration by local people who utilized the cormorant guano. 1st World Seabird Conference (第1回世界海鳥学会), Victoria Conference Centre (Victoria, Canada), [ポスター発表].

亀田佳代子・岩田靖宏・大友芳成 (2010年9月18日) カワウの餌魚種選好性—胃内容物と魚類相の比較から—. 日本鳥学会2010年度大会自由集会「カワウを通して野生生物と人間との共存を考える」, 東邦大学習志野キャンパス (千葉県船橋市), [口頭発表].

亀田佳代子 (2010年10月31日) カワウによる森林生態系への影響. 日本生態学会近畿地区会「竹生島の自然再生を考えるフィールドシンポジウム」, 長浜勤労者総合福祉センター 臨湖 (滋賀県長浜市), [口頭発表].

亀田佳代子 (2011年1月21日) カワウを含む海鳥類が陸上の植物と土壌に与える影響. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

亀田佳代子 (2011年2月25日) 今後の研究課題について. 琵琶湖博物館生態系研究領域会議, 琵琶湖博物館 (滋

賀県草津市), [口頭発表].

中川 潤・亀田佳代子・須藤明子・野間直彦 (2011年3月11日) カワウの地上営巣地における植生と土壌特性.  
第58回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター (北海道札幌市), [ポスター発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「鳥類による異地性流入が陸域の生態系に与える影響の検討」, (2010年度).

科学研究費補助金(基盤 B)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」  
(研究代表者:川那部浩哉), 連携研究者 (2010~2012年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者:前畑政善),  
共同研究者 (2007~2011年度).

琵琶湖博物館共同研究「竹生島および鶴の山におけるカワウ営巣林の森林衰退—回復過程の解明」(研究代表者:亀  
田佳代子), 研究代表者 (2010~2011年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会会計幹事, 2010年1月~2011年12月.

日本鳥学会評議員, 2006年1月~2011年12月.

日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人, 2000年1月~.

日本生態学会生態学教育専門委員会委員, 2010年4月~2012年3月.

日本生態学会大会企画委員会発表編成部会委員, 2010年4月~2012年3月.

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員, 2008年1月~2010年12月.

山階鳥類研究所「山階鳥類学雑誌」査読, 1件.

野生生物保護学会「野生生物保護」査読, 2件.

#### 【受賞など】

河川整備基金助成事業優秀成果, 2010年9月7日, 「カワウによる流域森林の衰退に対する保全管理方策の検討」,  
(亀田佳代子・前迫ゆり・牧野厚史・藤井弘章).

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2010年12月11日, 水鳥を観察しよう—色とりどりの冬鳥たち—, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館,  
講師.

2010年12月19日, からすま半島の水鳥を観察してみよう, 観察会, 烏丸半島周辺・草津市, 主担当, (日本野鳥  
の会滋賀支部・はしかけグループ「びわたん」共催).

2011年2月26日, 森と湖をむすぶ鳥—鳥の機能からカワウとのつきあい方を考える—, 新琵琶湖学創造セミナー,  
琵琶湖博物館, 講師.

##### 他の博物館・機関等主催行事

2010年6月19日・10月23日, 琵琶湖の鳥類について, 立命館守山高校, 総合学習, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2010年10月20日, 鳥による物質輸送:カワウによる水域から陸域への輸送を例として, 滋賀県試験研究機関連絡  
会議, 平成22年度滋賀県試験研究機関研究発表会, 滋賀県立長浜ドーム, 講師.

2010年10月27日, カワウによる流域森林の衰退に対する保全管理方策の検討, (財)河川環境管理財団, 第17回  
河川整備基金助成事業成果発表会, 発明会館, 講師.

2010年11月20日・12月18日, 琵琶湖の鳥について, 立命館守山中学校, 総合学習, 琵琶湖博物館, 講師.

- 2010年12月10日、カワウによる流域森林の衰退に対する保全管理方策の検討、(財)河川環境管理財団近畿事務所大阪研究所、河川環境管理財団研究発表会、OMMビル、講師。
- 2011年2月6日、ラムサール条約と水鳥からみた琵琶湖、琵琶湖ラムサール条約連絡協議会・(財)淡海環境保全財団、第18回びわ湖一斉水鳥観察会、琵琶湖博物館・烏丸半島、講師。
- 2011年2月12日、カワウについて、竹生島カワウ対策事業推進協議会、竹生島カワウ対策学習会ー緑豊かな竹生島の再生に向けてー、リュートプラザ(びわ文化学習センター)、講師。

#### **メディアへの協力**

- 2010年11月3日、中日新聞、竹生島のカワウについて、(2010年6月30日取材対応)。
- 読売新聞、今年の琵琶湖のコハクチョウの飛来について、(2010年10月22日取材対応)。
- 2010年12月7日、NHK、おうみ発610 映像スケッチ、琵琶湖の水鳥について、(2010年12月7日取材対応)。

#### **【資料整備活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

- 鳥類剥製標本及び骨格標本の製作、手続き、主担当、20件。
- 鳥類標本提供、受入・整理、主担当、392件。
- 資料の貸出(甲賀市みなくち子どもの森自然館)、手続き、主担当、4件。

#### **【展示活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

- 2011年度企画展示の展示企画作成。
- 2010年6月7日、展示交流員フィールド研修、企画・運営・現地説明。
- 2011年1月3日～2月6日、お正月トピック展示『ウサギ』展、鳥類本剥製標本3点展示。
- モーニングレクチャー、講義、4回。
- 展示交流員と話そう、内容指導、4件。
- 展示交流員の管理運営に関すること。

#### **【企画調整活動】**

- 鳥類の鑑定、鳥類の種名同定、2011年2月3日、守山警察署。

#### **【研究部関連事業】**

- 国内の研究機関との連携に関すること、主担当。

## **館内の人事・館外活動等に関すること**

#### **【海外渡航】**

- 2011年8月21日～9月2日、ブラジル、第25回国際鳥学会への参加と発表。
- 2011年9月7日～9月14日、カナダ、第1回世界海鳥学会への参加と発表。

#### **【館外の活動】**

- 1997年4月1日～2012年3月31日、京都大学生態学研究センター、協力研究員。
- 2006年8月1日～2011年3月31日、滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会、専門委員。
- 2006年7月12日～2011年3月31日、農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ、委員。
- 2007年11月27日～2011年11月26日、大津市環境審議会、委員。
- 2008年3月12日～2011年3月31日、滋賀県カワウ漁業被害防止対策検討会、委員。

2009年3月11日～2012年3月31日，滋賀県カワウ保護管理計画検討委員会，委員.

2010年2月20日～2012年3月31日，滋賀県竹生島の保安林機能の維持および回復に関するワーキンググループ，  
委員.

2010年7月21日～2011年3月31日，滋賀県カワウ総合対策協議会，委員.

昨年に引き続き、自然環境保全課との兼務となったため、すでに開始もしくは計画されていた共同研究を推進することに専念した。また、生物多様性条約締約国会議の開催にあわせて、琵琶湖地域からの情報発信に力を注いだ。

①地域社会から見たカワウによる森林被害についての研究、②水田における生物多様性回復の社会的な価値に関する研究、③地域社会におけるレジデント型研究機関の役割とその可能性についての研究である。①については、本年度は既存のデータをまとめることに専念した。②については、琵琶湖湖岸域の村落を対象として、近現代における水田利用の歴史の変遷に関するデータのとりまとめに努めた。また、比較のための事例地として、秋田県八郎湖周辺地域についての調査を行った。③については共同研究に参加して全国各地の人々と議論を深めた。また、博物館の事業としては、琵琶湖博物館の交流事業に寄与するとともに、平成23年度に開催される企画展示についての構想立案に展示グループの一員として参画した。

## 印刷物

### 【学術論文】

牧野厚史（2010）農山村の鳥獣被害に対する文化論的分析—村落研究からの提言．*村落社会研究*，46，日本村落研究学会，農産漁村文化協会，東京：187—213.

Makino, A. and Yang Ping (2011) Analysis of the Social Conditions Conducive to Sustainable Organic Rice Farming Around Lake Biwa in Japan . *ARSA 4<sup>th</sup> Conference Proceedings* , 2 : 284-296 (PDF version).

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

牧野厚史（2010年5月22日）いのちにぎわう琵琶湖&淀川～生物多様性とは!? その大切さを考えよう～．滋賀県立琵琶湖博物館他，琵琶湖博物館（草津市），[シンポジウム司会].

牧野厚史（2010年7月16日）社会制度としての水田—琵琶湖湖岸域「有機稲作農業のむら」の出現に関する考察—．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表].

Makino, A. and Yang Ping（2010年9月8日）Analysis of the Social Conditions Conducive to Sustainable Organic Rice Farming Around Lake Biwa in Japan. Asia Rural Sociology Association (ARSA) 4th International Conference, 2010, Bicol University (Legazpi City, Philippines), [口頭発表].

牧野厚史（2010年9月19日）地域が担う水田の生物多様性．環境省環境研究総合推進費D-0906・名古屋大学大学院環境学研究科，名古屋大学シンポジオンホール（名古屋市），[コメンテーター].

牧野厚史（2010年11月23日）琵琶湖岸のくらしと生物多様性．第22回日本環境動物昆虫学会年次大会，日本環境動物昆虫学会，滋賀県立大学（彦根市），[口頭発表・パネルディスカッション].

牧野厚史（2010年12月25日）水田地帯の生物多様性を効果的に保全するための社会的条件に関する研究．環境省アドバイザーボード，京都大学東京オフィス（東京都），[口頭報告].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地域環境問題についての意思決定」，（2010年度）.

科学研究費補助金（基盤C）「巨大干拓事業による潟湖コモンズの崩壊と再生に関する社会学的研究」（研究代表者：

谷口吉光, 共同研究者 (2008~2010 年度).  
科学技術振興機構 (JST)・社会技術研究開発センター (RISTEX) 研究開発プログラム『社会と技術の相互作用』地域主導型科学者コミュニティの創生 (研究代表者: 佐藤 哲), 共同研究者 (2008~2012 年度).  
環境省環境総合研究推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者: 夏原由博), サブグループリーダー (2009~2011 年度).  
琵琶湖博物館共同研究「カワウ営巣林の森林衰退一回復過程のモデル検証」(研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者 (2010 ~2011 年度).  
琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者: 前畑政善), 共同研究者 (2008 ~2010 年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本村落研究学会, 理事, 2008 年度~.  
日本環境社会学会, 編集事務局長, 2009 ~2010 年度.  
日中社会学会, 査読, 1 件.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010 年 4 月~7 月, 龍谷大学社会学部, 「琵琶湖・滋賀学」(非常勤講師).

#### 【受賞など】

河川整備基金助成事業優秀成果, 2010 年 9 月 7 日, 「カワウによる流域森林の衰退に対する保全管理方策の検討」, (亀田佳代子・前迫ゆり・牧野厚史・藤井弘章).

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 他の博物館・機関等主催行事

2010 年 12 月 17 日, まちづくりを楽しもう, 草津学区社会福祉協議会, 草津公民館 (草津市), 講師.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

常設展示更新, C 展示室, 2 件.  
展示交流員と話そう, 内容指導, 2 件.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2011 年度, 企画展示担当.

#### 【海外渡航】

2010 年 9 月 6~13 日, フィリピン レガスピ市ビコール大学, アジア農村社会学会参加.

#### 【館外の活動】

2007 年度~, 国交省琵琶湖河川事務所, 水陸移行帯ワーキンググループ.  
2010 年度~, 草津市コミュニティ事業団, くさつ情報ひろば運営委員.

前年度に引き続き、南湖の沈水植物の繁茂状況の把握と、沈水植物が増加した原因の解明を行った。沈水植物の繁茂状況の把握では、従来から使用している魚群探知機（使用周波数 200kHz）による全域モニタリングを行うと共に、スキャンソナー（使用周波数 800kHz）による新たな観測方法の開発を試みた。

増加した原因の解明では、最初の段階として既存の調査報告の地点ごとのデータを収集し、同一規格の地図上にプロットする作業を行った。この作業により、南湖の沈水植物の繁茂状況はおおまかに 4 つの時期に分かれる（1940 年前後、1958～1969 年、1977 年ごろ、1995 年～現在）ことが明らかになった。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

芳賀裕樹（2010）第 18 回企画展示「湖底探検」展示解説書。桑原雅之 編，滋賀県立琵琶湖博物館：71p.

芳賀裕樹（2010）探検手帳。第 18 回企画展示「湖底探検」，滋賀県立琵琶湖博物館：8p.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹（2010 年 11 月 25 日）南湖の水草の繁茂状況について。南湖研究会，滋賀県琵琶湖環境科学研究センター，滋賀県琵琶湖環境科学研究センター（大津市），[口頭発表]。

芳賀裕樹（2011 年 1 月 21 日）水中は可視化できたか？新しい魚群探知機による水中探査の試み。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表]。

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖南湖のネジレモ分布範囲の現状調査」，（2010 年度）。

平成 22 年度環境研究総合推進費委託研究「魚介類を活用したトップダウン効果による湖沼生態系保全システムの開発に関する研究」（研究代表者：藤岡康弘，研究分担者（2010～2012 年度））。

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11 件。

はしかけ（烏丸通信局），担当，10 件。

2010 年 7 月 31 日・8 月 21 日，琵琶湖の模型を作ろう，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（びわたん共同），2 件。

2010 年 8 月 28 日，「湖底遺跡の探検 ～湖に沈んだ村を科学する～」企画展関連シンポジウム，琵琶湖博物館，パネラー。

2011 年 2 月 5 日，水質ってなんだろう，新琵琶湖学創造セミナー，琵琶湖博物館，講師。

### 他の博物館・機関等主催行事

- 2010年5月27日, 琵琶湖・淀川の水質の話, 武庫川女子中学校, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年7月27日, 琵琶湖の水質とその調査方法について, 滋賀県立石部高等学校, 琵琶湖探求, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年8月2日, 守山市教育委員会, 教職員研修, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年8月10日, 水草の大増殖, 教職員研修, 滋賀県環境教育協議会, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年8月11日, 琵琶湖のお話とヨシ笛づくり, 大津プリンスホテル, キッズアカデミー, プリンスホテル(大津市), 講師.
- 2010年10月29日, 琵琶湖の生き物と水質, 津市一身田中学校, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年11月10日, 琵琶湖はどんな湖か, 初芝立命館高校, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年11月11日, 琵琶湖の環境変化について, シニア自然大学, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年11月16日, 琵琶湖の水と生物の現状, 滋賀グリーン購入ネットワーク, グリーン購入セミナー, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.
- 2010年11月20日・12月18日, 水質, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館(草津市), 学習助言.
- 2010年11月23日, 企画展解説, 教職員研修, 京都府私立中高理科学研究会, 琵琶湖博物館(草津市), 講師.

### 視察対応

- 2010年4月1日, 日本財団, 琵琶湖博物館.
- 2010年8月5日, 中国視察団, 琵琶湖博物館.
- 2010年10月30日, 名古屋市科学館, 琵琶湖博物館.
- 2011年1月10日, 飯田市, 琵琶湖博物館.

### メディアへの協力

- 2010年7月25日, 読売新聞, 潜水ロボ「淡探」引退危機, 企画展取材対応, (2010年7月18日取材).
- 2010年7月29日, 朝日小学生新聞, 琵琶湖の不思議, 企画展取材対応, (2010年7月18日取材).
- 2010年8月1日, 京都新聞, 湖底の世界 探検しよう, 企画展取材対応, (2010年7月17日取材).
- 2010年8月1日, 読売新聞・中日新聞, 50万分の1湖底模型作る, 企画展関連・わくわく探検隊取材対応, (2010年7月31日取材).
- 2010年8月7日, 京都新聞, 夏休み ミュージアムへ行こう 琵琶湖博物館, 取材対応, (2010年7月22日取材).
- 2010年8月10日, 毎日新聞, 湖底を探検しよう, 企画展取材対応, (2010年8月7日取材).
- 2010年8月18日, NHK, ちょっと変だぞ!日本の自然, 水草に関するコメント・データ提供, (2010年7月7日取材).
- 2010年8月31日, 産経新聞, 神秘的な湖底を紹介, 企画展取材対応, (2010年8月11日取材).
- 2010年9月2日, 毎日新聞, Oh! Me 琵琶湖の底の、不思議を体験, 企画展取材対応, (2010年8月7日取材).
- 2010年9月5日, 中日新聞, 琵琶湖の底 謎だらけ, 企画展取材対応, (2010年8月30日取材).
- 2010年9月10日, 中日新聞, 「淡探」の実物も展示, 企画展取材対応, (2010年8月30日取材).
- 2010年10月5日, NHK, おうみ発 610 クローズアップ琵琶湖, 琵琶湖の水草についての情報提供, (2010年9月19日取材).
- 2010年10月12日, NHK World NEWS LINE, (2010年10月3日取材).

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

- 2010年7月17日～11月23日, 企画展示 湖底探検～びわ湖の底はどんな世界?～, 主担当.  
モーニングレクチャー, 講義, 3回,

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2010～2012 年度, ASLO 琵琶湖大会国内委員会, 委員.

琵琶湖地域の水田研究を進めるために、名古屋大学などと共同で「地球環境研究総合推進費」による委託研究を継続した。自らの分担する分野については、研究は著しく滞っている。しかし共同研究者、研究協力者、そしてはしかけさんらが、水田の生物多様性の新しい側面を次々に解明している。そこでその成果を、さまざまな研究会やシンポジウムで宣伝して回った。また、この研究に関連した内容で、地域から観察会や講演のお呼びがかかることが多くなってきた。

琵琶湖地域で田んぼの生きものを研究している人たちを集めて、「琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催した。これまで調査に協力して下さった農家や土地改良区などにも声をかけたところ、19題の発表、127名の参加がありたいへんな盛会となった。

副代表者を務めてきた水田総合研究の成果は、最終年度に及んでようやく多くが受理され、一部は出版された。班長を務めた水田調査班の成果としては、下に掲げる前畑ら（2010）の他にも2編の論文が受理され、現在印刷中である。

日本珪藻学会の編集委員長兼編集幹事として、会誌 *Diatom* の26巻を編集・発行した。26巻の特集は「珪藻と教育」だった。その中に琵琶湖博物館はしかけ「たんさいぼうの会」会員が書いた2本の記事も掲載された。

琵琶湖博物館はしかけ「たんさいぼうの会」では、担当学芸職員として活動した。今年度は会員を主著とする原著論文は出版されなかったものの、上記の特集記事のほか、数学セミナーに有田ら（2010）の記事が掲載された。この記事ははしかけ活動の成果であるのみならず、異分野の研究者どうしの連携が生み出した新発見でもあると自負している。

滋賀県のミズゴケ湿地の珪藻に関する研究を、「たんさいぼうの会」会員とともに進めている。本年度は滋賀県南部の湧水湿地にオオミズゴケが生えている場所が多いことに着目し、その成因から生物群集に至るまでの総合的な解明を目指して、「たんさいぼうの会」のみならず、みなくち子どもの森、大阪市立大学などとも連携して共同研究を始めたところである。

## 印刷物

### 【学術論文】

- 前畑政善・大塚泰介・水野敏明・金尾滋史（2010）水田で育ったニゴロブナ幼魚の水田内残存と脱出場所の選択性. *農業農村工学会論文集*, 267, 農業農村工学会: 43-48.
- 水野敏明・大塚泰介・小川雅広・舟尾俊範・金尾滋史・前畑政善（2010）琵琶湖の水位変動とニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の水田地帯への産卵遡上行動の誘発要因. *保全生態学研究*, 15, 日本生態学会: 211-217.
- 水野敏明・大塚泰介・金尾滋史・小川雅広・舟尾俊範・前畑政善（2010）水田地帯に遡上するニゴロブナの水路選択に関わる環境要因. *魚類学雑誌*, 57(2), 日本魚類学会: 135-142.
- 大塚泰介（2011）琵琶湖におけるヨシ付着藻類の群落構造—二次遷移と水質の影響に着目して—. *Institute for Fermentation Osaka Research Communications*, 24, 財団法人発酵研究所: 223-232.

### 【専門分野の著作】

- 有田重彦・大塚泰介・戸田 孝（2010）珪藻の殻に現れたペルヌーイ螺旋. *数学セミナー*, 49(12), 日本評論社: 54-57.
- 中井大介・大塚泰介・北村美香（2010）環境学習プログラム「目指せ、珪藻マスター～ケイソウゲットだぜ!～」を実施して. *Diatom*, 26, 日本珪藻学会: 51.
- Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin,

V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2.* Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.

#### 【一般向けの著述】

- 大塚泰介 (2011) ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～8 固有種はどこから？鍵は「東海湖」 ゆらぐ従来の説明. *毎日新聞*, 毎日新聞社 : 2011年2月3日.
- 大塚泰介 (2011) ミズゴケ湿地の珪藻を調べる～はしかけ「たんさいぼうの会」の研究～. *琵琶博だより*, 3, 琵琶湖博物館 : 1.
- 大塚泰介 (2011) 2010年度第1回調査「イチョウウキゴケを探そう」調査結果報告 緒言. *フィールドレポーター* 掲示板, 35, 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.

## 研究活動に関する業績

#### 【学会・研究会での発表】

- 有田重彦・大塚泰介 (2010年5月8日) 中心類珪藻 *Coscinodiscus* 属の胞紋配列の規則性について. 日本珪藻学会第31回大会, 日本珪藻学会, 東京学芸大学 (東京都小金井市), [口頭発表].
- 芝崎美世子・大塚泰介・三田村宗樹 (2010年5月8日) 大阪府安威川における珪藻分布と河川環境. 日本珪藻学会第31回大会, 日本珪藻学会, 東京学芸大学 (東京都小金井市), [口頭発表].
- 中井大介・北村美香・大塚泰介 (2010年5月8日) 珪藻マスター「珪藻、ゲットだぜ！」. 第31回研究大会シンポジウム「珪藻と教育」ーその魅力、課題、そして可能性ー, 日本珪藻学会, 東京学芸大学 (東京都小金井市), [口頭発表].
- 有田重彦・大塚泰介 (2010年5月8日) 70歳からの珪藻研究. 第31回研究大会シンポジウム「珪藻と教育」ーその魅力、課題、そして可能性ー, 日本珪藻学会, 東京学芸大学 (東京都小金井市), [口頭発表].
- 篠原耕平・丸山 敦・大塚泰介 (2010年9月18日) マラウイ湖岩礁部の珪藻植生ーシクリッド魚類のマイクロハビタット指標としてー. 日本陸水学会第75回大会, 日本陸水学会, 弘前大学 (青森県弘前文京町), [ポスター発表].
- 篠原耕平・丸山 敦・大塚泰介 (2010年9月25日) 胃内容に見られる珪藻の種組成からシクリッド魚類のマイクロハビタットを推定する. 2010年度日本魚類学会, 魚類学会, 三重県文化会館 (三重県津市), [口頭発表].
- 大塚泰介・中村優介・打越崇子 (2010年11月6日) 滋賀県の水田の珪藻植生と、その環境指標性. 日本珪藻学会第30回研究集会, 日本珪藻学会, 九州大学 (福岡県博多市), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2010年11月6日) 日本珪藻学会第30回研究集会. 日本珪藻学会, 九州大学 (福岡県博多市), [座長].
- 山田奈都美・大塚泰介 (2010年11月19日) イチョウウキゴケの分布に影響を及ぼす諸要因の検討. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2010年11月19日) 琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画・運営].
- 上瀧七美・大塚泰介 (2010年11月19日) ダルマガエル幼生の成長日数と農事暦の比較. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 大塚泰介・中村優介 (2010年11月19日) 水田の珪藻の多様性. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

前田雅子・楠岡 泰・大塚泰介（2010年11月19日）滋賀県の“田んぼのエビ類（大型鰓脚類）”の分布と影響を及ぼす環境要因. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].  
西村洋子・吉山浩平・大塚泰介（2010年11月19日）水田における栄養カスケード効果—ニゴロブナからバクテリアまで. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].  
大塚泰介・中井大介（2011年2月18日）ヨシの茎上で付着珪藻がつくりだすバイオフィルムの構造とのはたらき. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].  
大塚泰介（2011年2月25日）琵琶湖地域の水田地帯の生物多様性—特に小さな生き物に注目して—. 第224回生態研セミナー, 京都大学生態学研究センター, 京都大学生態学研究センター（滋賀県大津市）, [口頭発表].  
篠原耕平・丸山 敦・大塚泰介（2011年3月11日）胃内容の珪藻組成によるシクリッド魚類のマイクロハビタット推定. 日本生態学会第58回大会, 日本生態学会, 札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）, [ポスター発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖地域の湿原で珪藻群落の分布を規定する環境要因の検討」, (2010年度).  
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者：Mark J. Grygier), 共同研究者（2006年度～2010年度）.  
琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者：前畑政善), 副代表者（2007年度～2010年度）.  
科学研究費補助金（基盤 C）「水田におけるニゴロブナ仔稚魚の成長と微小生物群集との相互作用の解明」(研究代表者：大塚泰介), 研究代表者（2009年度～）.  
地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者：夏原由博), サブテーマ代表者（2009年度～）.

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, Diatom, 編集委員長, 2009年1月～.  
日本珪藻学会, Diatom, 編集幹事, 2009年1月～2010年12月.  
日本珪藻学会, 運営委員, 2011年1月～.  
日本珪藻学会, Diatom, 担当編集委員, 1件.  
日本生態学会, Ecological Research, 査読, 1件.  
日本生態学会, 日本生態学会誌, 査読, 1件.  
日本珪藻学会, Diatom, 査読, 1件.  
Taylor & Francis, Ecology, Ethology & Evolution, 査読, 1件.  
日本ベントス学会, 日本ベントス学会誌, 査読, 1件.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年8月25日, 東北学院大学, 「博物館実習」(琵琶湖博物館の交流活動), 特別講師.  
2010年12月18日, 京都府立大学, 「環境微生物学」非常勤講師.  
2010年4月～2011年3月, 篠原耕平（龍谷大学理工学研究科修士課程）, 研究指導・助言.  
2010年4月～2011年3月, 芝崎美世子（大阪市立大学理学研究科修士課程）, 研究指導・助言.  
2010年4月～2011年3月, 山田奈都美（近畿大学農学部）, 研究指導・助言.  
2010年4月～2011年3月, 上瀧七美（近畿大学農学部）, 研究指導・助言.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10 件。

はしかけ運営，たんさいぼうの会，随時。

地域交流事業の総括，主担当者。

第4回博物館による環境と科学のフェスティバル，博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会，副担当。

びわ湖大縁日，びわ湖大縁日実行委員会，副担当。

2010年9月25日，プランクトンの模型を作ろう，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（飯住達也と共同）。

#### **他の博物館・機関等主催行事**

2010年5月27日，琵琶湖のプランクトン，武庫川女子大学付属中学校，講義，琵琶湖博物館，講師。

2010年6月26日・10月30日，琵琶湖の環境問題をどのように考えるか，立命館守山高等学校，講義とディベート，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師，2件。

2010年6月27日，田んぼの生きもの紹介とプランクトン観察，農業体験活動実行委員会，「農と自然の体験」第2回イベント，講義と観察，愛西土地改良区（彦根市），案内役，（北村美香氏・肥山陽子氏と共同）。

2010年7月3日，田んぼの生きもの観察会，愛知生協・田淵農場，講義と観察，北山田農事集会場（草津市），講師，（北村美香氏・井狩知子氏と共同）。

2010年7月6日，田んぼの小さな生きもの観察会，秀明自然農法ネットワーク，観察，秀明自然農法「信楽の里」（甲賀市信楽町），案内役。

2010年7月15日，田んぼの生きもの観察，草津市立笠縫東小学校，草津市集町の水田，案内役。

2010年7月15日，プランクトンの採集と観察，滋賀県立彦根東高等学校，講義と実習，琵琶湖博物館，講師。

2010年7月22日，プランクトンの採集と観察，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師。

2010年7月25日，顕微鏡コーナー，第4回博物館による環境と科学のフェスティバル，博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会，ビバシティ彦根（彦根市），講師。

2010年8月21日，冬期湛水不耕起水田の生き物観察会，（社）日本国際民間協力会 NICCO 琵琶湖モデルファームチーム，実習，蒲生郡竜王町岡屋のふゆみずたんぼ，案内役。

2010年9月19日，誰も知らなかった(?)水田の藻類・プランクトン，環境省環境研究総合推進費 D-0906・名古屋大学大学院環境学研究科，公開シンポジウム 地域が担う水田の生物多様性，名古屋大学シンポジオン（名古屋市千種区），講師。

2010年11月10日，プランクトンの観察，滋賀県立米原高等学校，スーパーサイエンスハイスクール事業，講義と実習，琵琶湖博物館，講師。

2011年2月11日，琵琶湖南湖のヨシとその周りの生きものの咄，NPO 法人瀬田川リバプレ隊，ヨシ刈り&ヨシ環境学習，瀬田町漁協，講師。

2011年3月15日，ふゆみずたんぼの生物多様性における役割，みずすましネットワーク，みずすましネットワーク交流会，葛巻町公民館（東近江市），講師。

#### **メディアへの協力**

2010年4月24日，毎日新聞，マンガを語ろう「サルでも描けるまんが教室」 下品ギャグに鋭い分析力 人気作品を一刀両断，取材対応。

2010年11月12日，京都新聞，数学で”解く“生物美 ケイソウ模様には法則 大津の男性が追求，取材対応。（有田重彦氏，戸田 孝と共同）。

2010年12月4日・5日，社研の窓，琵琶湖博物館はしかけ・フィールドレポーター，取材対応。（桑原雅之、中井大介氏と共同）。

2010年12月18日，朝日新聞，湖のある田んぼ生きもの研究会 明日琵琶湖博で，取材対応。

2010年12月20日，京都新聞，田んぼの生物育成環境探る 草津で研究発表，取材対応。

**【資料整備活動】**

*琵琶湖博物館の活動*

微小生物試料の収集，整理，監督，指示.

**【研究部関連事業】**

試験研究機関連絡会議，幹事.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

**【館外の活動】**

2001 年 4 月～，島根大学汽水域研究センター，協力研究員.

かつての琵琶湖周辺の水田は、フナ・ナマズ・コイなどの格好の産卵・成育の場であったが、多数のクリークや沼に囲まれた湿地帯で田舟による農作業を強いられ、洪水時には浸水被害を受ける地域であった。その後湖岸堤防の建設やほ場整備事業などの進展により、農業の生産性・食料増産などは図れたが、生息環境の物理的変化や移動経路の分断等により水田地帯の魚類は減少した。そこで、水田生態系を再生する目的で滋賀県では2001年から「魚のゆりかご水田プロジェクト」が始まり、2004・2005年は堰上げ全面魚道施設の開発とその産卵・繁殖効果を検証し、その取り組み面積は年々拡大した。

昨年度は野洲市で行われた約32haの魚のゆりかご水田を対象として、「魚のゆりかご水田の調査・検証とその構造的特性」について調査研究を行った。その結果は、魚のゆりかご水田はほ場整備された水田において良好に施行され管理ができておれば、水田に魚類を容易に侵入・産卵・繁殖させるシステムであり、その効果・検証を野洲市において確認することができた。さらに堰上げ水路は地区によって、水田の産卵・繁殖と変わらない効果を確認することができ、支線排水路は水田とほぼ同様の機能があると示唆された。

そこで、排水路における有意性をさらに実証するための方法として、昨年度「ゆりかご水路」を提唱した。このゆりかご水路の基本構造はゆりかご水田と同様であり、堰板を階段状に10cmの段差を設け、プレハブアーム柵渠内で魚類の産卵・繁殖を行うものである。構造は同じであるが目的とするものは異なり、ゆりかご水田は水田魚道、ゆりかご水路は排水路生態系保全水路である。このゆりかご水路の効果を検証する為に、今年度ゆりかご水路、ゆりかご水田、慣行排水路の3つの排水路を選び、その実証実験を行った。その結果は、慣行排水路の約10倍の魚類産卵・繁殖がゆりかご水路で見られ、また100倍がゆりかご水田で確認された。このことから、農村地域で魚類の産卵・繁殖を行う工法としてゆりかご水田をまず推奨し、ゆりかご水路はゆりかご水田の困難な地域等で補足的に実施される工法である、と考えている。特に今までゆりかご水田の実施地域は、湖辺域約2km以内に限定された地域が主であった。しかし、滋賀県の農村地域というエリアを考えた場合、生態系保全の推進を図る地域は湖辺域だけでなく、それ以外の地域に政策展開を行う必要がある。そこで、来年度以降は今まで検討されなかった「中流域」において、その地域的な特性ならびにその課題等を検討し、さらにゆりかご水路の魚類・繁殖効果を湖辺域同様に検証する予定である。

## 印刷物

### 【学術論文】

裕 登志之・堀 明弘 (2010) 魚のゆりかご水田プロジェクトにおける地域活動. *水土の知*, 10 (78), 農業農村工学会 : 3-6.

### 【一般向けの著作】

裕 登志之・秋山廣光・松田征也・里口保文・榊永一宏・寺尾尚純・老 文子・芳賀裕樹 編 (2010) *うみっこ通信*. 4, 琵琶湖博物館 : 4p.

裕 登志之 (2010) *琵琶博だより*. 創刊号, 琵琶湖博物館 : 1p.

裕 登志之・秋山廣光・松田征也・里口保文・榊永一宏・寺尾尚純・磯田能年・大依久人・飯住達也 編 (2010) *うみっこ通信*. 5, 琵琶湖博物館 : 4p.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 裕 登志之・堀 明弘（2010年11月18日）魚のゆりかご水田プロジェクトの特性とその効果検証について．第67回農業農村工学会京都支部研究発表会，三重県総合文化センター（津市），[口頭発表]．
- 裕 登志之（2010年12月19日）ゆりかご水路における魚類繁殖効果について．琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]．
- 裕 登志之（2011年2月4日）ゆりかご水路における魚類産卵・繁殖効果について．平成22年度農業土木研究発表会，滋賀県庁（滋賀県大津市），[口頭発表]．
- 裕 登志之（2011年3月18日）ゆりかご水路と堰上げ型排水路の特性について．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表]．

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8件．

2010年度，里山体験教室，副担当．

2010年9月27日，学校サテライト博物館移動，甲賀市・西浅井町，副担当．

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年6月19日，第2回魚の学校・魚のゆりかご水田観察会，須原魚のゆりかご水田協議会，野洲市，講師．

2010年7月31日，滋賀県における魚のゆりかご水田と地域活動，平成22年度福井ライフ・アカデミー現代的課題講座，福井県立若狭図書学習センター（福井県小浜市），講師．

2010年10月16日，第4回魚の学校・魚のゆりかご水田収穫祭，須原魚のゆりかご水田協議会，野洲市，講師．

2010年12月10日，H22須原ゆりかご水田調査結果とゆりかご水路，須原魚のゆりかご水田協議会，須原魚のゆりかご水田講演会，野洲市，講師．

2011年3月17日，堰上げ型排水路の特性とゆりかご水路について，湖南地域みずすまし推進協議会，第34回みずすまし報告会，草津市，講師．

#### 視察対応

2010年12月2日，滋賀県における魚のゆりかご水田について，韓国コウノトリセンター，琵琶湖博物館．

2011年3月8日，館内案内，エコアグリカルチャーパートナーズ，琵琶湖博物館．

2011年3月18日，ゆりかご水路と堰上げ型水路の効果と特性，愛知県農業総合試験場，琵琶湖博物館．

2011年3月27日，滋賀県における魚のゆりかご水田について，姫路市立水族館，琵琶湖博物館．

#### メディアへの協力

「自然保護」2011年3・4号，日本自然保護協会会報「自然保護」，「食」から考える地域の自然保護の取材，（2011年1月25日取材対応）．

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2010年7月17日～8月31日，第23回水族企画展示「魚はなぜ田んぼにやってくるのか」，琵琶湖博物館，副担当．

2010年12月14日～2011年1月16日，新空間展示「工房の田んぼ再発見」，琵琶湖博物館，主担当．

実験工房・田畑の維持管理行事，琵琶湖博物館屋外展示，主担当．

モーニングレクチャー，講義，4回.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2010年度，情報誌編集委員.

2010年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，副主幹を兼務.

### 【館外の活動】

2010年度，魚のゆりかご水田ネットワーク事務局.

2010年度，みずすましネットワーク運営委員.

2010年度，みずすまし専門部会（水質・生態系保全専門部会）担当者.

2010年度，みずすまし構想推進・魚のゆりかご水田プロジェクト担当者.

2010年11月10日，魚のゆりかご水田拡大キャラバン業務審査会審査員.

河川整備基金の助成研究では、これまで行ってきた伐採実験の結果を概説し、伐採前後の台風等大雨流出比較から、流量に対する水質濃度のパターンの変化を表にまとめ報告した。また、伐採実験の概説を投稿中である。伐採流域では、斜面下部表層で硝化が激しく起こり、硝酸態窒素が生じた結果、水質変動が大きく起こることがこれまで観測した土壤浸透水のデータから明らかになってきている。大雨時には普段流れている基底流出以外に直接流出という地表近くを流れる水が混入する。その場合、直接流出に含まれる新たに生じた硝酸態窒素が混合してくるため、水質形成を考えやすい。植生（スギ植林木）が成長し吸収力が回復するにつれ、その水質変動が伐採初期の頃より低下すると考えられる。それをうまく指標化し位置づけることができれば、流域診断に応用できると考えている。各大雨時の水位、流量データを収集し、化学分析を進め、水質データを完備することに努めた。

近年、鹿が増加傾向にあり、森林内の草本・低木は鹿の嫌う一部の種を除いてほとんどが食べ尽くされている。林によっては亜高木まで、剥皮により枯れが進行し、水系影響も心配される。ちょうど高島市の要請もあり、鹿害の影響評価研究に加わって鹿害の顕著な流域と少ない流域で水系影響を調べた。「鹿による植生被害が河川水質に及ぼす影響基礎調査」その結果はまだ予備的ではあるが、鹿害の顕著な流域の方が少ない流域に比べ、より弱い降雨でもSS発生量が多い結果となった。

引き続き行っている硝化に影響する環境条件の解明と斜面での流出過程の研究成果は一部、共同研究報告会で、温度条件と水分条件が高いほど硝化を促進すること、斜面下部林残存処理が下流への負荷削減に対して有効であることを報告した。

今年はモンゴル・フブスグル湖調査に行くことはできなかったが、山火事荒廃地での再生促進実験の方法をさらに検討し、「倒木遮蔽更新」仮説を検証する方法を考えて、科学研究費に申請した。また昨年採った再生林群の測量と年輪コアデータの解析を一部進めた。

事業の面では、初めて企画調整課に移り、新任職員研修や博物館実習、年報編集の担当となった。琵琶湖博物館に小さい頃から親しんで大きくなった実習生も少なからずいて、遠くの大学から当館を実習先に希望してくる。こういう実習生達は、昔通った当館で、色々内側から学びたいという意欲に溢れ、逆にいい刺激を受けた。

2009年からはしかけグループ「緑のくすり箱」のお世話をすることになった。植物の薬効活用を志向するアロマセラピストが多いグループで、森林浴にも興味がある。

## 印刷物

### 【学術論文】

尾坂兼一・乙守利樹・草加伸吾・駒井幸雄・浜端悦治・肥田嘉文・永淵 修・國松孝男（2010）森林小流域で測定した比流出量の収斂性の検証. *水環境学会誌*, 33（10）: 167-174.

### 【専門分野の著作】

草加伸吾（2010）河川整備基金助成事業「森林渓流水の水質形成機構とノンポイント評価—特に大雨時流出の解析に関する研究」（助成番号：21-1211-014），平成21年度河川整備基金研究報告書：17p.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

草加伸吾（2010年10月15日）モンゴル北部シベリアカラマツ林焼失地の再生促進：倒木遮蔽（しゃへい）更新仮

説の提唱と2,3の考察. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].  
草加伸吾(2010年2月20日)平成23年滋賀県植物研究会総会・発表会. 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [企画・運営].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求」, (2010年度).  
高島市委託研究「鹿による植生被害が河川水質に及ぼす影響基礎調査」, 研究分担者(2010年6月～2011年3月).

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年8月10日, 滋賀県立大学4回生, 土壌調査法指導.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

2010年度, 琵琶湖博物館はしかけ「緑のくすり箱」, 運営, 4件.

2010年5月9日, 朽木で春を探そう, 観察会, 高島市朽木森林公園くつきの森・滋賀県高島市, 講師, (麻生里山センター共催).

2010年7月25日, 植物標本の作り方, 夏休み自由研究講座, 屋外展示採集, 琵琶湖博物館, 講師.

##### 他の博物館・機関等主催行事

2010年5月22日, 希望が丘自然観察会, 春の植物観察会, 希望が丘文化公園荒川林道沿いの観察路(蒲生郡竜王町薬師), 講師.

2010年7月15日, 屋外展示の植物観察と食物としての植物, 彦根東高等学校, スーパーサイエンスハイスクール, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

#### 視察対応

2010年3月16日, 植物収蔵庫の植物標本(センノウ類)閲覧・調査, 富山県中央植物園, 琵琶湖博物館.

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

植物収蔵庫維持管理, 主担当(10点登録, 寄贈1点, 登録総数84,186点), (石田 未基氏と共同).

橋本忠太郎標本整理(採集標本のデータベース化, 約3000点).

実験温室管理, 主担当.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

平成22年度屋外展示植栽維持管理業務, 補助.

#### 【企画調整活動】

新任職員等研修, 主担当.

新任職員等研修, 屋外展示説明, 講師, 2010年4月15日, 琵琶湖博物館.

新任職員等研修, C展示室:水をはぐくむ森林, 森林・農地・市街地を通る水, 解説, 2010年4月22日, 琵琶湖博

物館.

博物館実習, 主担当.

博物館実習, 植物さく葉標本の作り方、整理について, 講師, 2010年8月3日, 琵琶湖博物館.

年報編集, 主担当, (中山法子氏と共同).

2010年度は、水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制等対策事業」が5年計画のうちの4年目を迎え、外来魚の生息抑制を効果的に行うための手法として、オス親魚による産卵床形成を誘導する装置「吊り下げ式人工産卵床」を、地元関係者の協力のもと、鹿児島県鹿児島市松元ダム貯水池、岡山県鏡野町苫田ダム貯水池（奥津湖）、東京都東村山市狭山公園宅部池、福島県三春町三春ダム貯水池（さくら湖）で設置し、外来魚の利用状況を調査した。その結果、前年度にも好成績を挙げた苫田ダム貯水池と、協力者が独自の仕様の装置を開発してくれた宅部池では、オオクチバスによる産卵床の形成が誘導された。産卵床の形成が誘導されなかった2水域については、松元ダム貯水池では水温上昇が早かったこと、三春ダム貯水池では設置時期にちょうど水位が著しく低下したことが、失敗の原因であると推察された。本事業ではまた、秋から冬にかけての水温低下期に、物陰へのブルーギルの蝸集状況を把握することもテーマとしていたが、主要調査地である鹿児島県住吉池において、湖の透明度がこれまでになく低下し蝸集状況の調査が困難となったため、過去の観察データの収集を行った。その結果、水温低下期以外にも、水温上昇開始時期直前を除きほとんど通年、ブルーギルの蝸集が確認されることが判明した。

環境省地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオ」では、鹿児島県南さつま市の水田7箇所における淡水貝類相調査を実施した。調査地では1箇所を除き、外来種のスクミリンゴガイが侵入しており、この外来巻貝の在来淡水貝類に対する影響を把握すべく、定量的サンプリングを実施した。収集したサンプルはソーティングの途上であり、それが済み次第、分析に取りかかる予定である。

琵琶湖博物館申請専門研究「滋賀県指定外来種スクミリンゴガイの防除手法の開発に関する予備的研究」では、8月になって本種が琵琶湖本湖にかなり大規模に侵出し、定着している可能性が見えてきたことから、緊急課題として、本種の琵琶湖沿岸域の生息状況調査を松田征也と共同で実施することとなった。その結果、琵琶湖東岸では、北湖・佐波江から南湖・木浜湖岸緑地公園の南まで、琵琶湖西岸では、北湖・和邇川下流部から南湖・山ノ下湾北部にかけて、本種がかなり広範囲に生息していることが明らかとなった。

環境省希少野生動物野生復帰事業では、主担当の松田征也と共同で、侵入したイトヨと大規模な交雑が進んでいる米原市のハリヨ保護区における個体群を対象に、保護区の上流側に交雑個体を含むイトヨを完全排除し、系統保存されている純系のハリヨを導入することで、野生復帰をはかる取り組みを開始した。同様に、イチモンジタナゴを対象としても、将来の野生復帰に向けての第一歩として、ため池や企業の設置したビオトープ施設に導入をはかる生息域外保全に向けての取り組みを始めている。同様に希少生物の保全に関して、京都府城陽市の住宅地跡で発見されたアズキガイ（京都府絶滅危惧種）を、生息地の宅地化による消失に対する代償的措置として、周辺の陸産貝類の再侵入が不十分な生息地へと導入することを、地元の自然保護団体と共同で計画している。また、滋賀県レッドデータブック 2010年版については、陸産貝類と淡水産貝類の編纂に携わった。

地域連携を視野に入れた専門家の立場からの活動としては、上述した企業によるビオトープ建設の取り組みの他、滋賀県経済同友会湖南支部による「湖南いきもの応援団」と称する生物多様性保全に向けた活動として、地元を流れる狼川を対象に魚類を中心とした生きもの調査が今年度から始まり、調査手法や結果の分析等にかかる指導を草津市環境課と共に行っている。また、奈良県平群町を流れる竜田川流域における水環境の回復をめざすグループの活動に対しても、助言を行っている。

今年度は、10月に愛知県・名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（CBD-COP10）が開催され、滋賀県自然環境が企画する巡回展示とエクスカッションについて、実施に向けてのさまざまな協力を行った。また、研究者としてCOP10公式イベントでの発表の機会を得、これまで専門としてきた外来生物対策を現時点で総括する機会となった。それによって、次年度、最終年度を迎える水産庁事業の枠内でまとめる項目が明確となり、また次年度から新規採択が決まった環境省地球環境総合推進費「外来生物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」の方向性を見定めるのにも役立った。今年度は、外来生物だけでなく生物多様性に関しても、さまざまな形で情報発信する機会が増えた。特に、身近な生物多様性保全の考え方については、COP10開催に併せて出版された細密画図鑑『よくわかる生物多様性① 未来につなごう身近ないのち』（くろしお出版）の監修を行った。

## 印刷物

### 【学術論文】

馬淵浩司・瀬能 宏・武島弘彦・中井克樹・西田 睦 (2010) 琵琶湖におけるコイの日本在来 mtDNA ハプロタイプの分布. *魚類学雑誌*, 57 : 1-12.

### 【専門分野の著作】

中井克樹 (2010) 外来魚問題への対策 (4) - 外来魚の繁殖を食い止める -. (社) 日本水産資源保護協会季報, 524 : 3-9.

中井克樹 (2010) 「特定外来魚」ブラックバス・ブルーギルの駆除. (財) 日本自然保護協会 編, 改訂 生態学からみた野生生物の保護と法律 生物多様性の保全のために, 講談社, 東京 : 142-143.

中井克樹 (2010) 第 26 章 外来種による生態系の攪乱. 塚本勝巳 編, *魚類生態学の基礎*, 恒星社厚生閣, 東京 : 299-310.

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2*. Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.

中井克樹 (2011) カワヒバリガイの特集によせて一事の起こりと 20 年目を迎えて -. *矢作川研究*, 15 : 43-44.

### 【一般向けの著作】

中山れいこ 著・中井克樹 監修 (2010) よくわかる生物多様性① 未来につなごう身近ないのち. くろしお出版, 東京 : 56p.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中井克樹 (2010 年 4 月 16 日) オオクチバスの抑制技術「人工産卵床」の問題点の克服. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

中井克樹 (2010 年 4 月 27 日) 三春ダムにおける外来魚抑制: 吊り下げ式人工産卵床 (オオクチバス)・繁殖コロニー単位の捕獲 (ブルーギル). 水源地生態研究会三春ダム研究グループグループ会議, (財) ダム権現地環境整備センター (東京都千代田区), [口頭発表].

Nakai, K., Takakura, T. and Hayashi, K. (2010 年 5 月 20 日) “Alien Watchers” project: a local governmental survey on invasive alien species as an emergency employment measures by Shiga Prefecture, Japan. The 2nd International Conference on Urban Biodiversity and Design (URBIO2010), URBIO2010 Organizing Committee, 愛知県産業労働センターWINK Aichi (愛知県名古屋市), [口頭発表].

Nakai, K. (2010 年 5 月 20 日) General Session 3: Cooperation toward Biodiversity Conservation. The 2nd International Conference on Urban Biodiversity and Design (URBIO2010), URBIO2010 Organizing Committee, 愛知県産業労働センターWINK Aichi (愛知県名古屋市), [Chair].

中井克樹 (2010 年 9 月 9 日) ダム貯水池における水位操作と人工産卵床を利用した特定外来魚の生息抑制に関する研究. WEC 応用生態研究助成 (第 4 回) 研究発表会, (財) ダム水源地環境整備センター (東京都千代田区),

[口頭発表].

Nakai, K. (2010年10月20日・21日) Black Bass Burger: Let's eat! and think about. Formal Side-event of CBD-COP10 "Think and Eat: A Workshop on Invasive Alien Species - Invasive Alien Species Management in Japan -". 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市), [イベントで試食用に配布された琵琶湖博物館レストラン特製ブラックバスバーガーの紹介].

Nakai, K. (2010年10月21日) A case of control by participation of various actors (Fish: Largemouth bass, etc.), Formal Side-event of CBD-COP10 "Think and Eat: A Workshop on Invasive Alien Species - Invasive Alien Species Management in Japan -". 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市), [口頭発表].

中井克樹 (2010年11月6日) 外来生物法の課題～施行5年後の見直しに向けて～. 第51回魚類自然史研究会, 近畿大学農学部(奈良県奈良市), [口頭発表].

中井克樹 (2010年12月10日) オオクチバス等の防除について. 第3回外来生物法施行状況評価検討会, (財)自然環境研究センター(東京都台東区), [口頭発表].

中井克樹 (2011年1月13日) 今年度結果発表: 三春ダムにおける外来魚抑制: 吊り下げ式人工産卵床(オオクチバス). 水源地研究会三春ダム研究グループグループ会議. (財)ダム水源地環境整備センター(東京都千代田区), [口頭発表].

中井克樹 (2011年1月30日) 吊り下げ式人工産卵床～なんだかよくわからない結果～. 第6回外来魚情報交換会, 草津市立まちづくりセンター(滋賀県草津市), [口頭発表].

中井克樹 (2011年2月24日) 吊り下げ式人工産卵床の設置と物陰への蝸集状況の調査. 平成22年度外来魚抑制管理技術開発事業第2回検討委員会(年度末報告会), 三会堂ビル(東京都港区), [口頭発表].

中井克樹(2011年3月8日) 総括コメント「誰が分類スキルを求めているのか? パラ「タク」じゃなくてもいい?」. 自由集会「山里海のコモンズ再生に向けての生物分類スキルのあり方とは? 在地・在野のパラタクソノミスト大集合」, 第58回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), [コメンテーター].

岩崎敬二・中井克樹・村上興正 (2011年3月9日) 企画集会「琵琶湖淀川水系における外来種管: モデルケースの提示と今後の課題」. 自由集会「山里海のコモンズ再生に向けての生物分類スキルのあり方とは? 在地・在野のパラタクソノミスト大集合」, 第58回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), [企画者].

中井克樹 (2011年3月9日) 琵琶湖水系における外来魚類の現状と課題. 企画集会「琵琶湖淀川水系における外来種管: モデルケースの提示と今後の課題」. 自由集会「山里海のコモンズ再生に向けての生物分類スキルのあり方とは? 在地・在野のパラタクソノミスト大集合」, 第58回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), [口頭発表].

高倉 猛・中井克樹 (2011年3月9日) 滋賀県による外来生物に関する取り組み: 条例施行と現状調査. 自由集会「山里海のコモンズ再生に向けての生物分類スキルのあり方とは? 在地・在野のパラタクソノミスト大集合」, 第58回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), [口頭発表].

中井克樹 (2011年3月11日) 外来魚類対策からみるモデル事業と要注意外来生物. 企画集会「外来生物法の見直しと将来」, 第58回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制等対策事業」(研究代表者:片野 修), 研究分担者(2007～2011年度).

環境省地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオ」(研究代表者:夏原由博), 研究協力者(2010年度).

環境省「ハリヨ野生復帰モデル事業」(研究代表者:松田征也), 研究分担者(2010～2012年度).

環境省「イチモンジタナゴ野生復帰モデル事業」(研究代表者:松田征也), 研究分担者(2010～2012年度).

水源地研究会陸上生態研究委員会三春ダム研究グループ(陸上・水圏生態研究委員会)(委員長:谷田一三), 委員(2008～2012年度).

琵琶湖博物館申請専門研究「滋賀県指定外来種スクミリンゴガイの防除方法の開発に関する予備的研究」, (2010年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護委員会，外来種問題検討作業部会員，2001年3月～。  
日本生態学会近畿地区会，委員，2010年1月～2011年12月。  
日本生態学会近畿地区会自然保護委員会，委員。  
日本魚類学会，評議員，2004年1月～。  
日本魚類学会自然保護委員会，委員。  
応用生態工学会普及・連携委員会，委員，2009年9月～。  
日本貝類学会，評議員，2011年1月～。  
阪神貝類談話会，理事，2000年1月～。  
生物多様性ネットワーク新潟，顧問，2004年10月～。  
ブラックバス防除市民ネットワーク，理事，2005年11月～。  
水産学会誌，査読，1件。  
陸水生物学報，査読，1件。  
野生生物保護，査読，1件。

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年4月～6月，東京海洋大学海洋科学部4年，洗足池（東京都港区）における外来魚調査法および人工産卵床の設置方法に関する技術指導。  
2010年5月28日，滋賀県立大学，近江環人地域再生学座「地域診断法」特論「滋賀県の動植物の特性把握と地域診断」。  
2010年7月12日，京都大学農学研究科環境デザイン学研究室学部4年，近江舞子内湖における魚類相調査に関する指導。  
2010年8月24日，茗溪学園高校2年，琵琶湖における外来魚の現状と生態的影響に関する助言および琵琶湖の漁業現場の案内。  
2011年2月18日，滋賀県立大学環境科学部環境政策計画学科3年，滋賀県内のため池における外来魚調査と結果の分析方法に関する助言。

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。  
琵琶湖博物館インターネット展示室・電子質問箱への対応，6件。  
2010年8月5日，外来種について：特に、生きものの飼育に関する「ルール」に関連して，琵琶湖博物館生き物飼いや講座，琵琶湖博物館，講師。

#### 他の博物館・機関等の主催行事

2010年4月17日，研修会および現地視察，運営委員研修会，城陽環境パートナーシップ会議，城陽市役所および山砂利採取跡地（京都府城陽市），講師。  
2010年4月22日，外来魚の同定方法と調査手法に関する解説，「エイリアン・ウォッチャーズ事業」調査員研修，（株）パスコ・滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，琵琶湖博物館，講師。  
2010年4月22日，勉強会，湖南企業いきもの応援団，滋賀経済同友会湖南支部，日本ガラクトロニクス（株）および狼川流域（滋賀県草津市），講師。  
2010年5月15日，琵琶湖の魚類について（外来魚を含む），立命館守山高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師。  
2010年5月18日，現地調査指導および講評，湖南企業いきもの応援団第1回調査会，滋賀経済同友会湖南支部，

- 日本ガラクトロニクス（株）および狼川流域（滋賀県草津市），講師。
- 2010年5月22日，講演「外来生物の脅威」，国際生物多様性の日記念シンポジウム「いのちにぎわう琵琶湖&淀川～生物多様性とは!? その大切さを考えよう～」およびパネルディスカッション「なぜ生物多様性は大切なのか?」，芥川緑地資料館（あくあびあ芥川）・大阪府環境農林水産総合研究所水生生物センター・亀岡市文化資料館・滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課・滋賀県立琵琶湖博物館・水道記念館・日本よし笛協会，琵琶湖博物館，講師およびパネリスト。
- 2010年5月29日，総括・閉会の辞，公開フォーラム「世界の博物館2010」，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館・独立法人国際協力機構，国立民族学博物館（大阪府吹田市），
- 2010年5月30日，パネル発表「外来魚バス・ギルをおいしく食べるためのひと手間レシピ」，外来魚駆除釣り大会（草津会場），滋賀県ほか，からすま半島芝生広場（滋賀県草津市），パネル掲示。
- 2010年5月30日，現地視察，カタツムリ観察会準備会，京都YMCA ワイルドベリー・チーム，能勢妙見山（大阪府豊能町），指導。
- 2010年6月2日，現地視察，平群町立平群北小学校観察会，竜田川環境浄化推進協議会，竜田川・平群北小学校ほか（奈良県平群町），指導。
- 2010年6月11日，現地視察，カワヒバリガイ駆除対策計画，田原市土地改良区，豊川用水小塩津池・伊良湖調節せき・初立池（愛知県田原市），指導・助言。
- 2010年6月19日，外来魚問題とその調査法，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師。
- 2010年6月20日，観察会指導，2010年度6月プログラム「不思議なカラダを追求しよう！山を登って探そうカタツムリ」，京都YMCA ワイルドベリー・チーム，能勢妙見山（大阪府豊能町），プログラム講師。
- 2010年6月23日，講義「琵琶湖のいまー固有種の危機」およびパネルディスカッション，地球環境シンポジウム「生物多様性を考えるー私たちでできること」，大阪市立環境学習センター（生き生き地球館），鶴見緑地生き生き地球館（大阪府大阪市），講師およびパネリスト。
- 2010年7月1日，講義「農業生態系における外来種の影響と対策」，（財）農村環境整備センター，平成22年度農村環境技術研修「生態系保全（基礎）コース」，国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都千代田区）。
- 2010年7月5日，講義「人生の先輩のお話を聞いて、自分の生き方を見つけよう～夢をかなえるために、今できること～」，大津市立瀬田南小学校校内研修会，大津市立瀬田南小学校（滋賀県大津市），講師。
- 2010年7月10日，講演「外来生物問題から生物多様性を考える」，シニア自然大学校・地球環境「自然学」講座第7回，此花会館／梅香殿（大阪府大阪市），講師。
- 2010年7月15日，田子倉湖における外来魚の現況評価と対策，田子倉湖外来魚問題意見交換会，伊北漁業協同組合，民宿「いわさき荘」（福島県只見町）。
- 2010年7月20日，現地調査指導および講評，湖南企業いきもの応援団第2回調査会，滋賀経済同友会湖南支部，日本ガラクトロニクス（株）および狼川流域（滋賀県草津市），講師。
- 2010年7月25日，講演「外来生物問題の考え方～まずは、鹿児島県の外来魚の事例から～」，動物植物生態三学会合同鹿児島例会「招かれざる客達～鹿児島における外来種問題を知る・考える～」，動物植物生態三学会合同鹿児島例会，鹿児島大学水産学部（鹿児島県鹿児島市），講師。
- 2010年7月28日，講義「むずかしい外来生物の問題～松元ダムの外来魚と在来魚～」，松元ダム外来魚駆除活動体験，松元ダム管理事務所（鹿児島県鹿児島市），講師。
- 2010年8月1日，ブルーギル釣り、解剖、調理の指導，2010年度第3回活動「琵琶湖博物館で外来魚を釣って、解剖して、食べてみよう！」，イオン西大津チアーズクラブ，草津丸半島港および琵琶湖博物館，講師。
- 2010年8月7日，進行，「KODOMO 生きもの会議①」，KODOMO バイオダイバシティ国際湿地交流 in 琵琶湖 2010，KODOMO バイオダイバシティ実行委員会（ラムサールセンター・滋賀県・積水化学工業（株））・環境省，びわ湖こども国（滋賀県高島市），講師。
- 2010年8月9日，講義「外来種問題を学ぶー外来種問題の本質に迫るー」，滋賀県総合教育センター環境科学講座第2回，滋賀大学教育学部自然環境教育施設（滋賀県大津市），講師。
- 2010年8月29日，対談（矢部隆氏と）「日本の生物多様性の危機と保全、協働の取り組み」および総合討論「現状・課題・取り組みの方策を立体的に明らかにします」，シンポジウム「市民が守る名古屋の生物多様性」，名古屋ため池生物多様性保全協議会，伏見ライフプラザ・鯉城ホール（愛知県名古屋市），対談者およびパネリス

ト.

- 2010年9月4日, 講義「生物多様性の考え方(私案? 思案?)」, 第一部会「現状と企業の可能性」ミニ討論会, 滋賀経済同友会「企業と生物多様性研究会」, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2010年9月6日, 竜田川生物観察会, 平群町立平群北小学校5年生環境学習, 平群町立平群北小学校・竜田川環境浄化推進協議会, 竜田川(奈良県平群町), 講師.
- 2010年10月2日, 講義「城陽の自然環境とカタツムリの仲間～団地跡地のアズキガイをどうするか?～」およびアズキガイ生息地の現地観察会, 自然学習会&観察会「カタツムリの仲間を見つけよう」, 城陽環境パートナーシップ会議, 城陽市男女共同参画支援センターぱれっと JOYO および府営寺田東住宅跡地(京都府城陽市), 講師.
- 2010年10月9日, 講演「外来生物問題の考え方～在来生物の方がなぜ大切なのか～」, 平成22年外来魚問題対策セミナー, 鳥取県, 鳥取県漁業協同組合研修室(鳥取県鳥取市), 講師.
- 2010年10月12日, 講義「博物館での仕事、研究者になつたいきさつ」「外来生物問題から考える生物多様性の問題と命の扱い」, 平成22年度特別研修会「琵琶湖博物館」, 三重高等学校・三重中学校, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2010年10月13日, 講義「琵琶湖の外来魚問題」および外来魚解剖・調理実習, 理科選択授業なかよくサイエンス, 大津清陵高等学校, 大津清陵高等学校(滋賀県大津市), 講師.
- 2010年10月13日, 現地調査指導および講評, 湖南企業いきもの応援団第3回調査会, 滋賀経済同友会湖南支部, 日本ガラクトロニクス(株)および狼川流域(滋賀県草津市), 講師.
- 2010年10月23日, 展示解説「生物多様性における琵琶湖の重要性とその課題」, 平成22年度滋賀県COP10関連事業・エクスカーション, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, エクスカーションバス車内(名古屋国際会議場前～琵琶湖博物館前)および琵琶湖博物館, 講師.
- 2010年10月23日, 魚類の外来種に関する質問対応, CBD-COP10 正式サイドイベント「見て、聞いて、考えよう! 外来種ワークショップ～紙芝居の上演と先生達への質問コーナー～」, 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室・(独)国立環境研究所, COP10 生物多様性交流フェア白鳥会場日本政府テント(愛知県名古屋市), 講師.
- 2010年11月7日, 基調講演「外来種が生態系に与える影響とそれへの対策…水辺を舞台にして」およびパネルディスカッション進行, 愛知・川の会「水辺生態系と外来種駆除を考えるシンポ」, 愛知・川の会, 愛知県産業労働センター「ウイंकあいち」(愛知県名古屋市), 講師およびコーディネーター.
- 2010年11月12日, 講演「水辺の外来生物～現状と対策～」, 平成22年度大阪府市町村水道水質共同検査講演会, 大阪府水道部, 大阪府立男女共同参画・青少年センター「ドーンセンター」(大阪府大阪市), 講師.
- 2010年11月14日, 基調講演「地域協同で取り組む外来種対策～琵琶湖水系における取り組みを例に～」およびフォーラム総括, ウチダザリガニ市民フォーラム, 阿寒湖のマリモ保全対策協議会・釧路市・釧路市教育委員会, 釧路プリンスホテル(北海道釧路市), 講師およびコメンテーター.
- 2010年11月20日・12月18日, 外来魚に関する調べ学習:問題の所在と参考論文の紹介, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2010年11月20日, 講義「外来魚問題について」, 自然大学16期琵琶湖実習, NPO 法人自然と緑・自然大学, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2010年11月27日, パネリスト報告「アズキガイ」, 第9回城陽市環境フォーラム「次世代につなぐ環境ーみんなで学ぼう!生き物多様性ってなんだろう?ー」パネルディスカッション「こんな生き物知ってる?希少な生き物報告します」, 城陽環境パートナーシップ会議・城陽市, 文化パルク城陽ふれあいホール(京都府城陽市), パネリスト.
- 2010年12月12日, コメント「地域の自然と文化を支える生物多様性」, 湖上セミナー, 瀬田川リバプレ隊, 観光船一番丸(滋賀県琵琶湖上), コメンテーター.
- 2010年12月17日, 報告「魚類:対策の概要」, セミナー「外来種とCOP10～みんなで進める外来種対策～」, 環境省(外来生物対策室), 国連大学エリザベスローズ会議場(東京都渋谷区), 報告者.
- 2010年1月26日, 報告「近畿地方における生物多様性の取り組み事例紹介:滋賀県で、琵琶湖博物館で」, 生物多様性アフターCOP10 セミナー～生物多様性のこれから～, 環境省近畿地方環境事務所, ハートンホール毎日新聞ビル(大阪府大阪市), 報告者.
- 2011年1月27日, 現地調査指導および講評, 湖南企業生きもの応援団第4回調査会, 滋賀経済同友会湖南支部,

- 日本ガラクトロニクス（株）および狼川流域（滋賀県草津市），講師。
- 2011年2月5日，基調報告「外来生物の脅威：とくに川環境での影響と対策」およびパネルディスカッション「矢作川の外来生物」，平成22年度第16回豊田市矢作川研究所シンポジウム「矢作川の外来生物」，豊田市，豊田産業文化センター（愛知県豊田市），発表者およびコメンテーター。
- 2011年2月12日，学習発表会の審査，立命館守山中学校，琵琶湖学習，立命館守山中学校メディアホール（滋賀県守山市），審査員。
- 2011年2月27日，講演「琵琶湖と伊吹山～滋賀の非海産貝類の多様性とその現状」，滋賀自然環境研究会設立35周年記念事業公開特別講演会，滋賀自然環境研究会，（財）滋賀県婦人会館（滋賀県近江八幡市），講師。
- 2011年3月15日，検証結果に関する助言，カワヒバリガイ野外実験検証会：現地確認と意見交換，田原市土地改良区・豊川総合用土地改良区・水資源機構豊川用水総合事業部，豊川用水小塩津池・広畑揚水機場および田原市土地改良区事務所（愛知県田原市），学識経験者。

## 視察対応

- 2010年4月21日，琵琶湖の現状の概説と展示案内，Glen Eira市（オーストラリア）守山市表敬訪問団，守山市・大垣市，展示室。
- 2010年7月18日，展示案内と研究打合せ，Lake Superior State University一行，滋賀県立大学環境科学部，展示室および事務学芸室。
- 2010年6月29日，展示案内，JICA 集団研修「環境中の有害汚染物質対策コース」見学，公益財団法人地球環境センター，展示室。
- 2010年7月9日，現地視察案内および関係部局との協議，絶滅危惧種野生復帰モデル事業に関する視察，環境省野生生物課・（財）自然環境研究センター，醒井地蔵川（滋賀県米原市）・琵琶湖博物館・（財）琵琶湖淀川水質保全機構 Biyo センター（同草津市）・滋賀県自然環境保全課（同大津市）。
- 2010年8月5日，環境学習施設としての概要説明・展示案内，「ふくおかアイランドシティ」における環境学習施設建設に関する視察，福岡市港湾局環境対策課，事務局および展示室。
- 2010年8月11日，水源環境の保全に関する概要説明と展示解説，大韓民国群山市視察団による水質改善日本研修，群山市役所企画予算課国際交流係，会議室および展示室。
- 2010年8月19日，展示案内，日本の環境にやさしい水路視察団による見学，韓国農村建築学会，展示室。
- 2010年9月1日，展示案内，JICA 青年研修「都市環境管理コース」による研修，公益財団法人地球環境センター，展示室。
- 2010年9月14日，展示案内，JICA 地域別研修「アジア水環境ガバナンス強化ワークショップ」による見学，（財）地球環境戦略研究機関，展示室。
- 2010年9月24日，展示案内および来館目的に関する説明，外来生物法の問題点に関する取材来館，民主党企業団体委員会，展示室および事務学芸室。
- 2010年10月14日，展示案内，JICA 研修「沿岸域・内湾およびその集水域における統合的水環境管理コース」による研修，（財）国際エメックスセンター，展示室。
- 2010年11月5日，地球温暖化に関する研修（滋賀県温暖化対策室による講義）の準備および展示案内，JICA 研修「タイ国温室効果ガスの削減にかかる組織能力強化プロジェクト」による研修，（株）オリエンタルコンサルタンツ，展示室。
- 2010年11月9日，エコツーリズムに重点を置いた現状説明・展示案内・質疑応答，韓国観光振興省先進国視察プロジェクトによる訪問，日韓交流支援センター，展示室および会議室。
- 2010年11月25日，滋賀県の環境施策に関する概要説明と展示案内，JICA 国際技術研修平成22年度「生活排水対策コース」に対する概要説明と展示解説，（財）北九州国際技術協力協会，展示室。
- 2010年12月2日，魚のゆりかご水田に関する相談および展示見学，韓国コウノトリセンター訪問団，韓国コウノトリセンター，会議室および展示室 [碓登志之と共同]。
- 2010年12月16日，施設概要説明・展示解説・展示とボランティアとの関連等の解説，JICA 中国・循環型経済促進プロジェクト「環境教育施設運営及び人材育成」，京エコロジーセンター，展示室。
- 2010年12月19日，琵琶湖の自然環境等の解説，中国湖北省環境保護庁研修団，日中交流推進機構，展示室。

- 2011年1月22日，琵琶湖淀川水系の水利用に関する展示説明，JICA 課題別研修「アジア地域上水道事業経営・人材育成セミナー」による見学，横浜ウォーター（株），展示室 [奥村浩匡と共同].
- 2011年2月8日，展示案内，ミシガン州立大学連合日本センター同窓会協会 Benjamin McCracken 会長による表敬訪問，滋賀県商工観光労働部観光交流局，展示室.
- 2011年2月16日，展示解説，JICA 集団研修「水辺を中心とする自然体験を通じた環境教育」による研修，環境レイカーズ，展示室.

## メディアへの協力

- 2010年4月27日，共同通信社配信（秋田魁新聞・山形新聞・福島民報・下野新聞・山梨日日新聞・日本海新聞・新潟日報・北日本新聞・岐阜新聞・神戸新聞・山陰中央新聞・山陽新聞・徳島新聞・西日本新聞・佐賀新聞・長崎新聞・大分合同新聞・熊本日新聞等），「逆巻きのキセルガイ発見・京都 突然変異」，4月28日，京都新聞，「逆巻きのキセルガイ発見／国内200種 すべて左巻き／遺伝解明 貴重な資料」，中日新聞，「右巻きキセルガイ 9日まで一般展示／琵琶湖博物館」，朝日新聞，「どうして私、右巻きなの…／キセルガイ突然変異？見つかる」，読売新聞，「陸産逆巻き貝京都で発見／琵琶湖博物館」，毎日新聞，「突然変異 さあどっち？／ナミコギセルガイ／琵琶湖博物館員が京都で発見」，5月2日，産経新聞，「あれっ逆!! 右巻き貝／琵琶湖博物館「突然変異」／ナミコギセルガイ」，京都府城陽市で採集されたナミコギセルガイの生物学的意味に関するコメント，（4月27日資料提供 <http://www.lbm.go.jp/contact/press/pdf/100427.pdf>，電話取材等）.
- 2010年4月29日，朝日放送，緑の日特別番組「ガラスの地球を救え」，琵琶湖・瀬田川で発見されたチャネルキャットフィッシュの危険性に関するコメント，（4月16日現地インタビュー）.
- 2010年5月6日，NHK 総合（大津局），「おうみ発610：右巻きのキセルガイ発見／琵琶湖博物館」，ディスカバリー展示の紹介，（来館取材）.
- 2010年5月23日，中日新聞，「生物多様性 大切さ知って」，毎日新聞，「生物の多様性考える／よし笛演奏も 専門家らシンポ」，生物多様性記念シンポジウムの紹介，（5月22日シンポジウム来館取材）.
- 2010年6月12日，朝日新聞，「特定外来生物カワヒバリガイ／コイ放流で駆除作戦／「食べちゃって」田原の池に1200匹」，カワヒバリガイ対策としてのため池でのコイ放流実験に関するコメント，（6月11日電話取材）.
- 2010年6月12日，読売新聞，「豊川用水の外来貝／コイ使い駆除実験／1200匹放流」，日本農業新聞，「カワヒバリガイ駆除へ／調整池へマゴイ／愛知県田原市」，カワヒバリガイ対策としてのため池におけるコイ放流実験に関するコメント，（6月11日現地取材）.
- 2010年6月30日，読売新聞，「第12回日本水大賞／受賞者決定 あす表彰式／大賞 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会（茨城）」，会の外来魚駆除活動に関するコメント，（4月26日現地取材）.
- 2010年7月10日，びわ湖放送『県政週刊プラス1』，失われる『つながり』と『にぎわい』～生物多様性って何？～，琵琶湖における外来魚の影響および対策の必要性とその効果等に関するコメント，（7月6日来館取材）.
- 2010年7月15日，洛南タイムス，「ナチュラルリストのフィールド日記(60)：『生き物住民登録』の取り組みと希少種・ダルマガエル序章」，山砂利採取跡地の自然再生に関するコメント，（4月17日現地取材）.
- 2010年7月24日，フジテレビ『めざましどようびメガ』，「週間ビューわかったワ：世界最大級の淡水魚・アリゲーターガー東京で捕獲」，東京都呑川におけるアリゲーターガー捕獲に関する助言，（電話取材）.
- 2010年7月27日，毎日放送『よゐこ部』「生物部・徹夜でビワコオオナマズ捕獲大作戦」，特別採捕許可にかかる捕獲作業への同行，捕獲魚種の同定確認，確認生物（魚類・昆虫類）に関する助言，（6月20日～21日現地ロケ同行）.
- 2010年7月31日，テレビ朝日『報道発 ドキュメンタリ宣言』，「追跡4年…最大3mにも 大都会の巨大肉食魚」，アリゲーターガーの卵巣の発達状況と繁殖可能性に関するコメントおよび番組全体の監修，（6月～7月電話・電子メールによる取材・協議；7月19日来館取材）.
- 2010年9月25日，京都新聞，「コクチバス定着確認／野洲川ダム貯水池／琵琶湖博物館 県内3例目、拡大懸念」，中日新聞，「コクチバスが定着／野洲川ダム貯水池で3例目／琵琶湖侵入を懸念／県立大など調査」，朝日新聞，「コクチバス生息確認／野洲川ダム貯水池／湖へ流入懸念」，読売新聞，「コクチバス生息を確認／3か所目 野洲川ダム貯水池」，産経新聞，「コクチバス 繁殖確認 野洲川／特定外来生物 琵琶湖流入の危険性も」，9月26日，毎日新聞，「コクチバス生息 確認／特定外来生物／県内3例目野洲川ダム 在来魚捕食、流出懸念」.

- 念」, 野洲川ダム貯水池でコクチバスが確認されたことの危険性に関するコメント, (9月24日資料提供 <http://www.lbm.go.jp/contact/press/pdf/100924.pdf>・電話取材).
- 2010年9月28日, びわ湖放送ニュース番組, ヤマナメクジ, (9月28日電話による生出演).
- 2010年10月4日, 時事通信, 外来種イベント, (9月17日取材)
- 2010年10月8日, 中日新聞, 「外来魚駆除後 また幼魚/高山のため池/残った卵ふ化? 『生態系復元 難しい』 悩む市」, ため池における外来魚駆除の考え方と効果的な手法に関するコメント, (10月7日電話取材).
- 2010年10月16日, 朝日新聞, 「種の興亡 at 滋賀③: 外来魚から生態系守れ/駆逐されるホンモロコたち/水位調整は産卵に配慮」, 琵琶湖の国内外来魚・ワカサギの影響に関する考えかたを助言, (10月5日電話取材).
- 2010年10月14日, NHK総合(大津局)『おうみ発610』, 10月16日, NHK総合(全国版)『おはよう日本』, 10月19日, NHK総合(大阪局)『ニューステラス関西』, 「姿を消すカタツムリ」, 身近なカタツムリの現状の解説と保全の方向性に関するコメント, (10月2日・4日守山市ロケ取材).
- 2010年10月9日, 中日新聞, 「トキのはく製 公開/大津の滋賀大付属中で発見/草津のCOP10巡回展/『かつては滋賀でも生息』PR」, 残されていたトキの標本を展示した事情に関するコメント, (10月7日来館取材).
- 2010年10月17日, 毎日新聞, 「雑記帳」, 10月18日, 朝日新聞夕刊, 「減らすには 食べてみせよう ブラックバス/会議場で無料バーガー」, 10月19日, 朝日新聞, 「琵琶湖『バスバーガー』/COP10で世界デビュー/外来種対策 先進地アピール/駆除進み、今や夏場の限定商品」, 琵琶湖博物館レストラン「にほのうみ」におけるブラックバスバーガーのCOP10会場での提供に関する経緯と意義に関する説明, (10月15日資料提供 <http://www.lbm.go.jp/contact/press/pdf/101015.pdf>・電話取材).
- 2010年10月21日, 京都新聞, 「琵琶湖保全活動 COP10で紹介/外来魚のバーガー試食も/伐の竹ではし作り体験 固有種の魚イラスト展示/滋賀県立大生やNGO」, 中日新聞, 「食べる外来種/外来魚バーガーで一考」, 読売新聞, COP10から「琵琶湖バスバーガー 食べながら対策学習/外来種に関する講演会」, (10月15日資料提供 <http://www.lbm.go.jp/contact/press/pdf/101015.pdf>・COP10会場取材).
- 2010年10月22日, 朝日新聞, 「やめて外来魚放流/多摩川で200種/淀川でも悠々」, 飼育される外来観賞魚の遺棄の問題に関するコメント, (10月20日COP10会場取材).
- 2010年11月8日, 京都新聞, 「オタマジャクシ 川底 "ジャック" /猛暑で大量発生か/ウシガエル/大津・横田川」, ウシガエル幼生の大量発生の原因と特定外来生物としての取り扱いに関するコメント, (10月30日電子メール, 11月4日電話取材).
- 2010年11月17日, 読売テレビ『ズームインスーパー』, 「巨大外来魚アリゲーターガーはどこへ? 日本の河川に迫る恐怖 徹底追跡!」, アリゲーターガーの現状に関する解説, (11月10日来館取材).
- 2010年11月24日, テレビ朝日系『ナニコレ珍百景』, 「岐阜県養老町謎のゼリー状の生物」, オオマリコケムシの同定と解説, (10月29日来館取材).
- 2010年11月26日, 洛南タイムス, 「ナチュラリストのフィールド日記(75):COP10 城陽!! 『第9回城陽市環境フォーラム・記念講演会』」, フォーラムのパネリストとして取材対応, (11月27日現地取材).
- 2010年12月11日, 洛南タイムス, 「ナチュラリストのフィールド日記(76):COP10 城陽!! 記念講演会を終えて」, 同上.
- 2010年12月14日, 読売新聞, 生活わいど「外来生物 各地で食材化/イメージアップに課題/食わず嫌い 利用低迷」, 外来生物の食材利用に関するコメント, (11月17日来館取材).
- 2010年12月20日, 読売テレビ『ズームインスーパー』, 「幻の魚! ビワコオオナマズを獲れ! ~25歳の怪魚ハンターに大密着!」, ビワコオオナマズに関する解説コメント, (11月10日来館取材).
- 2011年1月12日, 洛南タイムス, 「ナチュラリストのフィールド日記(79):フィールド初詣 2011年始動!!」, 京都府絶滅危惧種アズキガイの移植に関するコメント, (2010年12月26日現地取材).
- 2011年1月16日, BS朝日特別番組『自然に学ぶ Wisdom of Nature~失われゆく生物多様性 今、できること~』, 琵琶湖の生態系の現状と外来種の問題に関するコメント, (2010年9月17日来館取材).
- 2011年1月26日, 洛南タイムス, 「ナチュラリストのフィールド日記(80):生き物住民登録・ハンドブック 完成間近!!」, 生き物住民登録における淡水魚類調査に関するコメント.

## 【情報整備活動】

### 琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館情報システムの管理・運営，随時 [戸田 孝と共同].

爬虫類・両生類収蔵品データベースの管理.

琵琶湖博物館インターネット展示室・電子図鑑「外来生物」の管理および修正.

### 他博物館・機関の活動

『月刊学習』2010(6)「科学トピックス：自然環境を脅かす国内外来魚」(pp. 111-112)，国内外来魚の例としてモツゴとオヤニラミの写真の提供.

環境省ウェブサイト「生物多様性 -Biodiversity-」(<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>; 2011年3月末改訂)，侵略的外来種の例としてオオクチバスの水中写真の提供.

滋賀県「go. biwako - Travel Guide for Shiga Prefecture, Japan」，琵琶湖博物館を紹介する「Photo Trip Reports」を製作するための取材(2011年2月8日)への協力.

松沢陽士(2010)『外国から来た魚』(フレーベル館)の製作における琵琶湖での取材協力および紹介記事(ある研究者との出会い)に関するコメント.

Freshwater Illustrated『RiverWeb: A film about life, death, science, & streams』の学校教育版への再編集に関する助言等.

富良野市博物館(2011)『富良野の自然シリーズNo. 3 富良野の外来生物』の製作における琵琶湖等での取材協力.

城陽環境パートナーシップ会議(2011)『城陽生き物ハンドブック：知ってる？ 城陽の宝もの2010～次代に残そうふるさと生き物たち～』への写真提供(アズキガイ)と助言.

## 【資料整備活動】

### 琵琶湖博物館の活動

魚類・貝類・その他水生無脊椎動物の標本資料の採集および収蔵，随時.

2010年7月5日，Zファクトリー(映像製作会社)提供のアリゲーターガー(東京都港区呑川で捕獲された3個体分)の引き取り.

2010年8月23日，(株)新洲より提供・同定依頼された溪流生シナノビル(滋賀県内で採集)の引き取り.

2010年10月19日，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課提供のワニガメ(動物愛護管理法特定動物・滋賀県指定外来種；滋賀県内で捕獲)の生きた個体の引き取り.

2011年2月14日，草津市市民環境部ごみ減量推進課提供のピラルク廃棄死体(草津市内で回収)の引き取り.

### 他博物館・機関の活動

2010年4月，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，滋賀県内の池干して捕獲された魚類の同定依頼，同定結果：カムルチー(外来種).

2010年5月，信州大学理学部，京都府城陽市産の生きたナミコギセルガイの逆旋個体と正常個体の提供，逆旋個体の遺伝的基盤を分析する飼育実験中.

2010年5月・12月，(株)パスコ，滋賀県自然環境保全課「エイリアンウォッチャーズ」事業で採取された滋賀県内産の淡水貝類の同定依頼，同定結果：コモチカワツボ(滋賀県指定外来種).

2010年10月，大阪府病害虫防除所，大阪府堺市の農地で発見された陸産貝類の同定依頼および生態的影響に関する相談，同定結果：オオクビキレガイ(外来種).

2010年10月，立命館大学探検部，高知県の洞窟で採取された陸産貝類の同定依頼，同定結果：ベニゴマオカタニシ・ヤマクルマガイ.

## 【展示活動】

### 琵琶湖博物館の活動

2010年4月27日～5月9日，展示「大発見だよ！ さかまきのまき貝がみつかりました！ ナミコギセルガイ」，ディスプレイルーム，飼育展示用の個体の提供.

2010年6月22日～、展示「タカチホヘビ」、ディスカバリールーム、飼育展示用の個体の提供。  
2010年10月1日～10月24日、滋賀県自然環境保全課・滋賀県立琵琶湖博物館主催「ほっとけん！淡海の生きもののにぎわい～COP10・国際生物多様性年 記念巡回展示～」、集う・使う・創る 新空間、巡回展全体の構成・内容に関する助言および琵琶湖博物館独自の展示内容企画と展示会運営、[八尋克郎・秋山廣光と共同]。  
2011年1月3日～2月6日、お正月トピック展示「ウサギ展」、アトリウム、貝類担当として展示の製作（標本選定と解説パネルの作成）、[秋山廣光と共同]。  
モーニングレクチャー、講義、4回。

### 他博物館・機関の活動

2010年度、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課（企画・主催）、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）および国際生物多様性観測年記念巡回パネル展示「ほっとけん！淡海の生きもののにぎわい」の製作への協力（写真提供・内容指導）、多賀町立博物館（企画展「多賀で学ぼう！生物多様性」：2010年5月8日～6月13日）・甲良町立図書館（6月2日～24日）・近鉄百貨店草津店（6月10日～16日）・草津市民交流プラザ（6月25日～7月1日）・野洲市立野洲図書館（7月2日～10日）・甲賀市立みなくち子どもの森自然館（企画展「里山は生きものがいっぱい！～甲賀の生物多様性～」：7月14日～9月23日）・東近江市立西堀榮三郎記念館探検の殿堂（企画展「ほっとけん！淡海の生きもののにぎわい～COP10・国際生物多様性年記念巡回展示～ユキムシくんが語る生物多様性」：7月14日～9月23日）・東近江市立永源寺図書館（7月15日～29日）・コラボしが21大会議室（琵琶湖環境科学研究センター「琵琶湖セミナー」：7月28日）・守山市駅前総合案内書（8月9日～15日）・長浜市木之本支所玄関ホール（8月30日～9月3日）・長浜市役所本館玄関ホール（9月6日～17日）・東近江市立能登川博物館（第91回企画展「東近江の溜池」：9月29日～10月31日）・滋賀県立琵琶湖博物館（新空間展示「ほっとけん！淡海の生きもののにぎわい～COP10・国際生物多様性年記念巡回展示～」：10月1日～24日）・甲賀市碧水ホール（10月6日～14日）・甲賀市かふか生涯学習館（10月20日～28日）・湖北野鳥センター（11月3日～28日）・水のめぐみ館アクア琵琶（11月6日～28日）・彦根市中地区公民館ロビー（11月9日～24日）・彦根市役所ロビー（11月25日～12月2日）・東近江市八日市図書館（12月1日～26日）・高島市新旭水鳥観察センター（12月4日～26日）・伊吹山文化資料館（1月8日～2月14日）、[牧野厚史（自然環境保全課兼務）と共同]。  
2010年10月18日～29日、外務省生物多様性条約COP10日本準備事務局（企画）、「触れる地球」（日本科学未来館所蔵）を利用した世界の侵略的外来種オオクチバスとコイの地理分布データの表示に関する基本データの提示と写真提供。

### 【企画調整活動】

国際交流担当として海外からの視察・研修等を目的とした来館者への対応、随時 [楠岡 泰と共同]。  
新入職員等研修、C展示室解説、2010年4月21日、琵琶湖博物館。  
JICA 集団研修「博物館学集中コース」北海道研修旅行、随時、2010年6月2日～4日、平取町立二風谷アイヌ文化博物館および萱野茂二風谷アイヌ資料館（北海道平取町）・アイヌ民族博物館（同白老町）、[楠岡 泰と共同]。  
JICA 集団研修「博物館学集中コース」一般研修「琵琶湖博物館」、講義「How were your Ayu obtained?」、2010年6月13日、国立民族学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館、琵琶湖博物館、講師。  
JICA 集団研修「博物館学集中コース」における一般研修「琵琶湖博物館」の全体対応・展示解説、2010年6月9日～15日、琵琶湖博物館館内各施設、[楠岡 泰と共同]。  
JICA 集団研修「博物館学集中コース」における個別研修「博物館と地域コミュニティ」の全体対応・館外研修随時、2010年6月28日～7月2日、琵琶湖博物館内各施設・若鮎保育園（滋賀県守山市）および吉川漁港（同野洲市）・MIHO MUSEUMおよび滋賀県立陶芸の森（同甲賀市）、[楠岡 泰と共同]。  
JICA 集団研修「博物館学集中コース」個別研修「博物館と地域コミュニティ」、外来魚解剖、2010年6月29日、国立民族学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館、琵琶湖博物館、講師。  
2010年度（毎月第3土曜日）、琵琶湖博物館特別講演会（第13～24回）の準備・運営・進行等、琵琶湖博物館ホールまたはセミナー室・草津アマカホール（同：9月18日のみ）、[高橋啓一・八尋克郎と共同]。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2010年4月1日～2012年3月31日，国立民族学博物館集団研修博物館学集中コース運営委員会，委員。

### 【館外の活動】

2003年5月～，滋賀県，外来種問題検討委員会，検討委員および水生生態系部会員。

2003年度～，滋賀県，生きもの総合調査委員会，魚貝類部会，専門委員。

2009年度～2010年度，滋賀県 COP10 関連事業検討委員会，委員。

2004年8月～，国土交通省琵琶湖河川事務所，河川保全利用委員会，委員（2009年から副委員長）。

2010年3月～，国土交通省中国四国整備局苫田ダム管理所，ブラックバス勉強会，委員。

2008年9月～，農林水産省，外来貝類被害防止対策検討委員会，委員。

2008年7月～，農林水産省東海農政局，外来貝類被害防止対策検討委員会，委員長。

2003年度～，環境省，絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会（陸・淡水産貝類分科会），検討委員。

2004年10月～，環境省，外来生物専門家グループ（無脊椎動物），検討委員。

2005年12月～，環境省近畿地方環境事務所，琵琶湖オオクチバス等防除モデル事業調査検討委員会，委員。

2008年3月～2011年3月，環境省九州地方環境事務所，蘭牟田池オオクチバス等防除モデル事業に関する検討部会，アドバイザー。

2010年3月～，環境省中国四国地方環境事務所，開放水域におけるオオクチバス等防除モデル事業有識者会議，有識者。

1999年2月～，（財）リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。

1999年10月～，（財）ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

本年度の学術論文の発表は英文・共著で1本行った。論文タイトルは『A revision of the Hawaiian and Wake Island species of the genus *Conchopus* Takagi (Diptera, Dolichopodidae)』であった。ハワイ諸島に生息する *Conchopus* 属5新種について記載した。

7th International Congress of Dipterology（第7回双翅学国際会議）において、『Molecular phylogeny of the tribe Aphrosylini (Diptera: Dolichopodidae)』と題して、口頭発表を行った。この国際会議への参加費と渡航費の一部は、財団法人日本科学協会の海外発表促進助成を受けて行われた。

文部科学省の科学研究費補助金（科研費）の研究「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」において研究代表者として、収集してきたアシナガバエ科の *Cymatopus* 属について解剖し、詳細に外部形態を比較した結果、2新種がいることが判明し、それらの記載を行い、ドイツの *Studia dipterologica* 誌に投稿した。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行った。

## 印刷物

### 【学術論文】

Masunaga, K. and Saigusa, T. (2010) A revision of the Hawaiian and Wake Island species of the genus *Conchopus* Takagi (Diptera, Dolichopodidae). *Zootaxa*, 2729 : 1-35.

### 【専門分野の著作】

Masunaga, K. (2010) Molecular phylogeny of the tribe Aphrosylini (Diptera : Dolichopodidae). *Seventh International Congress of Dipterology*, Abstracts Volume, 157.

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2*. Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.

### 【一般向けの著作】

榎永一宏 (2010) ホタルの学校. 琵琶博だより, 創刊号, 琵琶湖博物館 : 2.

榎永一宏 (2011) ミノムシが消えた. 毎日新聞, 毎日新聞社 : 2011年2月17日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

梶永一宏 (2010年7月16日) Aphrosylinae 亜科の分子系統 (双翅目: アシナガバエ科). 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

梶永一宏 (2010年8月12日) Molecular phylogeny of the tribe Aphrosylini (Diptera: Dolichopodidae). 7th International Congress of Dipterology, コスタリカ・サンホセ, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 副代表者 (2006~2010年度).

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」, (2010年度).

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

2010年8月5日, 企画調整課実習, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年3月27日, 川虫探検, 観察会, 藤ノ木川・大津市, 講師.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年5月22日・9月27日, 川の中の生きものしらべ, 水生昆虫観察会, ホタルの学校, 千丈川 (大津市), 講師, 2件.

2010年5月26日, 環境問題について, 名古屋市立神の倉中学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年5月27日, 川でみられる昆虫について, 武庫川女子大附属中学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年6月6日, ホタルのタベ, ホタル観察会, ホタルの学校, 千丈川 (大津市), 講師.

2010年7月23日, おおかみ川探検〜川の生き物観察, 水生昆虫観察会, 草津市市民環境部環境課, 狼川 (草津市), 講師.

2010年11月20日・12月18日, 守山市のホタルについて, 立命館守山中学校, 総合学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2011年2月27日, 展示案内, びわ湖レイクサイドマラソン参加者, びわ湖レイクサイドマラソン実行委員会, 琵琶湖博物館, 展示案内.

#### メディアへの協力

びわ湖放送、ZTV等受け入れ、出演、調整等, 20件.

雑誌掲載対応, 100件.

#### 視察対応

2010年11月26日, ホタルについて, 西尾市平原源氏蛍保存会, 琵琶湖博物館.

2011年3月13日, 展示案内, 台湾雲林科技大学, 琵琶湖博物館.

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース, 維持管理.

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），600件．

コスタリカ産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），1,200件．

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

2010年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」ライトトラップの展示更新と維持管理．

2010年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」顕微鏡で虫を観る展示更新と維持管理．

2010年度，研究最前線更新．

#### 【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示室川の生き物の概要，講師，2010年4月21日，琵琶湖博物館．

事業に関する資料提供，70件．

琵琶湖博物館カレンダー付き魚ポスター、鳥ポスター、魚チラシの作成．

県内施設へのチラシ、ポスター配布等の広報活動，6件．

琵琶湖博物館への案内看板作成・設置（道の駅草津、三大神社）．

イナズマロックフェスでの広報活動、2010年9月18・19日．

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2010年度，琵琶博だより，編集委員．

2010年度，広報経営戦略会議，メンバー．

#### 【海外渡航】

2010年8月6日～25日，コスタリカ，第7回国際双翅目会議参加・発表．

#### 【館外の活動】

2010年4月～2011年3月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員．

以下にしめす5つのプロジェクトを中心に研究を行っている。

1. 巨大精子の形態と化石記録を用いた琵琶湖地域のキプリス上科カミジンコ類進化の解明。  
カミジンコのサンプリングと収集、解剖と測定。岩のサンプルの処理と化石カミジンコの処理。
2. オーストラリア Riverleigh 地層からのカミジンコ。触角が保存されている化石カミジンコの分析。
3. 日本の地下水に生息するカミジンコ。サンプリングを行い、分類作業が進行中である。論文を準備中である。
4. おそらく外来種であるスペインのカミジンコについての新しい研究が、Francesc Mezquita (バレンシア大学) と共同で今年始まった。おそらくスペインに外来したと思われる日本からの種がこの研究の対象である。
5. “Lake Biwa” のための執筆。
6. 書籍 “Atlas of Crustacean larvae” のための執筆。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- ロビン ジェームス スミス (2010年7月1日) Holotomography in exceptionally preserved Cretaceous ostracods. Third International Palaeontological Congress, Natural History Museum (London) .
- ロビン ジェームス スミス (2010年7月16日) 滋賀県の地下水に生息するカミジンコ。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].
- ロビン ジェームス スミス (2010年7月20日) The ecology of exotic invading species: what facilitates spreading success? General overview and search for causes in exotic ostracod of the Iberian Peninsula. 第57回琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [企画・運営・司会].
- ロビン ジェームス スミス (2010年11月11日) Synchrotron Analyses of Micro-fauna-Exploring New Dimensions in (Palaeo-) Biology. 第58回琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [企画・運営・司会].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費補助金 (基盤 C) 「巨大精子の形態と化石記録を用いた琵琶湖地域のキプリス上科カミジンコ類進化の解明」 (研究代表者: ロビン ジェームス スミス), 分類学 (2010年度~2012年度) .
- 科学研究費補助金 (基盤 B) 「進化のゆりかご日本海—『緑海ポンプ効果』モデルの新たな展開」, 研究分担者 (2009年度~2013年度) .
- 琵琶湖博物館専門研究 「滋賀県の化石のカミジンコについての調査」, (2010年度) .
- 琵琶湖博物館総合研究 「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」 (研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 分類学 (2007年4月~) .

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Zootaxa, 査読, 1件.  
Species Diversity, 査読, 1件.  
Hydrobiologia, 査読, 1件.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年5月27日，講義，高校生，琵琶湖博物館。

2010年6月25日，講義，高校生，琵琶湖博物館。

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新，多数。

Lake Biwa : interactions between nature and people, 68個の原稿の英語のチェック。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2010年5月12日，ヘリコプターから琵琶湖の写真を撮影。

2010年5月23日～6月20日，河内の風穴の展示，展示団体の手伝い。

2010年7月17日～11月23日，湖底探検の展示のために、琵琶湖の深い所に住むカイミジンコについてパネルを作成。  
世界の湖の展示コーナー，清掃・管理。

### 【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース，カントリーレポートに出席，2010年4月15日，琵琶湖博物館。

琵琶湖博物館館内混雑の整理，鳩山総理大臣の琵琶湖博物館訪問，2010年4月3日，琵琶湖博物館。

琵琶湖博物館特別講演会，会場内でのマイクの手配等，琵琶湖博物館，2件。

### 【研究部関連事業】

2010年4月24日～2010年7月16日，琵琶湖博物館での Andreu Escrivá の滞在の手配と世話。

2010年7月1日～2010年8月15日，琵琶湖博物館での Francesc Mezquita の滞在の手配と世話。

2010年10月31日～2010年11月14日，琵琶湖博物館での Renate Matzke-Karasz の滞在の手配と世話。

ニゴロブナの水田育成放流事業は、平成15年に始まり、現在は毎年1,000万尾以上放流し、冬期のニゴロブナ資源の10%前後を占めており大きな効果をあげている。その効果調査については、これまでは水田放養から流下までと冬期の琵琶湖内での資源量調査に重点を置かれており、水田流下後から琵琶湖に至るまでのニゴロブナ稚魚の動態は不明であった。そこで、今年の専門研究では昨年度に引き続きニゴロブナ稚魚の水田から流下後の行動を明らかにすることを目的とした。

水路内でのニゴロブナ稚魚の分布量を把握することを目的に標識再捕調査を行った。草津市下笠において前年同様にALC標識した稚魚を水田から約20,000尾流下させた。流下の2日後に腹びれを切り標識を施した稚魚1,000尾を、水路上流部に放流した。その後、同地区の幹線および支線排水路で叉手網にて稚魚の再捕調査を行った。その結果、幹線排水路の上流と支線排水路内では水田から下った幼魚が昨年同様に相当数生息していることが分かったが、標識魚の再捕率が低く、分布量を推定するには至らなかった。得られた成果について水田育成の適地選定など、ニゴロブナの資源回復へと生かしていきたいと考えている。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

磯田能年(2010年6月18日)水田流下後のニゴロブナ稚魚の動態。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表]。

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「ニゴロブナ水田育成種苗の流下後の行動の追跡」，(2010年度)。

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者:前畑政善)，共同研究者(2008年度～2010年度)。

農林水産省平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稻栽培技術の開発研究」(研究代表者:藤岡康弘)，「水田及び周辺水域の生態系保全のための魚類増殖技術の開発」研究担当者(2009年度～2011年度)。

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

2010年7月17日，漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう，琵琶湖博物館見学会，長浜市，主担当，(桑原雅之と共同)。

2010年9月18日，アユの産卵用人工河川をみてみませんか，琵琶湖博物館見学会，高島市，主担当，(桑原雅之と共同)。

2010年10月24日，ビワマスの採卵現場を見学してみませんか，琵琶湖博物館見学会，高島市，副担当，(桑原雅之と共同)。

#### **他の博物館・機関等主催行事**

2010年8月4日，自然調査ゼミナール，滋賀県中学校理科部会，琵琶湖博物館（草津市），講師.

2010年8月18・19日，ワタカ放流イベント，滋賀県水産課，琵琶湖博物館（草津市），講師，2件.

2010年10月16日，琵琶湖の魚類について（外来魚含む），立命館守山高校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），講師.

2010年11月10日，琵琶湖博物館での体験学習（外来魚解剖），滋賀県立米原高校，琵琶湖博物館（草津市），講師.

2010年11月20日・12月18日，班での調べ学習への助言，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館（草津市），学習助言.

#### **【資料整備活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

水族資料維持管理，主担当.

#### **【展示活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

第18回企画展示「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界？～」，副担当.

モーニングレクチャー，講義，4回.

カメラはデジタルになって健康器具になった。これまでは、詳細な記録を行う道具として、また芸術的感性の発露のための道具として、その機能を果たしてきた。ところが、近年の博物館周囲の人びとの活動や新たに起こった写真療法などの利用方法を総合的に観察した結論として、もはやその役割を超えたものに進化したと考えられる。カメラ機能が搭載された携帯電話はコミュニケーションツールとしての役割やインターネットを介した通信機能などが付加され多様化し、単純な通信や記録の道具ではなく人びとのQOLを高める道具になっていると結論づけられる。あるいは、道具としてのカメラを取り扱う人間の方が変化しているのかも知れない。博物館で蓄積されていく写真は、物質的な写真からデータとしての生まれながらのデジタル画像にと変わろうとしている。琵琶湖博物館で收藏されている大量のコダック製プロフォトCDは、既に市販のコンピューターでは読み出し不可能となっている。また、資料複写の経験上、機構上の問題からかLPフィルターの問題からか、フィルムと比較して明らかに写し撮れない画材があるようである。それらの克服と併せてカメラと写真は、人との関わり合いの中で今後どのような進化を見せるであろうか。今年度は引き続き、大橋宇三郎氏の写真活用に加え、ギャラリー展に登場するふるさと絵屏風の現地撮影など、はしかけ温故写新のメンバーとフィールドカメラマンとして資料写真の蓄積を行った。

次年度から、新しくミュージアムリテラシーをテーマとした共同研究を立ち上げる事になった。先のミュージアムセラピーに関する研究は、海外ミュージアムトレンドニュースにて報告のあるように博物館を拠点として再生して行く利用者のQOLの向上に関わるテーマだった。次年度は、博物館から何を収穫するか、できるか、それを博物館がどう支援するか等に関する研究となる。

長年顧問を務めてきたぼてじゃこトラストが、このところ希少種イチモンジタナゴの繁殖に成功してついに自然復帰のための放流をどのように行うかという段階にまでこぎつけた。魚類や川にすむ生き物の分布調査を合わせ、あるいは自然体験をとおして、このように人によって引き起こされた自然環境の破壊とその犠牲者たちに目を向け保護する活動は、ともかく継続しなければ実を結ばない。しかし、現実問題として指導的な立場にある人間が欠落した時、活動自体が維持できなくなる。世代を超えて活動を維持する仕組み作りが今後のテーマとなっている。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

秋山廣光 (2010年8月20日) 写真はグリーンケア Griefcare として活用できるかー博物館における映像資料の収集と利用についての可能性ー。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館(草津市), [口頭発表].

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 15件.

2010年度, はしかけ「温故写新」, 主担当.

2010年8月3日, 収蔵庫見学, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年4月11日, ぼてじゃこビオトープ整備&雑魚捕り, ぼてじゃこトラスト, ぼてじゃこビオトープ(大津市), 講師.

2010年4月21日, 外来種と在来種について, 大阪教育大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年5月10日, 貴重イチモンジタナゴを琵琶湖に戻す夢につなげよう, ぼてじゃこトラスト, 上田上小学校, 逢坂小学校, 講師.

2010年5月16日, 魚&水辺の生き物たちのおもしろばなし, ぼてじゃこトラスト, ウォーターステーション琵琶, 講師.

2010年5月19日, 川の生きもの調査, 伊吹山文化資料館, 講師.

2010年6月6日, 川の生き物調査, ぼてじゃこトラスト, ウォーターステーション, 講師.

2010年6月9日, 琵琶湖の魚と外来生物, サークル「すばる」, 大阪梅田東生涯学習センター, 講師.

2010年6月17日, 川に生き物調査, ぼてじゃこトラスト, BIYOセンター, 講師.

2010年6月21日, 魚の話, 高島市立青柳小学校, 青柳小学校教室, 講師.

2010年6月27日, 針穴写真ワークショップ, 写真療法関西, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年6月29日, フォトセラピーワークショップ, JICA, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年7月6日, 琵琶湖のアユのはなし, 天川村立天川中学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年7月13日, 博物館の写真の保存と活用について, 日本写真学会西部支部, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年7月17・18日, 川の生き物調査, ぼてじゃこトラスト, ウォーターステーション琵琶, 講師, 2件.

2010年7月25日, 日光写真, 環境と科学のフェスティバル, ビバシティ彦根, 講師.

2010年7月26-28日, 外来魚の採集・解剖・調理, 県立石部高校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年8月4日, 外来魚調理, 自然調査ゼミナール, 滋賀県教育委員会理科教育部会, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年8月5日, 指導者のための博物館活用講座①・生きもの飼い方講座, 学校、園の教員、地域で指導に携わる方, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年8月7日, 「川」の日イベント、水路で魚捕り, ぼてじゃこトラスト, 田上羽栗周辺, 講師.

2010年8月16日, 魚つかみと魚の解説, 木川若草子ども会, 木川町山寺川, 講師.

2010年8月22日, 親子雑魚捕り体験教室, ぼてじゃこトラスト, 田上天神川, 講師.

2010年9月12日, 秋の虫探し&魚&水生昆虫勉強会, ぼてじゃこトラスト, みなくち子どもの森自然館, 講師.

2010年10月3日, ぼてじゃこビオトープでメダカ捕り, ぼてじゃこトラスト, ぼてじゃこビオトープ池, 講師.

2010年10月24日, 琵琶湖の魚と外来生物, 常盤小学校, 講師.

2010年10月24日, 田上溜池調査, ぼてじゃこトラスト, 田上堂町, 講師.

2010年11月17日, 琵琶湖の自然について, 湖南省菩提寺老人クラブ, 湖南省菩提寺まちづくりセンター, 講師.

2010年11月20日・12月18日, 琵琶湖の魚と外来生物, 立命館守山高校, ミュージアムスクール, 講師, 2件.

2010年11月28日, 田上堂町溜池調査, ぼてじゃこトラスト, 大津市堂公民館周辺, 講師.

2011年1月22日, 水生昆虫の勉強会&大戸川意見交換会, ぼてじゃこトラスト, ウォーターステーション琵琶, 講師.

### 視察対応

2010年6月20日, 水族展示案内, 滋賀県平和記念館開設準備室.

2010年12月14日, 映像収蔵庫、液侵収蔵庫、バックヤード案内, 滋賀県平和記念館開設準備室.

2010年12月16日, 液侵収蔵庫とバックヤード案内, 広島さとうみ科学館.

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

水族飼育管理 (魚病担当).

映像資料貸出, 59件, 757点 (前野コレクション、大橋コレクション、災害写真、魚類、その他の生物他).

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2010年12月5日-2010年12月12日, ギャラリー展示「びわ湖大縁日」, 副担当.

2010年12月19日-2011年1月6日, ギャラリー展示「近江のふるさと絵屏風と未来予想絵図」, 主担当.

**【企画調整活動】**

新人職員等研修，投網講習，講師，2010年5月25日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学集中コース，古写真を用いた回想療法，講師，2010年7月1日，琵琶湖博物館。

**館内の人事・館外活動等に関すること**

**【館内の人事】**

2010年度，琵琶湖博物館広報誌編集員。

**【館外の活動】**

1990年～2010年，nets 滋賀の水生物調査グループ，会員。

1994年～2010年，ぼてじゃこトラスト顧問。

2005年～2010年，お魚ネットワークおおつ，会員。

自分自身の研究として展開していく博物館学の方向性として、「機関連携」というキーワードを拠り所とし、その具体的な連携対象を当面は「地域内の博物館施設」「学校」の二者とする方針を2年前に設定した。これに基づいて具体的な活動を進めているが、関連する博物館事業について当面する課題への対処に、なおエネルギーの投入が必要な状態である。

まず、「地域内の博物館施設」を対象とする具体的な活動である滋賀県博物館協議会については、昨今の財政事情による危機的な状況に立ち向かうための第1歩として、協議会自身の組織改革に向けた議論を進め、その成果を形にして運用を始めるところまで実現することができた。そして次の段階として、この体制を前提として、博物館が当面する個々の課題を検討して協議会としての意思表示に結びつける活動と、創立30周年を契機とした連携活動の発展を模索しているところであるが、形のある成果にはまだ至っていない。

一方の学校連携について、昨年度は展示室内の回転実験室が運営困難になった状況を利用した展開を進めていたが、これは運転再開と共に休止状態になっている。それとは別に、3年前から教員身分の学芸職員の活動に協力する形で「学校との間を結ぶ立場の博物館職員」に着目した活動を進めてきているが、基礎となる実情調査が中途半端なまま具体的な連携実践に走ってしまっている。そこで、教員への協力ではない自分自身のテーマとして、改めて基礎調査を学術的な分析に耐えるレベルで実施するべく準備を進めている。

個人レベルではない全体の問題としては、琵琶湖博物館の博物館学研究全体の方向性に責任を負う立場となり、当面の館内共同研究のプロジェクトを方向付けるのに1年間を丸々要した。このプロジェクトを長期的展望を持つ形に発展させて行くことが今後の課題となっている。

なお、萌芽段階であるが、「機関連携」の枠を外れた個人利用者との連携の事例として、「はしかけ」の活動に絡んだ「幾何学と微生物学」という異分野連携に関与した。この方向性が今後の発展に結びつくかどうかは、なお検討を要するところである。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

- 戸田 孝 (2010) 地物教室の電子ネットワーク化. 集録：京大地球物理学研究の百年(II), 京大地球物理の歴史を記録する会：117-119.
- 有田重彦・大塚泰介・戸田 孝 (2010) 珪藻の殻に現れたベルヌーイ螺旋. 数学セミナー, 49(12), 日本評論社：54-57.
- 戸田 孝 (2011) 調べよう！世界の住まいと家族. 博学連携ワークショップ「学校と博物館が学びあえる場の構築をめざして」事業報告書, 国立民族学博物館文化資源研究センター：16-17.
- 戸田 孝・中村公一 (2011) ミュージアム・ティーチャーに関する調査報告. 博学連携ワークショップ「学校と博物館が学びあえる場の構築をめざして」事業報告書, 国立民族学博物館文化資源研究センター：48-49.

### 【一般向けの著作】

- 戸田 孝 (2010) 特集「美術館が面白い」琵琶湖博物館一人々との「はしかけ」はかる「ズルい博物館」一. 湖国と文化, 132, 滋賀県文化振興事業団：21.
- 戸田 孝 (2010) 湖岸より 58 常識や文化の違いが連携の壁に. 中日新聞, 中日新聞社：2010年5月15日.
- 戸田 孝 (2010) 湖岸より 66 七夕に思う新暦と旧暦. 中日新聞, 中日新聞社：2010年7月10日.
- 戸田 孝 (2010) 湖岸より 76 遺跡の疑問 古地図で氷解. 中日新聞, 中日新聞社：2010年9月18日.
- 戸田 孝 (2010) 湖岸より 85 数式にもある「美しさ」. 中日新聞, 中日新聞社：2010年11月20日.

戸田 孝 (2011) 湖岸より 94 節分と旧暦元日ことしは一致. *中日新聞*, 中日新聞社: 2011年1月29日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

戸田 孝 (2010年9月11日) 学博連携における博物館教員の役割. 日本科学教育学会第34回年会, 日本科学教育学会, 広島大学 (東広島市), [口頭発表].

戸田 孝 (2011年2月15日) 公益法人制度改革への対応方法の整理—各館の状況ごとに—. 滋賀県博物館協議会 平成22年度第2回研修会情報交換会「公益法人制度改革と博物館」, 滋賀県博物館協議会, 長浜曳山博物館 (長浜市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」, (2010年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本科学教育学会, 編集委員, 2010~2011年度.

陸水物理研究会, 運営委員.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2010年8月10日, 回転実験室で水槽実験を!, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.

#### 視察対応

2011年3月8日, 科学リテラシーの涵養に資する科学系博物館の展示活動に関する実践的研究, 国立科学博物館, 琵琶湖博物館.

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

インターネットを介した情報発信, 主担当.

情報システム整備および運営, 副担当.

質問メールの受付・振り分け・回答進捗状況管理, 副担当.

全館員向けメールメッセージの館内公開.

個人管理ページの運営.

#### 他博物館・機関の活動

滋賀県博物館協議会, 協議会ページの運営 (各加盟館紹介ページの更新など).

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2010年度, 気象に関する展示の維持管理, 主担当.

2010年度, 水理に関する展示の維持管理, 主担当.

**【企画調整活動】**

広報，副担当.

JICA 博物館集中コース，Information Use and Equipment for Information Use -Learning from History-，講義，2010 年 6 月 15 日，琵琶湖博物館.

**館内の人事・館外活動等に関すること**

**【館内の人事】**

2010 年度，広報経営戦略会議，メンバー.

2010 年度，滋賀県博物館協議会，事務局，主担当.

総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」では中国宁波大学の Xiangrui Chen 氏を琵琶湖に招聘し、共同で琵琶湖の原生動物絨毛虫類の調査を行った。また、以前琵琶湖から新属新種の絨毛虫として記載した *Apocarchesium rosettum* の群体形成の追試実験も行った。分担者として参加している科研費プロジェクト「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」では琵琶湖調査の受け入れ代表として調査の事前準備や調査のコーディネートをを行った。また、南北大東島調査にも参加し、予備調査で未記載種と思われた *Zoothamnium* 属の絨毛虫を再度採集し、2009年北海道の濤沸湖から採集した *Zoothamnium* 属の未記載種と合わせて記載準備中である。専門研究では中国、アメリカの研究者と共同でツリガネムシ類の系統関係の解析を行い、論文を発表した。その結果、琵琶湖から記載した *A. rosettum* と中国：広州およびアメリカ：ノース・カロライナ州から採集された *A. rosettum* の遺伝子が一致した。また、*Apocarchesium* 属はツリガネムシ科の中ではベーサル・クレード（基礎的な単系統群）であることが明らかになった。

博物館の事業としては企画調整課でJICA 博物館学集中コースの担当として、6 カ国10 人の研修員を受け入れ、琵琶湖博物館で行ったさまざまなプログラムの立案やコーディネートをを行った。そのほかに電子メールによる質問や来館者調査の担当をした。

## 印刷物

### 【学術論文】

Sun, P., John, Clamp J. C., Xu, D., Kusuoka, Y., Hori M. (2010) Molecular phylogeny of the family Vorticellidae (Ciliophora, Peritrichia) using combined datasets with a special emphasis on the three morphologically similar genera *Carchesium*, *Epicarchesium* and *Apocarchesium*. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology*, Published on the internet May 21, 2010 as doi : 10.1099/ijs.0.020255-0.

### 【専門分野の著作】

Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K., Gamo, J. (2011) Biodiversity of Lake Biwa : new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. ed., *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area: in 2 Volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2.* Nauka, Novosibirsk : 1439-1513, color plates 1-27.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

楠岡 泰 (2010年5月8日) 博物館と教員で行った「ミクロな生き物探検」. 第1回西日本原生生物コロキウム, 神戸大学, [口頭発表].

Shimano, S., Sato, T., Kuriki, G. and Kusuoka, Y. (2010年8月26日) Occurrence of *Hydrozetes parisiensis* (Oribatida: Hydrozetidae) on water glasses in Lake Biwa, morphology and gene sequence. 13th International Congress of Acarology, Recife Palace Hotel, Recife, Pernambuco (Brazil), [口頭発表].

島野智之・佐藤拓也・栗城源一・楠岡 泰 (2010年9月12日) 古代湖琵琶湖の水草から得られたササダニについて. 第19回日本ダニ学会仙台大会, 宮城教育大学 (仙台市), [口頭発表].

Wall, A. A. J., Kusuoka, Y., Gilbert, D., Grygier, M. J., Nakano, S. (2010年11月27日) Les communautés d'amibes à thèque benthiques du Lac Biwa (Shiga, Japon). JFR '10 Journée Francophone de la Recherche : フランス語による科学シンポジウム, 日仏会館 (東京), [ポスター発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的多様性の探査:分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者:マーク ジョセフ グライガー), 副代表者 (2006~2010 年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者:前畑政善), 共同研究者 (2007~2010 年度).

地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者:夏原由博), 研究協力者 (2009 年度~2011 年度).

科学研究費補助金(基盤 B)「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」(研究代表者:重中義信), 研究分担者 (2009年度~2011 年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

水処理生物学会, 第30回水処理生物基礎講座「繊毛虫類同定の基礎:採集、銀染色および顕微鏡観察」, 講師, 2010年8月25・26日.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年9月10日, JICA 水環境を主題とする環境教育コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

2010年12月11日, 京都府立大学, 環境微生物学集中講義「繊毛虫の分類および生態」.

2011年1月28日, JICA 湖沼環境保全のための統合的流域管理コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

2011年2月16日, JICA 水辺を中心とする自然体験を通じた環境教育コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.

はしかけ「田んぼの生き物調査グループ」, 主担当.

はしかけ「里山の会」, 副担当.

2010年度, 里山体験教室, 体験教室, 野洲市大篠原, 講師, (寺尾尚純・裕 登志之・はしかけ里山の会共同).

2010年6月19日, 自然豊かな田んぼで生き物観察, 観察会, 高島市朽木生杉, 講師, (寺尾尚純共同・朽木いきものふれあいの里共催).

2010年9月11日, 琵琶湖博物館わくわく探検隊:プランクトンの模型を作ろう, 体験学習, 講師, (飯住達也・大依久人・びわたん共同).

2010年11月13日, 秋の里山を歩こう, 観察会, 高島市マキノ町, 講師, (寺尾尚純・裕 登志之・はしかけ里山の会共同・カワセミ自然の会共催).

2010年11月18日, 簡易プランクトンネットの作製, 先生・指導員向け講座, 琵琶湖博物館, 講師, (飯住達也・大依久人共同).

#### **他の博物館・機関等主催行事**

2010年7月24日, 田んぼと琵琶湖のプランクトンの比較, 日野川流域探検隊(日野川流域土地改良区), 琵琶湖博物館, 講師.

2010年7月27日, プランクトンの観察, 米原市教員研修, 米原市立坂田小学校, 講師.

2010年8月3日, プランクトンの観察, 滋賀県小学校理科研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年8月4日, プランクトンおよび付着生物の観察, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年8月10日, 水の中の小さな生き物, 県環境教育協議会教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年8月19日, プランクトンの観察, ホタルの学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年8月31日, 観察会指導者講習会, 高山キャンプ場(長浜市高山), 講師.

2010年11月10日, プランクトンの観察, 米原高校, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年11月14日, 美しいプランクトンの世界〜プランクトンの模型をつくろう!〜, キッズプラザ大阪, キッズプラザ大阪, 講師.

#### **視察対応**

2010年4月22日, 展示案内および事業説明, 韓国 Korea Rural Community & Cooperation, 琵琶湖博物館.

2010年7月1日, 展示案内・プランクトン実習, 日本国際協力センター(ベトナム高校生訪日団), 琵琶湖博物館.

2010年10月28日, 展示案内, タイ王国・スラナリー工科大学附属ラジュシマ・ウィッタヤライ高校研修旅行, 琵琶湖博物館.

2010年11月16日, 展示案内, 京都インターナショナルスクール環境学習, 琵琶湖博物館.

#### **【資料整備活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

微小生物静止画, 撮影および指導, 約1,000件.

微小生物動画, 撮影および指導, 約20件.

微小生物プレパラート, 作製および指導, 約50件.

#### **【展示活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

2010年, 常設展示: プランクトンコーナー, 維持管理、展示更新(4回).

2010年, 常設展示: ミクロの世界, 維持管理.

2010年, 常設展示: どぶ川の生き物たち, 維持管理.

#### **【企画調整活動】**

博物館実習, 副担当, 2010年.

電子メールによる質問, 主担当, 2010年.

来館者調査, 主担当, 2010年.

国際交流, 副担当, 2010年.

JICA 博物館学集中コース, 主担当, 2010年.

JICA 博物館学集中コース, 北海道博物館見学, 引率, 2010年6月1日〜3日, 北海道開拓記念館など, (国立民族学博物館共同).

JICA 博物館学集中コース, Introduction and process of building the Lake Biwa Museum, 講義, 2010年6月9日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース, 展示見学, 解説, 2010年6月9日, 琵琶湖博物館, (中井克樹共同).

- JICA 博物館学集中コース，はしかけおよびフィールドレポーターとの懇談，コーディネートおよび司会，2010年6月11日，琵琶湖博物館，（フィールドレポーター・はしかけびわたん共同）。
- JICA 博物館学集中コース，体験学習プログラム見学および体験，コーディネート，2010年6月12日，琵琶湖博物館，（飯住達也・はしかけびわたん共同）。
- JICA 博物館学集中コース，地域の子供たちと環境調査，観察会講師，2010年6月13日，伯母川（草津市），（エコクラブ伯母Q五郎共同）。
- JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館の展示を評価する，実習指導，2010年6月15日，琵琶湖博物館，（黒岩啓子・布谷知夫・中井克樹共同）。
- JICA 博物館学集中コース個別研修，ディスカバリールーム・インターナショナルコーナー案の作成，コーディネート，2010年6月28日，琵琶湖博物館，（芦谷美奈子共同）。
- JICA 博物館学集中コース個別研修，プランクトンの模型作り，実習指導，2010年6月28日，琵琶湖博物館，（中井克樹共同）。
- JICA 博物館学集中コース個別研修，幼稚園児と共に漁港見学および昔のくらし体験，引率，2010年6月28日，野洲市および琵琶湖博物館，（中藤容子共同）。
- JICA 博物館学集中コース個別研修，古写真を用いた回想療法，コーディネート，2010年7月1日，琵琶湖博物館，（秋山廣光共同）。
- JICA 博物館学集中コース個別研修，ディスカバリールーム・インターナショナルコーナー案発表，司会，2010年7月1日，琵琶湖博物館，（芦谷美奈子共同）。
- JICA 博物館学集中コース個別研修，ベトナムの高校生に対するプランクトン実習見学，講師，2010年7月1日，琵琶湖博物館。
- JICA 博物館学集中コース個別研修，Miho ミュージアムおよび陶芸の森見学，引率，2010年7月2日，Miho ミュージアムおよび陶芸の森，（中井克樹共同）。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2004年4月～2011年3月，JICA 博物館学集中コース運営委員会，運営委員。

### 【館外の活動】

2010年4月～2011年3月，京都府立大学，非常勤講師。

色々な意味で回復途上であるが、少しずつ仕事の量を戻しつつある。以前のように幅広く活動できるように努力したい。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

芦谷美奈子（2010）学校との連携は、まだまだこれから。社会教育，全日本社会教育連合会，770：40-41.

芦谷美奈子（2011）そのうち、「ちょっと博物館に行つて来る」が日常会話に。社会教育，全日本社会教育連合会，775：43-44.

## 研究活動に関する業績

### 【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤 C）「学校標本の保存・整備を通じた博学連携促進に関する基礎的研究」（研究代表者：岩崎誠司），研究分担者（2009～2012 年度）.

琵琶湖博物館専門研究「イバラモの雌雄比および雌雄分布とシュート成長に関する研究」，（2010 年度）.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010 年 12 月 4 日，琵琶湖博物館のフィールド・レポーターと“はしかけ”，平成 22 年度三重県・三重大学連携 新博物館シンポジウム「博物館・大学・県民がつくる学びの輪」，三重県・国立大学法人三重大学，アストホール（三重県津市），講演・意見交換.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

2000 年 4 月～，木浜地区保全整備地域協議会，守山湖岸再生部会，委員.

2000 年 4 月～，木浜地区保全整備地域協議会，木浜内湖再生部会，委員.

2002 年 8 月～，守山なごさ地区保全地域協議会，委員.

2003 年 1 月～，滋賀県ヨシ群落保全審議会，委員.

2009 年 11 月～2010 年 10 月，平成 21 年度新技術振興渡辺記念会委託調査・研究事業「科学系博物館の学校利用促進方策－教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発－」，研究委員.

『昔の暮らし』をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義』を研究テーマに掲げ、資料活用学の担当学芸員となって3年になる。事業部は交流担当の地域連携の担当となって2年の間に、研究・教育・福祉分野に加え、産業・マスコミ・まちづくり分野とも連携を広げ、平成22年度には「しが衣食住博 in 琵琶博」として、県内の衣食住に関する多様な地域活動を紹介・交流を深める連続イベントを行うこととなった。そんな中、事業部が資料活用担当の資料整理委託業務担当に変わり、この一年はさまざまな分野の博物館資料、資料整理職員とも関わることとなった。

「しが衣食住博 in 琵琶博」は館外の熱意ある方々の意欲から生み出された企画だった。「びわこ大縁日」「近江のふるさと絵屏風と未来予想絵図」「温故知新・近江の糸と織り」「食事（くいじ）博」…。博物館としての予算や協力体制が充分でない中、びわこ大縁日の会、ふるさと絵屏風を作成された集落の方々、近江・糸と織りネットワーク、そして滋賀の食事文化研究会をはじめ、みなさんが手弁当で協力くださったおかげで開催できたことを深く感謝している。おかげさまで、新しい博物館活動の開拓実践として大きな成果をあげることができた。一方、館内外の諸担当者への連絡説明が充分でなく、周りに誤解や心配をかけてしまったことは申し訳なかった。今後、時間をかけて、この実践を整理し、自己評価を加えた報告書を作成していきたい。

この「しが衣食住博」のオープニングは、10月31日、近江スローライフの会発足イベントと兼ねて、琵琶湖博物館で映画「降りてゆく生き方」上映会を行う予定だったが、諸事情で別会場で行うことになった。そのときに特に支えてくれたのが、ともに会を立ち上げた永野麻也子さんと、緊急雇用で11月から3月までお手伝いくださった大石和彦さんをはじめとする方々だった。このイベントで、全国の数多くの熱意ある方々とのつながりができた。また、7月から始めたTwitterが情報収集やネットワーク作りに大いに力となった。

こうした活動がマスコミでも多数とりあげられた。特に読売新聞しが県民情報に近江スローライフの会が紹介されたことと毎日新聞の「湖国の人たち」シリーズで取り上げていただいたことは、印象深い出来事となった。

また、2008年3月に愛知大学で行われた「里海を考える」研究者集会をきっかけとして分担執筆した『里海の自然と生活』がこのたび完成した。この本の「はじめに」の冒頭で、編著者の印南敏秀さんに「地域で学際的・総合的な調査研究を積み重ね、地域民が一緒になって実践活動を辛抱強く継続していく。こうした研究活動で知られるのが琵琶湖博物館」とご紹介いただいたことは大変誇らしいことだった。

私が現在暮らしている家では、汲み取り便所に五右衛門風呂を使っている。まさに自ら実践しながら、こうした暮らしのよさを生活体験の中で見つけて、近江昔暮らし倶楽部の方々との実践に活かしていきたい。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

中藤容子（2010）展示批評 長浜市長浜城歴史博物館 平成21年度特別展「糸の世紀・織りの時代～湖北・長浜をめぐる糸の文化史～」．*民具研究*，142，日本民具学会：85-88.

中藤容子（2011）琵琶湖の水草利用と生活世界—多様な既存資料と琵琶湖博物館の紹介から—．印南敏秀 編，*里海の自然と生活 海・湖資源の過去・現在・未来*，みずのわ出版：245-274.

### 【一般向けの著作】

中藤容子（2011）シリーズ 地域だれでも・どこでも博物館 滋賀の食事文化研究会，*琵琶博だより*，3，琵琶湖博物館：2.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中藤容子（2010年8月20日）「昔くらし体験」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義（1）. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究『昔のくらし』をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義, (2008年度～).

JST 研究プロジェクト「滋賀をモデルとする自然共生社会の将来像とその実現手法」(研究代表者:内藤正明), 自然共生社会研究作業委員会委員 (2009年度～).

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年4月23・30日, 龍谷大学国際文化学部, 「民俗学入門」.

2010年5月8日, 滋賀県立大学人間文化学部, 「環琵琶湖文化論実習」.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2010年度, はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」, 主担当.

2010年度, はしかけグループ「近江はたおり探検隊」, 副担当.

2010年4月17日～2011年3月13日, 工房の田んぼ行事, 琵琶湖博物館, 協力, 5回.

2010年12月4日～12月11日, びわこ大縁日, びわこ大縁日実行委員会, 琵琶湖博物館, 実行委員会メンバー (こたつブース, 同じ釜の飯を食う会担当).

2011年1月3日, 「ふるさとを愛している」ってどんなこと?—四大ふるさと絵屏風絵とき合戦&知事とこたつでギャラリートーク, ギャラリー展示「近江のふるさと絵屏風と未来予想絵図」関連イベント, 企画・運営 滋賀県立大学 上田洋平氏, 琵琶湖博物館, 協力.

2011年1月29日, 収集家とともに古着の心を紐解くワークショップ (古着収集家 出雲一郎氏), はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」, ギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り」関連イベント, 琵琶湖博物館, 企画・運営.

2011年1月30日, 近江上布の機織り実演 (伝統工芸士 野々村芙美子氏), 近江上布伝統産業会館, ギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り」関連イベント, 琵琶湖博物館, 協力.

2011年1月29日・2月11日, 地機の機ごしらえと織り, 糸紡ぎ実演, 近江はたおり探検隊, ギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り」関連イベント, 琵琶湖博物館, 協力.

2011年2月6日, 綿繰り体験, 高島綿'sクラブ, ギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り」関連イベント, 琵琶湖博物館, 協力.

2011年2月16日, 地域産業の魅力とものづくり 講演会・交流会 (講師:若林剛之氏 (SOU・SOU 社長)), 県東北部工業技術センター・琵琶湖博物館, ギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り」関連イベント, 琵琶湖博物館, 協力.

2011年3月5・6日, 滋賀の食事文化研究会 20周年記念イベント・シンポジウム, 琵琶湖博物館, ギャラリー展示「食事 (くいじ) 博」関連イベント, 協力.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年5月1日, 9月25日, 11月23日, ぼくのわたしの稲づくり, ラ・フォル・ジュルネびわ湖2010, びわ湖ホ

ール、びわ湖ホール（大津市）、協力、3回。

2010年6月3日、昔ながらの食体験、ベテルホーム保育園（守山市）、琵琶湖博物館（生活実験工房）、講師。

2010年6月30日、琵琶湖にまつわる食体験保育、若鮎保育園（守山市）、望月水産（野洲市）・琵琶湖博物館（生活実験工房）、講師。（JICA 研修と合同）。

2010年6月26日・8月2・3日、昔くらし生活体験活動、子どもネットワークセンター天気村（草津市）、古民家 Zutto（大津市）、講師、3回。

2010年10月31日・11月1日、近江スローライフの会発足イベント・映画「降りてゆく生き方」上映会&交流会、近江スローライフの会、大津市民会館・のぞみ荘（大津市）、協力、2回。

2010年11月12日、昔のくらし体験、草津養護学校中学部、琵琶湖博物館（生活実験工房）、実習（近江昔くらし倶楽部協力）。

2010年12月7日、湖北の昔の暮らしの知恵を活かそう！、JA北びわこ農協女性部、琵琶湖博物館、講義。

### 視察対応

2010年11月27日、奈良県天理市校園長会、琵琶湖博物館。

### メディアへの協力

2010年10月26日、読売新聞しが県民情報、「滋賀のええもん」再発見 近江スローライフの会 生産者、消費者ら タグ、(2010年9月30日取材対応)。

2010年12月6日、毎日新聞、身近な環境に関心を 琵琶湖博物館で「大縁日」、(2010年12月5日取材対応)。

2010年12月18日、毎日新聞、湖国の人たち オピニオン'10 手仕事の復興今こそ 人とのつながり大切に 琵琶湖博物館主任学芸員 中藤容子さん、(2010年11月取材対応)。

2010年12月20日、読売新聞、記憶の中の湖国絵屏風に 琵琶湖博物館 高齢者に聞き書き6点、(2010年12月19日取材対応)。

2011年1月4日、ケーブルテレビZTV、地域のイベント情報、(2010年12月19日取材対応)。

2011年1月4日、中日新聞、ふるさとの昔と未来描く 草津 絵屏風やパネルで紹介、(2010年12月19日取材対応)。

2011年1月28日、京都新聞、ちりめんや上布近江の織物紹介 琵琶湖博物館、(2011年1月26日取材対応)。

2011年2月2日、中日新聞、地域伝統の布作り紹介 草津 「近江の糸と織り」展、(2011年1月26日取材対応)。

2011年3月5日、京都新聞、伝統の食材や料理パネルで紹介 琵琶湖博物館で「食事博」、(2011年3月4日取材対応)。

2011年3月5日、中日新聞、なれずしや日野菜を紹介 琵琶湖博物館 地元の食の展示会、(2011年3月4日取材対応)。

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

近江昔くらし倶楽部 ブログ (2009年6月～)、管理人。

びわこ大縁日の会 ブログ (2010年11月～)、管理人。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

環境収蔵庫維持管理業務・環境資料整備、主担当。

民俗収蔵庫維持管理業務・民俗資料整備、副担当。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4回。

常設展示B展示室「湖に生きる人々」コーナー展示、主担当。

生活実験工房（屋外展示）展示、主担当。

屋外展示生活実験工房の「おりばたけ」、滋賀の伝統作物の栽培、はしかけ「近江はたおり探検隊」「近江昔くらし倶楽部」活動。

2010年12月4日～12月11日、琵琶湖博物館はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」、びわこ大縁日、びわこ大縁日実行委員会、しが衣食住博 in 琵琶博、琵琶湖博物館（企画展示室）、出展。

2010年12月19日～2011年1月6日、ギャラリー展示「近江のふるさと絵屏風と未来予想絵図」、琵琶湖博物館主催・びわこ大縁日の会・はしかけグループ「温故写新」協力、しが衣食住博 in 琵琶博、琵琶湖博物館（企画展示室）、副担当。

2011年1月23日～2月16日、ギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り」、琵琶湖博物館・近江・糸と織りネットワーク主催、しが衣食住博 in 琵琶博、琵琶湖博物館（企画展示室）、主担当。

2011年3月1日～4月7日、ギャラリー展示・滋賀の食事文化研究会20周年記念「食事（くいじ）博—未来につなごう近江の食とくらし—」、滋賀の食事文化研究会・琵琶湖博物館主催、しが衣食住博 in 琵琶博、琵琶湖博物館（企画展示室）、副担当。

#### 【企画調整活動】

新任職員等研修、B展示室・生活実験工房、展示説明、2010年4月15・20日、琵琶湖博物館、2件。  
JICA博物館学集中コース、資料整理と利用、講師、2010年6月11日、琵琶湖博物館。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2010年度、ショップ会議担当。

現在は、来館する学校団体に対して、19種類のサポートシートをカラーで印刷して渡しているが、博物館の予算が縮小される中、将来的な新しい体制を考える必要があったことや、学習指導要領が新しくなったことで、それに合わせたシートが必要となり、新しい学習シートを開発し、改善していった。

学習シートの考え方は、1) 学校用に、修学旅行・バス遠足用としていくつかの展示室を回っていく発見シートと、教科・総合学習として学習を深める学習シートを作る。2) 子どもに、「やった。できた。」という満足感があり、1枚のシートで時間いっぱい学習できる（最後は少し時間が余るくらいがベスト）。3) できれば学習指導要領の学年の内容に沿ったもの（何年生ならこれ）。4) 今は1つの展示に1シート。大きな学校で1シートにすると混雑するので、いくつかに分けることが多く、事後学習がしにくい（全員が体験していないから）。そこで1つのシートにいくつかの展示をのせ、回る順を工夫することで混雑を避ける。5) 事後学習がしやすいように、解答・解説を付ける。6) 地図を付け、展示がどこにあるか、およそ分かるようにする、である。

また、挑戦シート（ナマズ博士の挑戦状）を企画した。この考え方は、1) 子どもを含む一般来館者が、「博物館って楽しい。また来たい。」と思えるようなシート。2) 博物館の展示をしっかりと見ることにつながるもの。3) 新しい発見があるようなもの。4) クロスワードの問題を解いていくと、解答者に満足感を持たせる言葉、「よくできました。」「やったね、おめでとう。」などが浮かび上がるもの。5) A～C、水族の展示室で各2問ずつ問題を作成し、全館を回るものや、各展示室だけでできるものを作成する。6) 大依が作成した雛型を参考に、「びわたん」のメンバーや博物館職員から募集し、みんなで盛り上げるムードを作り上げていく、というもので作成した。

そのほかに作成したシートは、今と昔のくらし学習シート、むかしの道具と生活学習シート、琵琶湖の水・川の水学習シート、大地のつくり学習シート、琵琶湖のおいたちをさぐる学習シート、小学3年生発見シート、小学4年生発見シート、小学5年生発見シート、小学6年生発見シート、ナマズ博士の挑戦状全館コース1問、ナマズ博士の挑戦状全館コース2問である。

これについてのアンケート調査を行った。その結果、発見シートは、解説書が事後学習に役立つ、発見がある、理科社会科の内容に合っていてよいという感想があるものの、難しい、穴埋めがよい、時間がない、いろいろ持たせすぎという意見があった。ナマズ博士の挑戦状については、興味を持って取り組める、難しいけど面白いという反面、大山田湖・出水管などの答えを見つけるのが難しいという意見があった。

これらの改善点として、発見シートについては、もう少し設問数を絞って、じっくり考える時間を生み出すこと。学習シートについては、イラストにできるところは替える、小学校低学年用（水族展示）や中学生用のシートの開発を行う。ナマズ博士の挑戦状については、それぞれの展示室に絞ったシートを作成することを検討した。

それぞれのシートは完成型ではなく、絶えず修正が必要という考え方でいる。しおりを1部提出してもらって、学校がどのようにシートを使っているかを把握し、いくつかの学校にアンケート調査をし、修正の方向を探っていく。ナマズ博士の挑戦状は、学校での一括運用以外に、繁忙期以外の土日祝日で一般来館者向けに輪転機で刷ったものをアトリウムに並べる。それぞれの展示室に絞ったナマズ博士の挑戦状を学芸員と一緒に創ることを通して、博物館全体で作り上げるムードを高めていく。来館者がどんどん減っている中で、集客の起爆剤となるような、新しい博物館を創っていくという強い意志が大切だと思う。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

大依久人・飯住達也（2010）うみっこ通信。琵琶湖博物館子ども向け情報誌，5：4。

大依久人・飯住達也（2010）琵琶博だより。琵琶湖博物館，2：2。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

大依久人（2011年3月18日）琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携をめざして～新しい学習シートの開発～．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表]．

### 【大学の講義・実習，学生の指導など】

2010年4月～2011年3月，滋賀の教師塾塾生，ヨシ笛作り実習・交流事業研修受け入れ．

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

2010年度，はしかけ「びわたん」，担当．

2010年4月～2011年3月，「春の草花でしおりをつくろう」等10講座，「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業，琵琶湖博物館，企画運営，19件，（はしかけグループ「びわたん」と共催）．

2010年4月～2011年3月，学校サテライト博物館展示更新・移設など，学校サテライト博物館，高島市立青柳小学校・甲賀市立佐山小学校・長浜市立永原小学校，運営．

2010年7月～2010年10月，「湖底探検」等1講座，企画展関連イベント，琵琶湖博物館，企画運営，1件，（はしかけグループ「びわたん」と共催）．

2010年8月～11月，指導者のための博物館活用講座，教員・地域活動指導者向け博物館講座，琵琶湖博物館，コーディネーター，3件．

2010年11月7日，はしかけ登録講座，はしかけ事業，琵琶湖博物館，はしかけグループ「びわたん」活動紹介，コーディネーター・講師．

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年4月～2011年3月，学校団体向け体験学習，県内県外小中高等特別支援学校，団体向け体験学習，琵琶湖博物館（草津市），講師，56件．

2010年4月～2011年3月，一般団体向け体験学習，各団体，団体向け体験学習，琵琶湖博物館（草津市），講師，6件．

2010年5月15日，天野川探検隊，伊吹山文化資料館，伊吹山文化資料館（米原市），講師．

2010年5月24日，ホテル学習，米原市立山東東小学校（米原市），講師．

2010年6月3日，琵琶湖博物館を利用した授業研究，滋賀県中学校教育研究会理科部会，琵琶湖博物館（草津市），講師．

2010年6月10・15日，琵琶湖博物館での体験学習（講義、実習），滋賀県総合教育センター，初任者研修，琵琶湖博物館（草津市），講師，4件．

2010年6月17日，博物館と連携した環境教育，滋賀県中学校理科部会，環境教育研究委員会，琵琶湖博物館（草津市），アドバイザー．

2010年6月～2011年2月，琵琶湖学習，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター・講師，7件．

2010年6月～2011年2月，琵琶湖学習，立命館守山高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター，10件．

2010年7月21～28日，琵琶湖探究，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター・講師，5件．

2010年7月25日，ヨシ笛作り，環境と科学のフェスティバル実行委員会，環境と科学のフェスティバル，ビバシ

ティ（彦根市）、（はしかけグループ「びわたん」）。

2010年7月27日、学校における環境教育のあり方、米原市教育センター環境教育部会、米原市教職員夏季研修会（米原市）、講師。

2010年7月30日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館（草津市）、アドバイザー。

2010年8月2日、琵琶湖博物館実習、草津市立教育研究所、草津市立教育研究所夏季研修講座、琵琶湖博物館（草津市）、コーディネーター・講師。

2010年8月3日、琵琶湖博物館実習、滋賀県小学校理科部会、研究委員研修会、琵琶湖博物館（草津市）、コーディネーター・講師。

2010年8月4日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館（草津市）、アドバイザー。

2010年8月5日、琵琶湖博物館での体験学習、三重県三泗小学校理科教育研究協議会、夏季研修会、琵琶湖博物館（草津市）、講師。

2010年8月10日、琵琶湖博物館での環境学習、滋賀県教育委員会、環境教育研究協議会、琵琶湖博物館（草津市）、コーディネーター。

2010年8月19日、やまのこ事業事例発表、やまのこ事業教員研修会、滋賀県森林センター（野洲市）、講師。

2010年8月24日、学校教育における博物館活用と指導実習、甲賀市教育委員会教育研究所、甲賀市教職員研修「こうか学びの研修」（理科講座）、甲賀市立佐山小学校（甲賀市）、講師。

2010年11月6日、琵琶湖博物館における体験学習、滋賀県教育委員会、滋賀の教師塾、琵琶湖博物館（草津市）、講師。

2011年2月4日、博物館の紹介、滋賀県生涯学習課、学校支援メニューフェア、ピアザ淡海（大津市）、講師。

### **視察対応**

2010年10月21日、琵琶湖博物館の学校連携について、中国教職員招聘プログラム、琵琶湖博物館。

2010年10月29日、琵琶湖博物館の学校連携について、国立歴史民俗博物館、琵琶湖博物館。

2010年11月12日、琵琶湖博物館の学校連携について、平和祈念館（仮称）開設準備室、琵琶湖博物館。

2010年12月16日、琵琶湖博物館の学校連携について、広島県さとうみ科学館、琵琶湖博物館。

### **【資料整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

2010年4月～2011年3月、学校等標本貸出事業、担当、18件。

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー、講義、4回。

## **館内の人事・館外活動等に関すること**

### **【館外の活動】**

2010年7月～2011年2月、草津市立笠縫東小学校エコスクール支援委員会、委員。

今年度は専門研究として、琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発を主に行った。

琵琶湖博物館には年間6万人を超える児童・生徒が来館し、そのうちおよそ1万人の児童・生徒が展示見学に加えて館職員による講義や実習を受講している。また、教員研修の連携先として、実習を含めた来館を受け入れることも多い。このような事業に携わる中で以下のような実習プログラムを開発してきた。

水晶のレプリカ作製実習：2010年度ギャラリー展示「僕らは大地に夢を掘る」関連イベント「鉱物のカラフルレプリカつくっちゃおう」として実施した。水晶の標本をシリコンゴムで型取りし、その型枠に「おゆまる（ヒノデワシ製）」を充填することにより、カラフルなレプリカを作製した。シリコン型枠を予め湯煎して温めておくことと、おゆまるを細かく刻んで使用することで、細長い水晶の形を再現した。参加した子どもたちは鉱物についての講義を聞いた後、それぞれ好みの色のレプリカをデザインし、おもいおもいの作品を作製した。2011年2月わくわく探検隊のプログラムとしても実施し、たいへん多くの参加者から好評を得ることができた。

琵琶湖模型作製実習：2010年度企画展示「湖底探検ーびわ湖の底はどんな世界？ー」関連イベント「琵琶湖の模型をつくろう」として実施した。従来から実施しているプログラム「3D 琵琶湖」は、琵琶湖の等深線を描き写す作業があるため、およそ中学生以上の年齢で実施することが適当である。本イベント開催時の参加者は小学生や未就学の子どもが見込まれるため、低年齢の子どもにも実習可能なプログラムを考案した。企画展示の展示物「琵琶湖の湖底モデル」作製時の手法を活用し、手のひらに乗るサイズのシリコン枠を作製した。琵琶湖の湖底についての講義を聞いた後、この型枠へ前述の「おゆまる」を充填することにより、琵琶湖の模型を作製した。選んだおゆまるの色の組み合わせや、充填する際の混ぜあわせ方によってさまざまな琵琶湖模型ができ、企画展示への関心を高めることができた。

筆者は琵琶湖博物館に赴任した当初より、学校現場とは違う「博物館ならではの学び」に多くの刺激を受けている。特に今回報告したような学習プログラムを企画・運営する中で、「収蔵されている標本などの本物が活用できること」「器材や設備が充実していること」、そして何より「学芸員をはじめとした専門家（研究者）の視点をプログラムへ織り込める環境」が、博物館での学びの大きな特長であるということを実感している。引き続き、この特長を十分に活かした学習プログラムを考えていきたい。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

- 飯住達也（2010）安価に作製できるプランクトンネット．*滋賀科学*，53，滋賀県高等学校理科教育研究会：26-28.
- 飯住達也（2011）世界のお祭りを調べよう．平成22年度国立民族学博物館文化資源研究センター事業 博学連携ワークショップ「学校と博物館が学びあえる場の構築をめざして」報告書，2011年，国立民族学博物館文化資源研究センター：30-31.
- 飯住達也（2011）琵琶湖の成り立ちと自然，*あおい琵琶湖（中学校編）*六訂版，2011年，滋賀県教育委員会 編：1-10.
- 飯住達也（2011）琵琶湖博物館サテライト博物館事業 実践報告，*滋賀科学*，54，滋賀県高等学校理科教育研究会：50-53.
- 飯住達也（2011）外来生物問題の考え方ー琵琶湖を中心にー，平成24年度用 中学校理科教師用指導書 近畿版，2012年，東京書籍.

### 【一般向けの著作】

- 大依久人・飯住達也（2010）*うみっこ通信*．5，琵琶湖博物館：4.

大依久人・飯住達也（2010）琵琶博だより．2，琵琶湖博物館：2.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

飯住達也（2010年8月6日）琵琶湖博物館と連携した体験学習．第57回全国中学校理科教育研究会 第1回近畿中学校理科教育研究会，全国中学校理科教育研究会京都大会運営委員会，京都市勧業館みやこめっせ（京都府京都市），[口頭発表].

飯住達也（2010年10月15日）琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表].

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年4月～2011年3月，滋賀の教師塾塾生，解剖実習・交流事業研修受け入れ.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

2010年度，はしかけ「びわたん」，担当.

2010年4月～2011年3月，「春の草花でしおりをつくろう」等10講座，「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業，琵琶湖博物館，企画運営，18件，（はしかけグループ「びわたん」と共催）.

2010年4月～2011年3月，学校サテライト博物館展示更新・移設など，学校サテライト博物館，高島市立青柳小学校・甲賀市立佐山小学校・長浜市立永原小学校，運営.

2010年7月～2010年11月，「琵琶湖の模型を作ろう」1講座および企画展示「探検手帳」作成，企画展関連イベント，琵琶湖博物館，企画運営，5件，（はしかけグループ「びわたん」と共催）.

2010年7月～2011年2月，はしかけ登録講座・はしかけ交流会，はしかけ事業，琵琶湖博物館，はしかけグループ「びわたん」活動紹介，3件.

2010年8月～11月，指導者のための博物館活用講座，教員・地域活動指導者向け博物館講座，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，3件.

2009年8月5日，自然調査ゼミナール紹介，博物館実習，琵琶湖博物館，講師.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年4月～2011年3月，学校団体向け体験学習，県内県外小中高等特別支援学校，団体向け体験学習，琵琶湖博物館（草津市），講師，75件.

2010年4月～2011年3月，一般団体向け体験学習，各団体，団体向け体験学習，琵琶湖博物館（草津市），講師，6件.

2010年4月～2011年11月，琵琶湖学習，立命館守山高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター，10件.

2010年6月～2011年2月，琵琶湖学習，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター・講師，13件.

2010年6月3日，琵琶湖博物館を利用した授業研究，滋賀県中学校教育研究会理科部会，琵琶湖博物館（草津市），講師.

2010年6月10・15日，琵琶湖博物館での体験学習（講義、実習），滋賀県総合教育センター，初任者研修，琵琶湖博物館（草津市），講師，4件.

2010年7月21～28日，琵琶湖探究，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（草津市），コ

ーディネーター・講師，5件。

- 2010年7月25日，ヨシ笛作り，環境と科学のフェスティバル実行委員会，環境と科学のフェスティバル，ビバシティ（彦根市），（はしかけグループ「びわたん」）。
- 2010年7月30日，琵琶湖博物館での体験学習，滋賀県中学校教育研究会理科部会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館（草津市），アドバイザー。
- 2010年8月2日，琵琶湖博物館研修，守山市小中学校教育研究会理科部会，夏季研修会，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター。
- 2010年8月3日，琵琶湖博物館実習，滋賀県小学校教育研究会理科部会，研究委員研修会，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター・講師。
- 2010年8月4日，琵琶湖博物館での体験学習，滋賀県中学校教育研究会理科部会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター。
- 2010年8月5日，琵琶湖博物館での体験学習，三重県三泗小学校理科教育研究協議会，夏季研修会，琵琶湖博物館（草津市），講師。
- 2010年8月9日，外来種問題を学ぶ，滋賀県総合教育センター，環境科学講座，滋賀大学（大津市），コーディネーター。
- 2010年8月10日，琵琶湖博物館での環境学習，滋賀県教育委員会，環境教育研究協議会，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター。
- 2010年8月11日，湖底の話とヨシ笛作り，大津プリンスホテル，宿泊イベント，大津プリンスホテル（大津市），コーディネーター。
- 2010年8月17日，琵琶湖博物館での環境学習，千代田高等学校，校内教員研修会，琵琶湖博物館（草津市），講師。
- 2010年11月6日，琵琶湖博物館における体験学習，滋賀県教育委員会，滋賀の教師塾，琵琶湖博物館（草津市），講師。
- 2010年11月23日，講義・保護増殖センター見学，京都府私立中学高等学校理科研究会，京都府理科研修会，琵琶湖博物館（草津市），コーディネーター。
- 2011年2月4日，博物館の紹介，滋賀県教育委員会生涯学習課，学校支援メニューフェア，ピアザ淡海（大津市），講師。

### 視察対応

- 2010年9月4日，教員研修の実態と課題について，科学系博物館の学校利用促進方策－教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発－，琵琶湖博物館。
- 2010年10月21日，琵琶湖博物館の学校連携について，中国教職員招聘プログラム，琵琶湖博物館。
- 2010年10月29日，琵琶湖博物館の学校連携について，国立歴史民俗博物館，琵琶湖博物館。
- 2010年11月12日，琵琶湖博物館の学校連携について，平和祈念館（仮称）開設準備室，琵琶湖博物館。
- 2010年12月16日，琵琶湖博物館の学校連携について，広島県さとうみ科学館，琵琶湖博物館。

### メディアへの協力

- 2010年5月9日，中日新聞，琵琶湖博物館わくわく探検隊，（2010年5月8日取材対応）。
- 2010年10月14日，中日新聞・京都新聞，永原小学校サテライト博物館オープニング，（2010年10月13日取材対応）。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2010年4月～2011年3月，学校等標本貸出事業，担当，18件。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

**【企画調整活動】**

新任職員等研修，団体の受付について，講師，2010年4月14日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学研修集中コース，琵琶湖博物館の学校連携について，講師，2010年6月10日，琵琶湖博物館.

**館内の人事・館外活動等に関すること**

**【館外の活動】**

2010年5月～2011年3月，滋賀県教育委員会，環境教育副読本「あおい琵琶湖」作成委員会，委員.

2010年8月～2011年3月，国立民族学博物館 文化資源研究センター，博学連携ワークショップ「学校と博物館が  
学びあえる場の構築をめざして」準備グループ，館外協力者.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク，琵琶湖博物館，3件。

#### メディアへの協力

2010年11月30日，京都新聞，トピック展示「堅田の郷土 居初家の歴史」を紹介，(2010年11月25日取材対応)。

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

トピック展示情報のweb発信，準備，2件。

収蔵資料展示情報のweb発信，準備，8件。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

居初家文書2件の目録作成，実施，292点。

近江関係散逸古文書履歴入力，実施，70件。

歴史資料所在表（一時保管庫・特別収蔵庫）の更新，実施。

資料データベース（歴史資料）の作成，準備。

定期収蔵庫清掃（特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室），実施，12回。

定期清掃（収蔵庫廊下），実施，4回。

定期清掃（B展示室），実施，50回。

大掃除（B展示室），実施，1回。

虫カビ対策としての重点追加清掃（低温収蔵庫・冷凍収蔵庫・トラックヤード・研究棟等），準備，実施，4回。

IPM対策としての年次計画の整備，準備・実施。

防虫防黴調査，トラップ設置回収・考察作成・防虫対策立案，3回。

ブンガノン処理委託の実施，企画，準備。

収蔵庫空間の環境整備（防虫ブラシ・防虫網・除湿機・扇風機の設置，下駄箱の清掃等），企画・準備・実施，10件。

生物発見履歴の整備，入力，25件。

防虫防黴対策見直しのための生物環境調査請負業者への聞き取り調査，実施，2回。

虫カビ対策としての収蔵庫空間モニタリング，調査・準備・実施。

低酸素濃度殺虫処理，実施，6回。

二酸化炭素殺虫処理，実施，2回。

pH測定（7ヶ所），実施，2回。

収蔵庫・展示室等の温湿度記録計用紙交換（10ヶ所），実施，12回。

展示ケース内温湿度記録計用紙交換及び湿度管理，実施，6回。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2010年5月11日～6月13日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第15回, 企画・調査・準備・展示.

2010年6月15日～7月11日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第16回, 企画・調査・準備・展示.

2010年7月13日～8月8日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第17回, 古文書にみる琵琶湖の船, 企画・調査・準備・展示.

2010年8月10日～9月12日, 収蔵資料展示「企画展示関連企画 湖底の魚と魚とり」第18回, 企画・調査・準備・展示.

2010年9月14日～10月17日, 収蔵資料展示「企画展示関連企画 湖底の魚と魚とり」第19回, 企画・調査・準備・展示.

2010年10月19日～11月21日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第20回, 堅田の風景, 企画・調査・準備・展示.

2010年11月23日～12月23日, トピック展示「堅田の郷土 居初家の歴史」第1期 堅田浦の由緒と居初家, 企画・調査・準備・展示.

2011年1月3日～2月6日, お正月トピック展示「ウサギ」展歴史資料の部, 企画・調査・準備・展示.

2011年1月3日～2月6日, トピック展示「堅田の郷土 居初家の歴史」第2期 堅田の船道郷土, 企画・調査・準備・展示.

2011年2月8日～3月13日, トピック展示「堅田の郷土 居初家の歴史」第3期 居初家と堅田藩, 企画・調査・準備・展示.

2011年3月15日～4月17日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第21回, 企画・調査・準備・展示.

B展示室陳列替え, 実施, 10件.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

- 2010年4月11日、紙芝居「春みつけ」、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 荒井氏共同)。
- 2010年4月24日～5月5日、こどもの日企画:びわこいのぼり～琵琶湖のさかなに色をぬろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施。
- 2010年8月7日、ディスカバリーボックス制作、博物館実習、琵琶湖博物館、指導。
- 2010年8月25日、紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり～ゲンジボタルの一生」、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 荒井氏共同)。
- 2010年8月26日～30日・9月11日～17日、秋の実りイベント「おちゃめなカボチャ2010」、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施。
- 2010年11月23日～12月18日、大学生のお兄さん・お姉さんがつくったディスカバリーボックス、企画・実施。
- 2010年12月4日～12月23日の土日祝、はっばすたんぷ、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施。
- 2011年1月5日、お正月だよ!「風車」をつくろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 柳原氏共同)。
- 2011年1月26日、むかしの遊び「お手玉」をつくろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 柳原氏共同)。
- 2011年2月11日、おばあちゃんの台所で「わらざうり」をつくろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(生活実験工房 野間氏共同)。
- 2011年2月16日、びわこのヨシで「ペンホルダー」をつくろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 柳原氏共同)。
- 2011年2月27日、くるりん☆かざぐるま、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけと共同)。

### メディアへの協力

- 2010年5月5日、読売新聞、イベント「びわこいのぼり」について、(2010年5月4日取材対応)。
- 2011年2月10日、朝日新聞、おばあちゃんの台所で「わらざうり」をつくろう開催日程・内容について、(2011年2月10日取材対応)。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

ディスカバリーボックス・模型資料、貸出。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

- 2010年度、ディスカバリールーム、維持管理・運営、分担。
- 2010年4月13日～6月1日、おばあちゃんの台所「こどもの日」関連展示、分担。
- 2010年4月28日～5月9日、サカマキナミコキセルガイ飼育展示、分担。
- 2010年4月29日～5月5日、南極の氷展示、分担。

2010年5月7日～8月2日, メダカ飼育展示, 分担.  
2010年6月19日～8月1日, タカチホヘビ飼育展示, 分担.  
2010年7月2日～9月13日, ヒラタクワガタ・カブトムシ飼育展示, 分担.  
2010年6月15日～7月7日, おばあちゃんの台所「七夕」関連展示, 分担.  
2010年8月5日～8月31日, カイコ飼育展示, 分担.  
2010年8月11日～, ナマズ飼育展示, 分担.  
2010年8月14日～, ディスカバリーボックス「百鬼夜行すごろく」展示, 分担.  
2010年9月2日～, 音のへや「南米の楽器」展示, 分担.  
2010年10月1日～, ヒバカリ飼育展示, 分担.  
2010年10月28日～, ピンク色のクビキリギス飼育展示, 分担.  
2011年1月3日～1月10日, おばあちゃんの台所「お正月」関連展示, 分担.  
2011年2月1日～2月3日, おばあちゃんの台所「節分」関連展示, 分担.  
2011年2月13日～3月3日, おばあちゃんの台所「雛祭」関連展示, 分担.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

- 2010年4月11日、紙芝居「春みつけ」、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 荒井氏共同)。
- 2010年4月24日～5月5日、こどもの日企画:びわこいのぼり～琵琶湖のさかなに色をぬろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施。
- 2010年8月7日、ディスカバリーボックス制作、博物館実習、琵琶湖博物館、指導。
- 2010年8月25日、紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり～ゲンジボタルの一生」、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施。(ザ!ディスカバはしかけ 荒井氏共同)。
- 2010年8月26日～30日・9月11日～17日、秋の実りイベント「おちゃめなカボチャ2010」、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施。
- 2010年11月23日～12月18日、大学生のお兄さん・お姉さんがつくったディスカバリーボックス、企画・実施。
- 2010年12月4日～12月23日の土日祝、はっぱすたんぷ、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施。
- 2011年1月5日、お正月だよ!「風車」をつくろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 柳原氏共同)。
- 2011年1月26日、むかしの遊び「お手玉」をつくろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 柳原氏共同)。
- 2011年2月11日、おばあちゃんの台所で「わらざうり」をつくろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(生活実験工房 野間氏共同)。
- 2011年2月16日、びわこのヨシで「ペンホルダー」をつくろう、ディスカバリールームイベント、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけ 柳原氏共同)。
- 2011年2月27日、くるりん☆かざぐるま、琵琶湖博物館、企画・実施、(ザ!ディスカバはしかけと共同)。

### メディアへの協力

- 2010年5月5日、読売新聞、イベント「びわこいのぼり」について、(2010年5月4日取材)。
- 2011年2月10日、朝日新聞、おばあちゃんの台所で「わらざうり」をつくろう開催日程・内容について、(2011年2月10日取材)。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

ディスカバリーボックス・模型資料、貸出。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

- 2010年度、ディスカバリールーム、維持管理・運営、分担。
- 2010年4月13日～6月1日、おばあちゃんの台所「こどもの日」関連展示、分担。
- 2010年4月28日～5月9日、サカマキナミコキセルガイ飼育展示、分担。
- 2010年4月29日～5月5日、南極の氷展示、分担。

2010年5月7日～8月2日, メダカ飼育展示, 分担.  
2010年6月19日～8月1日, タカチホヘビ飼育展示, 分担.  
2010年7月2日～9月13日, ヒラタクワガタ・カブトムシ飼育展示, 分担.  
2010年6月15日～7月7日, おばあちゃんの台所「七夕」関連展示, 分担.  
2010年8月5日～8月31日, カイコ飼育展示, 分担.  
2010年8月11日～, ナマズ飼育展示, 分担.  
2010年8月14日～, ディスカバリーボックス「百鬼夜行すごろく」展示, 分担.  
2010年9月2日～, 音のへや「南米の楽器」展示, 分担.  
2010年10月1日～, ヒバカリ飼育展示, 分担.  
2010年10月28日～, ピンク色のクビキリギス飼育展示, 分担.  
2011年1月3日～1月10日, おばあちゃんの台所「お正月」関連展示, 分担.  
2011年2月1日～2月3日, おばあちゃんの台所「節分」関連展示, 分担.  
2011年2月13日～3月3日, おばあちゃんの台所「雛祭」関連展示, 分担.

## 印刷物

## 【一般向けの著作】

- 川那部浩哉（2010）まえがき．琵琶湖総合保全学術委員会 編，「マザーレイク21計画（琵琶湖総合保全計画）」第1期の評価と第2期以後の計画改定の提言，琵琶湖総合保全学術委員会（滋賀県琵琶湖再生課），大津市：1-2.
- 川那部浩哉（2010）「京の水と文化」探索に必見の書．水が語る京の暮らし—伝説・名水・食の文化—（鈴木康久 著），白川書院，京都市：帯.
- 川那部浩哉・辻井祐美子（2010）京都水族館の目的、独自性を明らかに．京都民報：2010年10月10日.
- 川那部浩哉（2010）水辺の生きもの．宮澤賢治イーハトヴ学事典（天沢退二郎・金子 務・鈴木貞美 編），弘文堂，東京：19.
- 川那部浩哉（2010）魚たち【賢治愛好の】．宮澤賢治イーハトヴ学事典（天沢退二郎・金子 務・鈴木貞美 編），弘文堂，東京：57-58.
- 川那部浩哉・寺内 繭（2010）あの日あの時 琵琶湖博物館開館（1）京都や奈良にない文化へ．京都新聞：2010年12月19日.
- 川那部浩哉・寺内 繭（2010）あの日あの時 琵琶湖博物館開館（2）答え示さず 議論促す展示．京都新聞：2010年12月20日.
- 川那部浩哉・寺内 繭（2010）あの日あの時 琵琶湖博物館開館（3）来館者の学び お手伝い．京都新聞：2010年12月21日.
- 川那部浩哉・寺内 繭（2010）あの日あの時 琵琶湖博物館開館（4）仏協定を機に国際的評価．京都新聞：2010年12月22日.
- 川那部浩哉・寺内 繭（2010）あの日あの時 琵琶湖博物館開館（5）「湖と人間」ずっと大切に．京都新聞：2010年12月23日.
- 川那部浩哉（2011）生物多様性の面白さ・重要さ．地球環境関西フォーラム，2011（1）.
- 川那部浩哉（2011）2010年読書アンケート．みすず，590：31-32.
- 川那部浩哉（2011）はじめに．2010北海道大学総合博物館外部点検評価委員会 編，2010北海道大学総合博物館外部点検評価報告書，北海道大学総合博物館，札幌：3-4.
- 川那部浩哉（2011）川や湖の生物多様性を考える．河川，2011（3）：3-7.
- 川那部浩哉・足立直樹・谷口雅保・山口美知子・宮川五十雄（2011）地域における生物多様性保全活動と企業の役割～COP10を踏まえて～：パネルディスカッション．地域における生物多様性保全活動と企業の役割～COP10を踏まえて～，地球環境関西フォーラム，大阪.

## 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 川那部浩哉・鈴木 渉・横山隆一・高田友美・日比保史（2010）生物多様性保全を踏まえた企業活動セミナー：パネルディスカッション．「琵琶湖環境ビジネスメッセ2009」生物多様性保全を踏まえた企業活動セミナー，地球環境関西フォーラム，大阪：23-54.
- 川那部浩哉（2010）柿田川の歴史的変遷．柿田川の自然～湧水を科学する～（柿田川生態系研究会 三島次郎 編），静岡学術出版事業部，静岡：11-25.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

川那部浩哉（2010年10月27日）琵琶湖と生物多様性. 環境観測制御学会大会, 立命館大学草津ロームホール（草津市）.

川那部浩哉（2011年2月18日）本を「読む」と言うこと1 生態系の概念とは何か（1）. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館（草津市）, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(基盤 B)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」(研究代表者: 川那部浩哉), 研究代表者 (2010~2012年度).

### 【受賞など】

フランス・レジョン=ドヌール章, 2010年2月 (伝達式: 2010年10月26日).

滋賀県文化賞, 2010年11月8日.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年6月27日, 生物多様性は誰のため?, 市民環境研究所講演会, 京大会館（京都市）, 講演.

2010年9月9日, 乗鞍岳の生物多様性保全のためにチューリップを植えようとした人々の話、その他, 公開シンポジウム「京都梅小路公園に水族館?」, ハートピア京都（京都市）, 講演.

2010年11月27日, 基調講演, 科学研究費公開シンポジウム「琵琶湖を未来につなぐー魚・漁業・食文化」, 琵琶湖博物館（草津市）, 講演.

2010年12月13日, 生物多様性科学ことはじめ, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, メルパルク京都（京都市）, 講演.

2011年1月8日, 生命の賑わいをみんなで調査する方法を考える, 科学研究費公開講演会, 琵琶湖博物館（草津市）, あいさつ.

2011年1月21日, 水無くして生命無く、水無くして文化無し, 三大学連携による知の創出と発信シンポジウム「21世紀の‘みず’と暮らす」, 大阪大学中之島センター（大阪市）, 講演.

#### メディアへの協力

2010年10月10日, 京都市民報, 京都水族館の目的、独自性を明らかに, インタビュー, (2010年9月18日取材対応).

2010年9月25日, 京都新聞, 京都まなびの系譜ー動物に魅せられ1, インタビュー, (2010年9月22日取材対応).

2010年12月19日・20日・21日・22日・23日, 京都新聞, あの日あの時 琵琶湖博物館開館, インタビュー, (2010年11月19・26・27日取材対応).

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【海外渡航】

2010年4月25日~5月11日, ドイツ連邦・チェコ・フランス, 中欧における自然と文化の歴史に関する見学、博物館等における生物と文化の多様性に関する研究・展示に関する国際打合せ.

### 【館外の活動】

みどりの学術賞選考委員会員.  
キッズプラザ大阪「みんないきもの展」講師.  
ドメステイケーション研究会大会招待者.  
河川生態（第3者）委員会委員長.  
河川生態学術研究会会員. 同岩木川研究会会員.  
柿田川生態系研究会会員.  
鴨川アユの会顧問.  
環境問題研究会会員.  
魚類自然史研究会会員.  
京都市青少年科学センターのあり方検討専門家会議, 議長.  
京都市青少年科学センター学術顧問.  
京都市文化財保護審議会会員.  
京都新聞社会福祉事業団理事.  
山階鳥類研究所「日本産鳥類の整備と活用に関する研究」外部評価委員長.  
自然大学教授会「教授」.  
水郷水都全国大会滋賀大会会員.  
（財）世界自然保護基金ジャパン常任理事.  
（公）世界自然保護基金ジャパン理事.  
地球環境関西フォーラム100人委員会委員.  
同企画委員会委員.  
同生物多様性部会長.  
同生物多様性シンポジウムコーディネーター.  
朝日21関西スクエア会員.  
国際生物学賞委員会・同選考委員会委員.  
日本魚類学会評議員.  
日本自然保護基金理事.  
日本自然保護協会評議員.  
琵琶湖と水が織りなす文化的顕官調査報告書指導検討委員会, 指導検討委員会顧問.  
北海道大学総合博物館, 外部点検評価委員会委員会, 委員長.

## 印刷物

## 【学術論文】

南澤 修・松本 緑・山川千代美・布谷知夫・寺田和雄（2010）鮮新統古琵琶湖層群上野層および伊賀層の材化石群集. *化石研究会会誌*, 43 (1), 化石研究会：40-52.

## 【専門分野の著作】

布谷知夫（2010）三重県立博物館の建設. *全日本博物館学会ニュース*, 94, 全日本博物館学会, 東京：4-5.

布谷知夫（2010）友達ができる博物館－三重県立博物館ティーンズプロジェクト. *博物館研究*, 45 (10), 日本博物館協会, 東京：19-21.

布谷知夫（2010）環境教育を進めるために. *教育研究所だより*, 172, 守山市教育研究所, 滋賀県：1.

布谷知夫（2010）博物館運営にかかわる博物館倫理. *博物館大会資料集（第58回博物館奈良大会）* 日本博物館協会.

布谷知夫（2011）滋賀県. *タンポポ調査・西日本2010調査報告書*, *タンポポ調査・西日本2010実行委員会*, 大阪：52-55.

布谷知夫（2011）植物（72種）. *滋賀県で大切にしたい動植物（レッドデータブック2010）*, 滋賀県生きもの調査委員会・滋賀県, サンライズ出版, 滋賀.

布谷知夫（2011）植物の概要. *滋賀県で大切にしたい動植物（レッドデータブック2010）*, 滋賀県生きもの調査委員会・滋賀県, サンライズ出版, 滋賀.

布谷知夫（2011）子どもにとっての博物館とは－友だちができる博物館－. *平成21年度地域連携と県民参画により進める博物館事業実施報告書*, 三重県立新博物館整備推進室, 三重：2-3.

吉田賢司・布谷知夫（2011）9 博物館における教育・I 学校との連携. *博物館概論*, 放送大学, 東京：143-178.

布谷知夫（2011）10 博物館における教育・II 障害教育の展開. *博物館概論*, 放送大学, 東京：179-191.

吉田賢司・布谷知夫（2011）11 地域コミュニティと博物館. *博物館概論*, 放送大学, 東京：192-208.

布谷知夫（2011）ワークショップ講評②. *博学連携ワークショップ「学校と博物館が学びあえる場の構築をめざして」報告書*, 国立民族学博物館, 大阪：40-41.

## 【一般向けの著作】

布谷知夫（2010）生物多様性条約EXPO自然観察会 自然観察のテーマ・88. *NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 90, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会, 大阪：2-4.

布谷知夫（2010）ともに考え、活動し、成長する博物館. *ミュゼ*.

布谷知夫（2010）博物館のこの日・1. *ミュゼ*.

布谷知夫（2010）観察会と自然保護. *都市と自然*, 414, 大阪自然環境保全協会, 大阪：3.

布谷知夫（2010）やっってもら観察会 自然観察のテーマ・89. *NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 91, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会, 大阪：2-4.

布谷知夫（2010）観察会のタイプ 自然観察のテーマ・90. *NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 92, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会, 大阪：2-4.

布谷知夫・木村 進（2011）目的と意義. *タンポポ調査・西日本2010調査報告書*, *タンポポ調査・西日本2010実行委員会*, 大阪：1.

布谷知夫（2011）市民調査における住民参加の課題自然観察のテーマ・91. *NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 93, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会, 大阪：2-4.

布谷知夫（2011）学芸員が見た「びわたん」のすごろく活動. 北村美香・飯住達也・大依久人 編, *博物館を100*

倍楽しむ！ーびわたんのスゴロクプログラムー, 琵琶湖博物館: 21.

布谷知夫 (2011) みんなでお宝を発見する喜び. みんなで楽しみ、みんなで作る博物館, 三重県立博物館, 三重: 21.

布谷知夫 (2011) 暮らしを見直すきっかけに. 水と土と農のフォーラム, 水と土と農のフォーラム実行委員会, 滋賀: 5.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

布谷知夫 (2010年7月8日) パネルディスカッション「地域に開かれた博物館」. 平成22年度博物館館長研修, (奈良市), [コーディネーター].

布谷知夫 (2010年7月8日) エデュケイターを日本の博物館の中にどう位置付けるのか. エデュケイター研究会, 文化庁 (東京), [口頭発表].

布谷知夫 (2010年10月4日) 博物館とは. 京都市博物館ふれあいボランティア養成講座第一回, 京都市内博物館施設連絡協議会・京都市教育委員会, 京都市子育て支援総合センター (京都市), [口頭発表].

布谷知夫 (2010年10月24日) 地域における博物館は今. 美濃加茂市民ミュージアム10周年記念フォーラム「地域とミュージアムのこれから」, 美濃加茂市民ミュージアム緑のホール (岐阜県美濃加茂市), [口頭発表].

布谷知夫 (2010年11月25日) 博物館運営にかかわる博物館倫理. 博物館の倫理指針, 第58回全国博物館大会奈良大会, 奈良県中央公民館 (奈良市), [口頭発表].

布谷知夫 (2010年12月11日) 趣旨説明と全体コメント、コーディネーター 琵琶湖博物館フォーラム『住民参加型の生物調査とは何だったのかーその成果、意味と課題』. 琵琶湖博物館 (草津市), [コーディネーター].

布谷知夫 (2011年1月15日) 研究フォーラム「子どもが主役の博物館づくり」. 三重県総合文化センター, 三重県生活文化部新博物館整備推進室・三重県立博物館 (津市), [コーディネーター].

布谷知夫 (2011年2月4日) 学びの場としての博物館. 京都市博物館ふれあいボランティア養成講座第四回, 京都市内博物館施設連絡協議会・京都市教育委員会, 京都市子育て支援総合センター (京都市), [口頭発表].

鈴木 武・狩山俊吾・小川 誠・木村 進・高島耕一郎・布谷知夫 (2011年3月) 西日本における在来二倍体の分布ータンポポポ調査ー西日本2010ー. 日本植物学会大会 (東京), [ポスター発表].

布谷知夫 (2011年3月1日) シンポジウム「文化財を生かしたまちづくりを考える」. 南種子町福祉センター (鹿児島県南種子町), [口頭発表].

杉本 博・廣寄由利恵・布谷知夫 (2011年3月21日) オオキンケイギクの啓発に向けて. 関西自然保護機構研究発表会, 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [ポスター発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤B) 「地域住民による琵琶湖沿岸のく生物の賑わい」総合調査の方法論と具体的手法の確立 (研究代表者: 川那部浩哉), 連携研究者 (2011~2013年度).

科学研究費補助金 (基盤C) 「来館者同士のコミュニケーションを誘発する展示見学補助ツールの実践的研究」 (研究代表者: 黒岩啓子), 共同研究者 (2009~2010年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会, 運営委員.

全日本博物館学会, 学会誌編集委員.

関西自然保護機構, 運営委員.

博物館学雑誌, 査読, 3件.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2011年2月5日, 滋賀県立大学集中講義, 「博物館学各論A」.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

琵琶湖大縁日，企画運営。

はしかけ「植物観察の会」，県内各地，5件。

2010年4月10日，びわたん「春の草花でシオリを作ろう」，わくたん，琵琶湖博物館，協力。

2010年4月10日，台所の植物学，びわたん研修会，琵琶湖博物館，協力。

2010年6月6日，草木染め，琵琶湖博物館館内研修，琵琶湖博物館，協力。

2010年10月9日，秋の色探し，わくたん，琵琶湖博物館，協力。

2010年11月13日，木の実であそぼう，わくたん，琵琶湖博物館，協力。

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年6月27日，自然観察から始まる自然観察会，そよごの会・大阪自然環境保全協会インスト講座，枚岡グリーンパーク（東大阪市），協力。

2010年6月29日，博物館・美術館の社会的役割と連携，愛知県博物館協会，愛知県博物館協会総会記念講演，愛知県立美術館（名古屋市），協力。

2010年7月11日，ティーンズプロジェクトの趣旨と博物館の役割，三重県生活環境部新博物館整備推進室，2010年度ティーンズプロジェクト，三重県立博物館（津市），協力。

2010年7月25日，日光写真，環境と科学のフェスティバル実行委員会，環境と科学のフェスティバル，VivaCity（彦根市），協力。

2010年8月1日，滋賀県の植物の多様性，日本ヨシ笛協会，ヨシ笛コンサート，琵琶湖博物館，協力。

2010年8月3日，参画と協創の博物館，三重県議会委員会，三重県議会委員会研修会，総合文化センター（津市），協力。

2010年8月4日，ツル植物，滋賀県中学校理科教育研究会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，協力。

2010年8月21日，琵琶湖博物館の成り立ち，吹田市民会議，吹田市民会議研修会，琵琶湖博物館，協力。

2010年9月1日，琵琶湖博物館の展示の考え方，博物館研修，台湾台北芸術大学博物館学講座，琵琶湖博物館，協力。

2010年8月31日，やまのこ事業自然観察会，山のこ担当者研修会，滋賀北部森林組合，高山キャンプ場（長浜市），協力。

2010年9月4日，水を見直そう琵琶湖を例に，シニア自然大学，シニア自然大学自然講座，此花公民館（大阪市），協力。

2010年9月16・21日，インタープリターとは何（1回目）（2回目），キッズプラザ大阪，インタープリター研修会，キッズプラザ大阪（大阪市），2件，協力。

2010年10月12日，植物観察で見つけた疑問，河瀬小学校3年生，河瀬小学校見学授業，琵琶湖博物館，協力。

2010年11月20日，琵琶湖のヨシの話，自然大学，自然大学授業，琵琶湖博物館うみっこ広場・琵琶湖周辺（草津市），協力。

2010年11月28日，新博物館に期待すること（参加者の対話）司会，三重子ども会議，三重県生活文化部新県博物館整備推進室，津市，共同企画。

2010年12月4日，三重県立新博物館の紹介，三重県と観大学との連携シンポジウム，生涯学習センター，共同企画。

2010年12月25日，三重県立新博物館でやろうとしている事，人と自然の博物館学芸員研修会，兵庫県立人と自然の博物館（三田市），協力。

2010年1月12日，ヨシと人のくらし，大津清陵高等学校授業，大津清陵高等学校（大津市），協力。

2011年1月30日，みんなで作る博物館会議（多度移動展示），桑名市文学館，三重県立博物館（津市），共同企画。

2011年2月13日，みんなで作る博物館会議，コメンテーター，みんなで作る博物館会議，三重県立新博物館整備

推進室，総合文化センター，共同企画。

2011年2月20日，講評2，博学連携ワークショップ，博学連携ワークショップ実行委員会，国立民族学博物館（吹田市），共同企画。

2011年3月13日，市民参加型調査でわかること～調査の楽しみ方、おもしろさ～，身近な環境市民調査員登録説明会，大津市環境政策課，大津市役所（大津市），協力。

#### 視察対応

2010年11月16日，説明と展示室案内，グリーン購入ネットワーク，琵琶湖博物館。

2010年12月12日，説明と展示室案内，三重県化学・環境技師会，琵琶湖博物館。

#### メディアへの協力

2010年7月10日，県政週刊プラス1，タンポポの調査からわかること「失われる『つながり』と『にぎわい』」，（2010年7月9日取材）。

ぬのたに博士の「まいばら水環境クイズ」，夏休み子どもスペシャル，伊吹山テレビ，（2010年7月23日取材）。

2010年11月20日，朝日新聞，琵琶湖博物館の建築方針について。

2011年1月5日，読売新聞社，タンポポ調査2010の結果について。

#### 【企画調整活動】

水と土と農のフォーラム，企画と運営。

タンポポ調査西日本・2010実行委員会の滋賀県実行委員会、企画と運営。

JICA博物館集中コース，びわたんとフィールドレポーター，講師，2010年6月12日，琵琶湖博物館，協力。

JICA博物館集中コース，地域博物館の役割，講師，2010年6月15日，琵琶湖博物館，協力。

JICA博物館集中コース，展示評価の実践，講師，2010年6月15日，琵琶湖博物館，協力。

JICA博物館集中コース個別研修，琵琶湖博物館における市民参画活動，講師，2010年6月28日，琵琶湖博物館，協力。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2010年4月1日～2011年3月31日，琵琶湖博物館環境学習センター所長。

#### 【館外の活動】

2010年4月1日～2011年3月31日，三重県生活文化部顧問（県立新博物館担当）。

2010年4月1日～2011年3月31日，放送大学「博物館概論」担当講師。

2010年4月1日～2011年3月31日，滋賀県立大学非常勤講師。

2010年4月1日～2011年3月31日，和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会，委員・会長代理。

2010年4月1日～2011年3月31日，タカラフオールディング助成評価委員会，委員。

2010年4月1日～2011年3月31日，花王・コミュニティミュージアム・プログラム選考委員会，委員。

2010年4月1日～2011年3月31日，滋賀県棚田等保全検討委員会，委員。

2010年4月1日～2011年3月31日，しが文化芸術学習支援センター運営委員会，委員。

2010年4月1日～2011年3月31日，国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会，委員。

2010年4月1日～2011年3月31日，滋賀県生き物調査委員会，植物部会長。

2010年4月1日～2011年3月31日，南種子博物館建設委員会，委員。

2010年4月1日～2010年7月31日，みなみたねちょう博物館建設プロポーザル委員会，委員長。

2010年4月1日～2011年3月31日，守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会，委員。

2010年4月1日～2011年3月31日，滋賀県COP10委員会，委員。

2010年4月1日～2011年3月31日，水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子作成委員会，委員長.  
2010年4月1日～2011年3月31日，関西自然保護機構，運営委員.

## 印刷物

### 【学術論文】

中島経夫 (2010) 魚米之郷の時空間的な広がり. *Biostory*, 13 : 67-71.

Nakajima, T., Nakajima, M. and Yamazaki, T. (2010) Evidence for fish cultivation during the Yayoi Period in Western Japan. *International Journal of Osteoarchaeology*, 20 : 127-134.

Nakajima, T., Nakajima, M., Mizuno, T., Sun, G.-P., He, S.-P. and Liu H.-Z. (2010) On the pharyngeal tooth remains of crucian and common carps from the Neolithic Tianluoshan site, Zhejiang Province, China, with remarks on the relationship between freshwater fishing and rice cultivation in the Neolithic age. *International Journal of Osteoarchaeology*, published online in Wiley Online Library DOI ; 10.1002/oa.1206.

中島経夫 (2011) コイ科魚類咽頭歯遺存体から見える先史時代の漁撈と稲作との関係に関する一考察. *歴史博研究報告*, 162 : 49-63.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中島経夫 (2011年1月25日) 水陸交界帯の魚類と人類: 稲作起源論の新方法. 第一屆中日国際学術討論会 “水陸交界帯の魚類と人類: 稲作起源論の新方法”, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市).

Nakajima, T. (2011年2月21日) Fish and Human Interactions in Marshy Shoreline Ecotones of Ancient East Asia, Inferred from Zooarchaeology. The Symposium of Ecohistory program of RINH, Research Institute for Nature and Humanity (Kyoto).

### 【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 (基盤 B) 「水辺エコトーンにおける魚と人: 稲作起源論への新しい方法」(研究代表者: 中島経夫), 研究代表者 (2010年度~2013年度).

科学研究費補助金 (基盤 A) 「中国における都市の生成: 良渚遺跡群の学際的総合研究」(研究代表者: 中村慎一), 連携研究者 (2010年度~2013年度).

総合地球環境学研究所 4-4 プロジェクト 「東アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」(研究代表者: 内山純蔵), コアメンバー (2005年度~2011年度).

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

2010年7月~2011年3月, 総合地球環境学研究所客員教授.

## 印刷物

### 【学術論文】

Amano, T., Székely, T., Koyama, K., Amano, H. and Sutherland, W. J. (2010) A framework for monitoring the status of populations : an example from wader populations in the East Asian-Australasian flyway. *Biological Conservation*, 143 : 2238-2247.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

Amano, H. E., Hanawa, S. and Takeishi, M. (2010年8月22~28日) Nest site selection of endangered Saunders' gull in northeastern China. 25th International Ornithological Congress, Compos do Jordao (Brazil), [ポスター発表].

天野一葉・須川 恒・片岡宣彦・吉岡美佐子・程木義邦・大林夏湖・中野伸一 (2010年9月18~20日) 水鳥からのアオコ原因藍藻類 *Microcystis aeruginosa* の検出. 日本鳥学会 2010年度大会, 東邦大学理学部 (千葉県船橋市), [ポスター発表].

天野一葉 (2011年2月24日) シギ・チドリ類ネットワークと湿地保全. 世界湿地の日を祝おう!! in 湖北, 琵琶湖水鳥湿地センター (滋賀県長浜市), [口頭発表].

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学誌, *Strix* (野外鳥類学雑誌), 論文の査読, 2件.

### 【研究プロジェクト等への参加】

地球環境研究総合推進費「F-093 アオコの分布拡大に関する生態・分子系統地理学的研究」(研究代表者:中野伸一), アオコの分布拡大における水鳥の関わりについて研究 (2009年10月~).

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

2011年2月~, 四国ソウシチョウ防除計画, アドバイザー.

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

植田文雄（2011）第2章「自然に生きる湖辺の縄文人」第4節「縄文人のまつりと社会」：コラム「お試しドングリ食体験」：第4章「近江とヤマト政権」第1節「王墓、神郷亀塚古墳の誕生」．東近江市史編纂委員会 編，東近江市史 能登川の歴史－第1巻 原始・古代編：103-125・55-56・210-229.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

植田文雄（2010年12月11日）石狩川におけるアイヌのヤナとエリをめぐって－琵琶湖との比較の中での定義，琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤 C）「内水面の定置漁業の考古・民俗学的研究」（研究代表者：植田文雄），研究代表者（2009～2013年度）.

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構，研究部長.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年度前期，佛教大学，「博物館学Ⅲ」.

2010年度前期，佛教大学，「地域文化特講・考古学－縄文文化の東西」.

2010年度後期，佛教大学，「博物館実習講義A」.

2010年度後期，佛教大学，「地域文化特講・考古学－日本列島における王権の発生と古代国家の成立」

2010年度後期・集中講義，滋賀県立大学，「地域考古学B」.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

2006年度～，東近江市史編纂委員会，調査執筆委員.

## 印刷物

### 【学術論文】

柏尾珠紀（2010）農業経済学の研究動向． 獣害被害一むらの文化からのアプローチ， *年報村落研究*， 46， 農山漁村文化協会：241-251.

### 【専門分野の著作】

柏尾珠紀（2010）消費者が変わるとき． *現代農業*， 2月増刊号， 農山漁村文化協会：232-235.

柏尾珠紀（2010）研究室と集落を協働でつなぐー「風わたる里うえやま」との協働ー． *農業と経済*， 臨時増刊号， 昭和堂：80-85.

大原 桃・芦田祐介・柏尾珠紀・高村竜平（2010）過疎山村高齢者における生活維持の諸条件． *京都大学グローバルCOEプログラム 親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点、次世代研究5報告書*：61 p.

柏尾珠紀（2011）水と人の風物誌． *環境技術*， 40， 環境技術学会：34-35.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

柏尾珠紀（2010年10月4日）まちづくりの考え方の形成とその共有過程． 日本村落研究学会関西地区研究会， 日本村落研究学会， 龍谷大学深草キャンパス（京都府京都市）， [口頭発表].

柏尾珠紀（2010年12月4日）ふるさと共援活動ー地域と大学をつなぐー． 第5回農村計画のフロンティア研究会， 京都大学農学部（京都府京都市）， [口頭発表].

柏尾珠紀（2011年2月4日）ふるさと共援活動． 京都府丹後広域振興局農林商工部 命の里づくり推進チームシンポジウム， アグリセンター大宮（京都府京丹後市）， [口頭発表].

### 【インターネットページでの公表】

柏尾珠紀（2010）地域史からみた梅田町のまちづくりと推進主体.

<http://www.kasen.or.jp/seibikikin/h22/pdf/rep3-03h.pdf>， 河川環境管理財団：8-13.

### 【研究プロジェクト等への参加】

地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」（研究代表者：夏原由博）， 共同研究者（2009年度～）.

河川整備基金助成事業「市民との協働を通じた環境用水の創出とその利活用に関する事業モデル構築の研究」（研究代表者：秋山道雄）， 共同研究者（2010年）.

科学研究費補助金「環瀬戸内海圏農林漁業地域における女性、若者、高齢者の生活原理に関する総合的研究」（研究代表者：藤井和佐）， 連携研究者（2010年～）.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年前期， 龍谷大学， 「特殊社会講義A 農村社会学」， 「経済社会学」， 非常勤講師.

2010年前期， 大同大学， 「ドキュメンテーションII」， 非常勤講師.

2010年後期， 龍谷大学， 「環境と社会」， 「職業の社会学」， 非常勤講師.

2011年2月21日～2月24日，高知大学，「情報調査方法論」.

## 印刷物

### 【学術論文】

北村美香 (2010) 生涯学習と博物館の教育普及機能の発展. *キャリアデザイン研究*, 6, キャリアデザイン学会: 5-18.

### 【専門分野の著作】

中井大介・大塚泰介・北村美香 (2010) 環境学習プログラム「目指せ、珪藻マスター～ケイソウゲットだぜ!～」を実施して. *Diatom*, 26, 日本珪藻学会: 51.

### 【一般向けの著作】

北村美香 (2011) びわたんと博物館をつなぐ. *博物館を100倍楽しむ! 一スゴク本をつくらう*: 20.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中井大介・北村美香・大塚泰介 (2010年5月8日) 珪藻マスター「珪藻、ゲットだぜ!」. 第31回研究大会シンポジウム「珪藻と教育」－その魅力、課題、そして可能性－, 日本珪藻学会, 東京学芸大学 (東京都), [口頭発表].

北村美香 (2010年6月13日) 滋賀県における博物館連携に向けての取り組み. 第36回研究大会, 全日本博物館学会 (東京都), [口頭発表].

北村美香・角川咲江 (2010年6月19日) 滋賀県における博物館連携に向けての取り組み. 第29回研究大会, 日本展示学会, 大阪府吹田市, [ポスター発表].

北村美香 (2010年9月17日) 博物館連携に向けての取り組み. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

北村美香 (2011年2月16日) 社会教育施設ボランティアを通じた人づくり. シンポジウム社会教育を通じた人づくり, 滋賀県社会教育研究会, ピアザ淡海 (大津市), [パネリスト].

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年4月8日, 滋賀大学教育学部, 「環境教育概論B」.

2010年4月14日, 滋賀大学教育学部, 「湖沼環境学習論」.

2010年6月10日, 滋賀大学教育学部, 「環境教育概論A」.

2010年9月～2011年3月, びわこ学院大学こども教育学科, 「滋賀の環境」 (特別講師).

### 【受賞など】

平成22年度河川整備基金助成事業優秀成果, 2011年2月10日, 「琵琶湖わくわく探検隊」事業における琵琶湖を中心とした環境学習プログラムの開発と実施, (びわたん).

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

- 2010年4月～2011年3月、琵琶湖博物館わくわく探検隊、講師、計20回。
- 2010年4月11日、鉱物のカラフルレプリカつくっちゃおう、ギャラリー展「鉱物・化石展2010 ぼくらは大地に夢を掘る」関連イベント、琵琶湖博物館、講師。
- 2010年7月17日～11月23日、探検手帳作成、第17回企画展「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界？～」関連ツール、琵琶湖博物館、企画・編集。
- 2010年7月31日・8月21日、琵琶湖の模型をつくろう、第17回企画展「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界？～」関連イベント、講師、4回。
- 2010年8月17日、プランクトンの模型をつくろう、大津市立瀬田北中学校科学部、琵琶湖博物館、講師。
- 2010年12月19日、からすま半島の水鳥を観察してみよう、琵琶湖博物館・日本野鳥の会滋賀支部共催、琵琶湖博物館、体験プログラム講師。

#### 他の博物館・機関等主催行事

- 2010年4月～2011年3月、ワークショップにおいて、特定非営利法人大阪自然史センター、教育スタッフ、計19回。
- 2010年6月27日、田んぼの生き物のお話、農業体験実行委員会、第2回「農と自然の体験活動」、水土里ふれあい農園（彦根市）、講師。
- 2010年7月3日、田んぼの生きもの観察会、愛知生協・田淵農場、北山田農事集会場（草津市）、講師。
- 2010年7月15日、琵琶湖のお話とヨシ笛作り体験、大津プリンスホテル、大津プリンスホテル（大津市）、講師。
- 2010年7月25日、ヨシ笛をつくろう、第4回博物館による環境と科学のフェスティバル、博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会、ビバシティ彦根（彦根市）、講師・実行委員。
- 2010年8月3日、水生生物調査、琵琶湖河川事務所、信楽川河口（大津市）、講師。
- 2010年8月4日、第34回自然調査ゼミナール、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会、琵琶湖博物館、講師。
- 2010年10月18日、滋賀県ブースへの出展、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）生物多様性交流フェア、生物多様性交流フェア滋賀県ブース（名古屋市）、出展。
- 2010年10月23日、ヨシ笛作り、近江鉄道ゆうグループ、志那-1公園（草津市）、講師。
- 2010年11月14日、水のちいさな勇者プランクトンの世界～プランクトンの模型をつくろう！～、「みんないきもの展」関連プログラム、キッズプラザ大阪（大阪市）、講師。
- 2010年11月20日、はしかけ活動紹介、三重県立博物館、三重県立博物館サポートスタッフ全体講演会、三重県総合文化センター（三重県津市）、講師。
- 2010年3月7日、博物館技のレッドカーペット、博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会、大津旧公会堂（大津市）、主催。

### 【企画調整活動】

- JICA 博物館学集中コース、プランクトンの模型をつくろう、講師、2010年6月28日、琵琶湖博物館。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

- 2010年度、博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会、実行委員。
- 2010年7月～9月、大阪市博物館協会、博物館評価検討スタッフ。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

黒岩啓子(2010)来館者調査による展示評価の試みー民博・アフリカ展示を事例として. *日本展示学会誌*, 48:126-127.  
黒岩啓子 (2010) 1) イギリスにおける教員のミュージアムリテラシー涵養活動 2) シンガポールの学校教育における博物館利用の状況 3) 博物館等における「教員のミュージアムリテラシー涵養活動」事例調査: 大阪市立科学館・伊丹市昆虫館・シンガポールサイエンスセンター・シンガポール動物園. *科学系博物館の学校利用促進方策調査研究報告: 教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発*, (財) 全国科学博物館振興財団: 16-17, 26-27, 50-51, 58-59, 64-65, 66-67.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

黒岩啓子 (2010 年 6 月 19 日) 来館者調査による展示評価の試みー民博・アフリカ展示を事例として. 日本展示学会, 国立民族学博物館, [口頭発表].  
坂本 昇・中脇健児・角正美雪・黒岩啓子 (2010 年 6 月 19 日) まちぐるみで‘秋’を楽しむー地域・施設との連携事業‘鳴く虫と郷町’. 日本展示学会, 国立民族学博物館, [ポスター発表].  
黒岩啓子 (2010 年 8 月 10 日) 中東社会における博物館と人材育成. 関西博物館研究会, 大阪市立生涯学習センター, [口頭発表].  
黒岩啓子 (2010 年 8 月 21 日) 地域連携のためのミュージアムリテラシーに関する考察. 日本ミュージアム・マネジメント学会基礎部門研究部会平成22年度第1回研究発表会, 大妻女子大学生活科学資料館, [口頭発表].  
黒岩啓子 (2010 年 11 月 19 日) 展示企画過程と展示見学補助ツール開発のあり方について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館(草津市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金(基盤 C)「来館者同士のコミュニケーションを誘発する展示見学補助ツールの実践的研究」(研究代表者: 黒岩啓子), 研究代表者 (2009~2011 年度).  
新技術振興渡辺記念会委託調査・研究事業「科学系博物館の学校利用促進方策ー教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発」(研究代表者: 高安礼士), 調査研究委員 (2009~2010 年 10 月).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ミュージアム・マネジメント学会, 基礎部門研究部会幹事.  
日本ミュージアム・マネジメント学会, 近畿支部幹事.

## 博物館事業に関する業績

### 【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース, Museum Evaluation Methods, Evaluation of the LBM, 講師, 2010 年 6 月 15 日, 琵琶湖博物館.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

2009年10月～2010年3月，JICA大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト，JICA調査団員，エジプト国内の遺跡、収蔵庫、ラボにおける保存修復活動および博物館における展示のあり方について調査。

2010年4月～9月，国立民族学博物館本館展示新構築プロジェクト，展示設計業務プロジェクトメンバー。

2010年10月3日～10月6日，シンガポール動物園・シンガポールサイエンスセンター視察調査，新技術振興渡辺記念会委託調査・研究事業「科学系博物館の学校利用促進方策－教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発」調査研究委員，シンガポールの学校教育における博物館利用の状況について調査。

2010年11月～12月，国立民族学博物館特別展「ウメサオタダオ」展企画設計コンペ，企画設計チームメンバー。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

鈴木隆仁・常木和日子・古屋秀隆（2010年6月6日）琵琶湖から発見した新種イタチムシ2種の報告. 第46回日本動物分類学会東京大会, 国立科学博物館分館（東京都）, [ポスター発表].

鈴木隆仁・常木和日子・古屋秀隆（2010年9月23日）淡水産イタチムシ類の培養法. 第81回日本動物学会東京大会, 東京大学駒場キャンパス（東京都）, [口頭発表].

鈴木隆仁（2010年12月19日）日本の淡水イタチムシ相. 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館（草津市）, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的多様性の探査:分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者:マーク ジョセフ グライガー), 共同研究者 (2009~2010年度).

環境省委託研究「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案. 2. 小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」(研究代表者:夏原由博), 協力者 (2009~2011年度).

## 博物館事業に関する業績

### メディアへの協力

2011年3月8日, 京都新聞, イタチムシ、4新種?発見 琵琶博研究員, (2011年3月4日取材対応).

2011年5月14日, 読売新聞, イタチムシ4種新種か, (2011年3月11日取材対応).

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

中井大介・大塚泰介・北村美香（2010）環境学習プログラム「目指せ、珪藻マスター～ケイソウゲットだぜ！～」を実施して. *Diatom*, 26, 日本珪藻学会：51.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中井大介（2010年4月16日）珪藻を用いた体験学習プログラム実施について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館（草津市）, [口頭発表].

中井大介・北村美香・大塚泰介（2010年5月8日）珪藻マスター「珪藻、ゲットだぜ！」. 第31回研究会シンポジウム「珪藻と教育」－その魅力、課題、そして可能性－, 日本珪藻学会, 東京学芸大学（東京都小金井市）, [口頭発表].

大塚泰介・中井大介（2011年2月18日）ヨシの茎上で付着珪藻がつくり出すバイオフィルムの構造とそのはたらき. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館（草津市）, [口頭発表].

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

2010年, たんさいぼうの会総会, 4回開催, 琵琶湖博物館・草津市, 運営補助.

2010年12月5日, たんさいぼうの会大戸川調査, 調査補助.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2010年5月1日, みんなで釣り体験“琵琶湖のさかな?”, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地志那-1公園（草津市）, 講師.

2010年5月3日, みんなで釣り体験“琵琶湖のさかな?”, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地南三ツ谷公園（彦根市）, 講師.

2010年5月25日, 田んぼに入ってお米の一生を学ぼう!“田植え編”, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 稲作体験圃場（近江八幡市）, 講師.

2010年7月17日, みんなで体験 有害外来魚釣り体験, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地木浜公園（守山市）, 講師補助.

2010年7月31日, 昆虫採集・観察会, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地衣川公園（大津市）, 講師補助.

2009年8月7日, 昆虫採集・観察会, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地曾根沼公園（彦根市）, 講師補助.

2009年8月28日, みんなで体験 有害外来魚釣り体験, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地曾根沼公園（彦根市）, 講師補助.

- 2010年9月11日，田んぼに入ってお米の一生を学ぼう！“稲刈り編”，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，稲作体験圃場（近江八幡市），講師。
- 2010年9月18日，秋の野草観察会“植物ビンゴ大会”，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地志那-1公園（草津市），講師。
- 2010年9月19日，秋の野草観察会“植物ビンゴ大会”，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地南三ツ谷公園（彦根市），講師。
- 2010年9月23日，田んぼに入ってお米の一生を学ぼう！“食べよう編”，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地衣川公園（大津市），講師補助。
- 2010年10月23日，ヨシで学ぶ琵琶湖の環境，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地南三ツ谷公園（彦根市），講師補助。
- 2010年11月13日，わんわんデジカメ教室 in 衣川公園，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地衣川公園（大津市），講師補助。
- 2010年12月7日，水環境観察会，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地柳川公園（彦根市），講師。

#### **メディアへの協力**

社研の窓，琵琶湖博物館はしかけ・フィールドレポーターについて，（2010年12月4日・5日取材対応）。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

中野正俊（2010）児童の科学的概念を討論で深める問題解決学習Ⅱ. 滋賀大学教育学部紀要Ⅰ 教育科学, 60, 滋賀大学教育学部：155-167.

中野正俊（2011）児童の科学的概念を討論で深める問題解決学習Ⅲ. 滋賀大学教育学部附属教育総合実践センター紀要, 39, 滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター：49-55.

### 【一般向けの著作】

中野正俊（2010）活用力を高め合う理科学習の創造. 教育短信 初等教育みずうみ, 139, 滋賀大学教育学部附属小学校：28-29.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中野正俊（2010年8月7日）児童の科学的概念を討論で深める問題解決学習 第4学年理科「水の変身：わき立つ大きな泡の正体をさぐれ」から. 第60回日本理科教育学会全国大会, 日本理科教育学会, 山梨県甲府市, [口頭発表].

中野正俊（2010年8月20日）児童の理科離れに対応する博物館と学校の連携. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

中野正俊（2010年10月22日）発見を共有し、考えを深め合う理科学習 「ものあたたまりかた」における判断力・表現力の育成. 第42回全国小学校理科研究大会石川大会, 石川県金沢市, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金（基盤 C）「児童の理科離れに対応する博・学・地域連携モデルの構築とその分析」（研究代表者：中野正俊）, 研究代表者（2009～2011年度）.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年度, 滋賀大学教育学部3回生, 「学校教育の実際」.

### 【受賞など】

東書教育賞入選, 2011年1月23日, 活動を高め合う小学校5学年理科「振り子の運動」学習.

## 印刷物

### 【学術論文】

- 水野敏明・大塚泰介・小川雅広・舟尾俊範・金尾滋史・前畑政善 (2010) 琵琶湖の水位変動とニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の水田地帯への産卵遡上行動の誘発要因. *保全生態学研究*, 15, 日本生態学会:211-217.
- 水野敏明・大塚泰介・金尾滋史・小川雅広・舟尾俊範・前畑政善 (2010) 水田地帯に遡上するニゴロブナの水路選択に関わる環境要因. *魚類学雑誌*, 57(2), 日本魚類学会:135-142.
- Nakajima, T., Nakajima, M., Mizuno, T., Sun, G. -P., He, S. -P. and Liu H. -Z. (2010) On the pharyngeal tooth remains of crucian and common carps from the Neolithic Tianluoshan site, Zhejiang Province, China, with remarks on the relationship between freshwater fishing and rice cultivation in the Neolithic age. *International Journal of Osteoarchaeology*, published online in Wiley Online Library DOI ; 10.1002/oa.1206.
- 前畑政善・大塚泰介・水野敏明・金尾滋史 (2010) 水田で育ったニゴロブナ幼魚の水田内残存と脱出場所の選択性. *農業農村工学会論文集*, 267, 農業農村工学会:43-48.

## 研究活動に関する業績

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者:前畑政善), 共同研究者 (2007~2010年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本リスク研究学会, 選挙管理委員会委員, 2010年3月~2010年6月.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 他の博物館・機関等主催行事

- 2010年5月29日, 第1回芹川生き物観察会, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト自然観察会, ブリヂストン彦根工場 (滋賀県彦根市), 講師.
- 2010年6月26日, 第2回芹川生き物観察会, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト自然観察会, ブリヂストン彦根工場 (滋賀県彦根市), 講師.
- 2010年7月10日, 豊郷町吉田生き物観察会, 豊郷町吉田自治会, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト自然観察会地域支援, 豊郷町吉田 (滋賀県豊郷町), 講師.
- 2010年7月24日, 浅井町八島生き物観察会, 八島自治会, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト自然観察会地域支援, 浅井町八島 (滋賀県長浜市), 講師.
- 2010年7月24日, 虎姫町大寺生き物観察会, 虎姫町大寺自治会, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト自然観察会地域支援, 虎姫町大寺 (滋賀県長浜市), 講師.
- 2010年8月7日, 第3回芹川生き物観察会, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト, WWF・ブリヂストン

びわ湖生命の水プロジェクト自然観察会，ブリヂストン彦根工場（滋賀県彦根市），講師。

2010年8月21日，東近江市永源寺高野ビオトープ生き物観察会，WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト自然観察会地域支援，永源寺高野（滋賀県東近江市），講師。

2010年8月21日，甲良町在士生き物観察会，甲良町在士自治会，WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト自然観察会地域支援，甲良町在士（滋賀県犬上郡），講師。

#### **メディアへの協力**

フリーペーパー everblue，ブリヂストン彦根工場自然観察会について，（2010年6月28日取材対応）。

ゴム化学新聞社，ブリヂストン彦根工場自然観察会について，（2010年6月28日取材対応）。

## 印刷物

### 【学術論文】

閻 美芳(2010) 中国新農村建設にみる国家と農民の対話条件-天津市武清区 X 村における農村都市化の事例から-  
村落社会研究ジャーナル, 日本村落研究学会, 16 (2) : 8-19.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

閻 美芳 (2010年11月20日) 村落空間の再編による農村都市化への対応. 日本村落研究学会第58回大会,  
日本村落研究学会, 長野県上田市, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

環境省環境総合研究推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」  
(研究代表者: 夏原由博), 共同研究者 (2010年1月~2011年1月).

科学研究費補助金(基盤 B)「東アジアにおけるメガスポーツイベントと都市再編をめぐる比較社会学」(研究代表  
者: 大沼義彦), 共同研究者 (2010年7月~2011年3月).

## 印刷物

## 【学術論文】

- Zhu, W., Wan, L. and Zhao, L. (2010) Effect of nutrient level on phytoplankton community structure in different water bodies. *Journal of Environmental Sciences*, 22 : 32-39.
- Hua, G., Zhu, W., Zhao, L. and Zhang, Y. (2010) Applying solubilization treatment to reverse clogging in lab-scale vertical flow constructed wetlands. *Water Science and Technology*, 61 : 1479-1481.
- Hua, G.F., Zhu, W., Zhao, L.F., and Huang, J.Y. (2010) Clogging pattern in vertical flow constructed wetlands: Insight from a laboratory study. *Journal of hazardous materials*, 180 : 668-674.
- Hua, G.F. · Zhu, W. · Zhang, Y.H. (2010) A conceptual approach based on suspended solids to estimate clogging time in constructed wetlands. *Journal of Environmental Science and Health Part A*, 45 : 1519-1525.
- Xia, T. · Zhu, W. · Xin, P. · Li, L. (2010) Assessment of urban stream morphology: an integrated index and modelling system. *Environmental Monitoring and Assessment*, 167 : 447-460.
- Qu, Y., Zhu, W. · Li, L. and Xu, Z. (2010) Research on the feasibility of engineering application for solidified sludge landfill. *Journal of Environmental Science and Engineering*, 4 : 47-51.
- Wang, S., Zhang, C., Huang, Y., Liu, Q., Zhao, G. and Zhu, W. (2010) Study of diversification of water contents in dredged sediment storage yard. *Rock and Soil Mechanics*, 31, 2823-2828.
- Wei, X., Zhu, W., Zhao, L. and Chen, J. (2010) Effect of the carbon source of plant straw supplement in constructed artificial wetland on nitrogen removal. *Journal of Lake Sciences*, 22, 916-922.
- Wang, T., Zhu, W. and Li, L. (2010) Simulation on the hydrodynamic effects of *Microcystis aeruginosa* in different temperature conditions. *Journal of Lake Sciences*, 22 : 563-568.
- Gao, M., Zhu, W., Dong, C. and Zhao, L. (2010) Diurnal and spatial variations of pollutants in vertical flow constructed wetland. *Water Resources Protection*, 26 : 49-52.
- Yin, C., Zhang, C., Zhu, W., Wang, S. and Ohki, T. (2010) Natural Subsidence Study of Dredged Sediment Hydraulic Filling. *West-China Exploration Engineering*, 8 : 3-6.

## 研究活動に関する業績

## 【学会・研究会での発表】

- Han, Y., Zhu, W., Quanwei, L. and Zhong, X. (2010年) Study on the Influence of Mix Proportioning on Cemented Mortar Engineering Properties for Tail Void Grouting of Shield Tunnel. Proceedings of Sessions of GeoShanghai 2010 : Tunnels and Deep Excavations.
- Zhao, G., Zhu, W., Zhang, C. and Wang, S. (2010年) Assessment heavy metal pollution of reservoir sediments in DongGuan, China. Sixth International Congress on Environmental Geotechnics.
- Min, F., Zhu, W., Han, X. and Zhong, X. (2010年) The Effect of Clay Content on Filter-cake Formation in Highly Permeable Gravel. Proceedings of Sessions of GeoShanghai 2010 : Geoenvironmental Engineering and Geotechnics.
- Huang, Y., Zhu, W., Zhang, C. and Wang, S. (2010年) Experimental study on dredged material improvement for highway subgrade soil. Proceedings of Sessions of GeoShanghai 2010 : Paving Materials and Pavement Analysis.

- Zhao, G., Zhu, W., Li, L. and Zhang, C. (2010 年) pH Changes of Solidified Dredged Materials. Proceedings of Sessions of GeoShanghai 2010 : Geoenvironmental Engineering and Geotechnics.
- Hua, G.F., Zhu, W. and Zhao, Y.Q. (2010 年) Effect of substrate particle size on wastewater purification and clogging time in constructed wetland. 20th Irish Environmental Research fs colloquium.
- Dong, C. Zhu, W., Hua, G.F. and Huang, J. Y. (2010 年) Evaluation of diurnal dissolved oxygen as an indicator of biodegradable organic and nitrogen pollution in constructed wetlands. The 1st International Workshop on Construction, Environment, Transportation Conference.
- Wang, Y., Zhu, W., Xu, Z. and Li, L. (2011 年) Applying solubilization treatment on the cell water of sewage sludge. 2011 international conference on energy and environment.
- Chen, F., Zhu, W., Li, L. and Li, M., Luo, Y. and Lu, L. (2011 年) Variations of cellular nitrogen and phosphorus in microcystis during dense Water-bloom. 2011 international conference on energy and environment.

## 総合研究・共同研究による印刷物

- Blakemore, R. J. (2010) Unravelling some Kinki earthworms (Annelida: Oligochaeta: Megadrili: Megascolecidae) - Part II. *Opuscula Zoologica (Budapest)*, 41 (2), Department of Systematic Zoology and Ecology, Eötvös Loránd University : 191-206.
- Blakemore, R. J. and Kupriyanova, E. K. (2010) Unraveling some Kinki worms (Annelida: Oligochaeta: Megadrili: Moniligastridae) - Part I. *Opuscula Zoologica (Budapest)*, 41 (1), Department of Systematic Zoology and Ecology, Eötvös Loránd University : 3-18.
- Cheng, Y. -T., Nakazono, K., Lin, Y. K. and Chan, B. K. K. (2011) Cryptic diversity of the semi-terrestrial amphipod *Platorchestia japonica* (Tattersall, 1922) (Amphipoda; Talitrida: Talitridae) in Japan and Taiwan, with description of a new species. *Zootaxa*, 2787, Magnolia Press : 1-18.
- 藤井弘章 (2010) カワウとつきあう民俗技術—愛知県美浜町上野間・鶴の山の歴史民俗学的考察. *年報村落社会研究*, 46 : 45-72.
- Karanovic, T. and Abe, Y. (2011) [dated 2010] First record of the harpacticoid genus *Morariopsis* (Crustacea: Copepoda: Canthocamptidae) in Japan, and its zoogeographic implications. *Species Diversity*, 15 (3-4), 日本動物分類学会 : 185-208. [日本語の要旨 : タクサ 日本動物分類学会誌, 30, 日本動物分類学会 : 66.]
- Kobayashi, T. (2010) A systematic review of the genus *Tanypus* Meigen from Japan, with a description of *T. nakazatoi* sp. nov. (Diptera: Chironomidae: Tanypodinae). *Zootaxa*, 2644, Magnolia Press : 25-46.
- 前畑政善・大塚泰介・水野敏明・金尾滋史 (2010) 水田で育ったニゴロブナ幼魚の水田内残存と脱出場所の選択性. *農業農村工学会論文集*, 267, 農業農村工学会 : 43-48.
- 牧野厚史 (2010) 農山村の鳥獣被害に対する文化論的分析—村落研究からの提言. *年報村落社会研究*, 46 : 187-213.
- Makino, A. and Yang Ping (2010) Analysis Of The Social Conditions Conducive To Sustainable Organic Rice Farming Around Lake Biwa in Japan. *4th Asian Rural Sociology Association (ARSA) International Conference* : 284-296.
- 牧野厚史・楊 平 (2010) 東アジア湖沼の環境問題と住民—日本と中国における湖畔の村の環境問題—. *21世紀東アジア社会学*, 2 : 56-74.
- Masuda, F., Saito, Y. and Satoguchi, Y. (2010) Depositional environments and a paleogeographic position for the Pleistocene basal part of the Karasuma Deep Drilling Core from Lake Biwa, central Japan. *Quaternary Research (Daiyonki-Kenkyu)*, 49 : 121-131.
- 水野敏明・大塚泰介・小川雅広・舟尾俊範・金尾滋史・前畑政善 (2010) 琵琶湖の水位変動とニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の水田地帯への産卵遡上行動の誘発要因. *保全生態学研究*, 15, 日本生態学会 : 211-217.
- 水野敏明・大塚泰介・金尾滋史・小川雅広・舟尾俊範・前畑政善 (2010) 水田地帯に遡上するニゴロブナの水路選択に関わる環境要因. *魚類学雑誌*, 57(2), 日本魚類学会 : 135-142.
- Nunomura, N. (2011) A new species of the terrestrial isopod genus *Spherillo* (Crustacea: Isopoda: Armadillidae) from Kii Peninsula, Japan. *Bulletin of the Toyama Science Museum (富山市科学博物館研究報告)*, 34, 富山市科学博物館 : 67-71.
- 里口保文 (2010) 琵琶湖堆積物の長時間スケール層序と構造運動の復元. *第四紀研究*, 49 : 85-99.
- 里口保文・竹村恵二・公文富士夫・井内美郎・高原 光 (2010) 特集号「古環境変動の解明へ貢献する湖沼堆積物の役割」の趣旨. *第四紀研究*, 49 : 83-84.
- 島野智之 (2010) 界、ドメイン、そしてスーパーグループ—真核生物の高次分類に関する新しい概念—. *タクサ 日本動物分類学会誌*, 29, 日本動物分類学会 : 31-49.
- Shimazu, T., Urabe, M. and Grygier, M. J. (2011) Digeneans (Trematoda) parasitic in freshwater fishes (Osteichthyes) of the Lake Biwa basin in Shiga Prefecture, central Honshu, Japan. *National Museum of Nature and Science Monographs*, 43, 国立科学博物館 : 1-105.

- Timoshkin, O. A. (2011) [dated 2010-2011] The new genus *Morimiurella* (Neorhabdoceola, Kalyptorhynchia), established for deep water microturbellarians from Lake Biwa (Japan) with preliminary reconsideration of the taxonomic contents of the genus *Koinocystis* Meixner, 1924. In: Timoshkin, O. A. 編 *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area. In 2 volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2.* Nauka, Novosibirsk, 1514-1517, カラー図 1-8.
- Timoshkin, O. A., Grygier, M. J., Wada, E., Nakai, K., Nishino, M., Genkal, S. I., Biserov, V. I., Gagarin, V. G., Semernoy, V. P., Jankowski, A. W., Stepanjants, S. D., Tsalolikhin, S. Ya., Starobogatov, Ya. I., Alexeev, V. R., Tuzovskij, P. V., Okuneva, G. L., Sheveleva, N. G., Pomazkova, G. I., Arov, I. V., Mazepova, G. F., Janz, H., Obolkina, L. A., Chernyshev, A. V., Morino, H., Matsuda, M., Ohtsuka, T., Kawakatsu, M., Maehata, M., Masuda, Y., Faubel, A., Yahiro, K., Hirasawa, R., Tuji, A., Kusuoka, Y., Kameda, K., Ishida, T., Itoh, T., Ichise, S., Wakabayashi, T., Okubo, I., Seki, Sh., Nagasawa, K., Ogawa, K., Masunaga, K. & Gamo, J. (2011) [dated 2010-2011] Biodiversity of Lake Biwa: new discoveries and future potential. In: Timoshkin, O. A. 編 *Index of Animal Species Inhabiting Lake Baikal and its Catchment Area. In 2 volumes. Volume II. Basins and Channels in the South of East Siberia and North Mongolia. Book 2.* Nauka, Novosibirsk, 1439-1513, カラー図 1-27.
- Xu, L., Han, B. -P., Van Damme, K., Vierstraete, A., Vanfleteren, J. R. and Dumont, H. J. (2011) Biogeography and evolution of the Holarctic zooplankton genus *Leptodora* (Crustacea: Branchiopoda: Haplopoda). *Journal of Biogeography*, 38 (2), Wiley-Blackwell : 359-370.
- Yang, Ping (2010) Regional maintenance infrastructure of "waterside"-Preservation of living environment by boat dwellers and farmers of Jiang Nan riverside district in China -. *East Asian Sociology of the 21st Century. Japan-China Sociological Society*, 3 : 194-202.
- 楊 平・用田政晴 (2010) 名水百選認定と農村水環境の歴史的保全. *生活文化史*, 58 : 3-12.
- 楊 平・用田政晴 (2010) 水環境の歴史的保全を社会学から考えるー泉神社湧水ー. *佐加太*, 32 : 2-3.
- Yang, Ping and ZHU WEI (2010) The Environment Change and Landscape in Tai Lake, China. *Studies of Landscape History on East Asian Inlands Seas* : 33-40.

\*編集者注：著者の順番は、様々な分野で異なった様式があると思われるが、分野等は考慮せず、著者のアルファベット順に並べた。

## 2010 年度の研究活動をふり返って

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを研究の柱としてきた。特に、一昨年度から琵琶湖博物館が行う研究課題の内容、位置づけ、方法等の指針作成を作成し、学芸職員全員の科学研究費申請も目標に掲げてきた。

前者は、「琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性」としてとりまとめ、主に研究の領域、研究の体制、県の施策との関係、琵琶湖博物館での研究機能の4つの視点から検討を行い、さらに具体的な類例や方策、内容についての具体的検討を行い、「【参考】琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性（補足）」をとりまとめたところである。

また、後者の科学研究費については、都道府県立の博物館としては件数・金額とも2010年度は全国トップとなった。申請書類の内容精査を研究部が中心になって徹底的に行った結果であるが、一方で科研費の経理事務体制が未整備で実態に追いついていない。事務局を含めた体制の整備が望まれるところである。

今後とも全員申請と採択率の向上という目標に向かって行く必要があるが、ある程度の科研費が得られるようになった現在、採択率は当然のように高くはならない中、科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していきたい。

研究の発信は、途中集計ではあるが学术论文19件、専門分野の著述44件、一般向けの著述38件、学会発表は60件であり、学术论文は前年を数では下回った。こうした論文等による研究成果の発信数には、依然として個人差があるが、少なくとも研究成果の公表や活用はあらゆる媒体や方法を使って行っていきたいし、一昨年から継続している中日新聞連載コラム『湖岸より』や2010年度後半からはじめた毎日新聞連載コラム「ここだけの湖の話」などは、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えるまたとない機会であり、今後ともその充実を図っていきたい。

また、本年度は、一昨年度の新琵琶湖学入門セミナー、昨年度の新琵琶湖学専門セミナーに続き、新琵琶湖学創造セミナーと題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。博物館の閑散期にあたる1月から3月まで計6日間にわたって、内部・外部の講師による12本の発表を行う講座で、毎回多くの聴衆を集めるなど好評であった。今後、こうした人々が琵琶湖博物館を支える基礎単位となっていくと考えられ、「地域だれでも・どこでも博物館」を実現するためにも引き続き今後の研究成果公表等の企画が望まれる。

研究部長 用田 政晴

琵琶湖博物館業績目録 第 15 号

2010 年度

平成 23 年（2011 年）8 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

電話 077-568-4811(代)

# Performance Records of the Lake Biwa Museum

No. **15** Fiscal 2010



LAKE BIWA MUSEUM

滋賀県立  
琵琶湖博物館

〒525-0001 草津市下物町1091  
TEL.077-568-4811代 FAX.077-568-4850

LAKE BIWA MUSEUM  
1091 Oroshimo,Kusatsu,  
Shiga 525-0001,Japan